ISSN 0915－1613

年　報　25

２００８年度
（平成20年度）

２０１０．２

山梨県埋蔵文化財センター

年　報　25

２００８年度
（平成20年度）

２０１０．２

山梨県埋蔵文化財センター

序

この年報は平成20年度（2008）の当センターで実施した発掘調査、試掘調査、分布調査および資料普及事業に関する内容を報告するものです。

記録保存のための発掘調査は次のものがあります。リニア実験建設事業に伴う発掘調査として、竜安寺川西遺跡（笛吹市境川町前間田）があり、縄文時代前期、中期、弥生時代後期の住居跡と古墳１基などを調査しております。中丸遺跡（同）では古墳時代前期の住居跡、掘立柱建物跡などを調査し、三光遺跡（笛吹市八代町竹居）では縄文時代中期の住居跡や土坑、平安時代の住居跡等を調査しております。稲山遺跡（同）では縄文時代、古墳時代、中世、近世の遺構を検出していますが、中心は14～16世紀の中世の遺跡であります。

都留バイパス建設事業に伴う調査としては美通遺跡（都留市井倉）の発掘調査を行い、縄文時代早期、前期、中期の遺構を検出しました。特記されるのは猿橋溶岩流に近接して縄文時代中期末の敷石住居跡が発見されたことであり、この地域の縄文時代の遺構と溶岩流との関係の解明が待たれます。また、玉川金山遺跡（都留市玉川）の本格的整理と報告書刊行を行いました。

中部横断道関連事業としては青柳河岸（増穂町青柳）の本格的整理と報告書刊行を行い、新たに寺前遺跡の発掘調査を実施して、土坑、溝などを検出しております。

燃料電池研究棟建設に伴う発掘調査として八幡神社遺跡（甲府市宮前町）の調査を行い、縄文時代中期の包含層を中心として、土器、石器のほか土偶３点と黒曜石剥片を１万点以上検出しております。

整備に伴う発掘調査として県史跡甲府城跡の石垣修繕工事に伴う調査を継続的に実施しております。

分布調査箇所は31箇所を数えます。山梨県内中世寺院分布調査は５年目を向かえ、調査成果を報告書にまとめました。県内10箇所を発掘調査するとともに、2,913箇所を地図上に掲載しました。あわせてデータベースも作成し、2,819箇所のデータを収録しております。

市町村埋蔵文化財専門職員研修会は奈良大学名誉教授の水野正好先生をお迎えして「宗教遺跡の調査研究法－成果と課題－」と題する講演をしていただき、専門職員以外にも一般にも参加を呼びかけ、多数の聴講者の参加を得ました。

資料普及事業の対象者次の人数になります。出前支援事業801人　発掘体験セミナー151人、講座講演会1,143人、資料貸出723人、職場体験36人です。

当センターは調査研究、資料の保管・収蔵、資料普及等の事業を進めております。今後とも事業推進に邁進してまいりますので、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

2010年２月

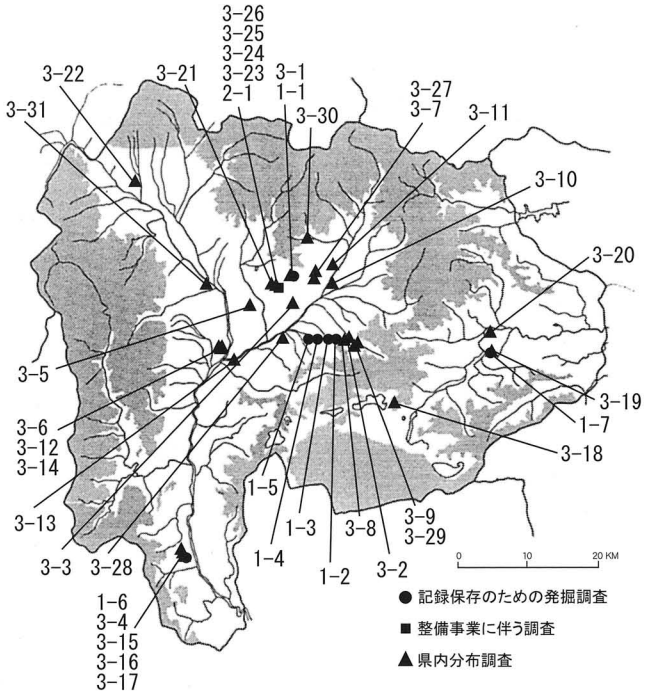
山梨県埋蔵文化財センター
所　長　小野　正文

目　次

序
凡例・職員組織
第Ⅰ章　2008年度の事業概要
1　発掘調査等 …… 1
2　整理作業 …… 1
3　資料普及事業 …… 2
4　収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧 …… 4
5　第21回市町村埋蔵文化財専門職員研修会 …… 7
6　遺跡調査発表会 …… 7
7　埋文シンポジウム …… 8
8　山梨の遺跡展2009 …… 9
9　埋文やまなし …… 9
10　県指定史跡甲府城跡活用事業 …… 10
11　遺跡データ管理（ＧＩＳ） …… 12
12　発掘・整理作業標準化に関する検討 …… 13
13　寄贈・購入図書 …… 13

第Ⅱ章　各遺跡の発掘調査等概要
1　記録保存のための発掘調査
1－1　八幡神社遺跡 …… 14
1－2　三光遺跡 …… 16
1－3　稲山遺跡 …… 18
1－4　竜安寺川西遺跡 …… 20
1－5　中丸・中丸東遺跡 …… 22
1－6　寺前遺跡 …… 24
1－7　美通遺跡（B区） …… 26
2　整備事業に伴う調査
2－1　県指定史跡甲府城跡 …… 28
3　県内分布調査 …… 30

第Ⅲ章　県内の概説
1　届出件数と内容 …… 49
2　発掘調査 …… 49
3　県指定文化財（考古資料）及び県指定史跡 …… 49
4　発掘調査の成果と保存整備事業 …… 49
5　発掘調査体制 …… 50
発掘届出件数・発掘調査件数の推移・2008年度県内発掘調査一覧表 …… 51～58



2008年度　発掘調査等遺跡位置図

凡　例

1　本書は、2008年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。

2　本書の編集は、高野・小林が行った。

3　2008年度の収蔵資料の貸出し及び掲載許可一覧、発掘調査一覧表は2009年3月末日現在で集計したものである。

4　第Ⅱ章各遺跡の発掘調査等概要における発掘調査面積の（　）内は、調査対象面積である。

5　左記の地図は、2008年度発掘調査遺跡の位置図である。なお、地図中の番号は、1頁の発掘調査の表に対応している。

2008（平成20）年度　職員組織

所長	新津　健
次長	渡辺晶夫
次長	小野正文
総務課長（兼）	渡辺晶夫
調査研究課長	小林広和

総務課	
主査	佐藤　浩
副主査	松尾秀樹
主事	浅川史郎

調査研究課　調査第一担当	
副主幹・文化財主事	高野玄明
主査・文化財主事	猪股一弘
主任・文化財主事	依田幸浩
非常勤嘱託	小澤美和子

資料普及課　資料第一担当	
副主幹・文化財主事	山本茂樹
主任・文化財主事	小林孝子
主任・文化財主事	網倉邦生
主任（事）（兼）	中山尚行
非常勤嘱託	長田隆志

調査研究課　調査第二担当	
主査・文化財主事	吉岡弘樹
副主査・文化財主事	野代幸和
主任・文化財主事	輿石逸子
非常勤嘱託	上原健弥

資料普及課　資料第二担当	
主査・文化財主事	保坂和博
副主査・文化財主事	笠原みゆき
主任・文化財主事	野代恵子
非常勤嘱託	大木丈夫
臨時職員	古郡雅子

調査研究課　調査第三担当	
主査・文化財主事	三田村美彦
副主査・文化財主事	田口明子
主任・文化財主事	堀込紀行
非常勤嘱託	正木季洋

第Ⅰ章　2008年度の事業概要

1　発掘調査等

2008年度の発掘調査等は、以下のとおりである。各遺跡の概要は、第Ⅱ章で述べることとする。

1）記録保存のための発掘調査

番号	調　査　名　他	番号	調　査　名　他
1－1	八幡神社遺跡（燃料電池研究開発関連事業）	1－5	中丸・中丸東遺跡（山梨リニア実験線建設事業）
1－2	三光遺跡（山梨リニア実験線建設事業）	1－6	寺前遺跡（中部横断自動車道南部インター建設事業）
1－3	稲山遺跡（山梨リニア実験線建設事業）	1－7	美通遺跡（国道139号都留バイパス建設事業）
1－4	竜安寺川西遺跡（山梨リニア実験線建設事業）		

2）整備事業に伴う調査

番号	調　査　名　他
2－1	県指定史跡　甲府城跡

3）県内分布調査

番号	調　査　名　他	番号	調　査　名　他
3－1	燃料電池研究開発関連事業に伴う試掘調査（八幡神社遺跡）	3－17	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（南部町慈眼寺裏）
3－2	山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業に伴う試掘調査	3－18	吉田河口湖バイパス建設事業に伴う試掘調査（滝沢遺跡）
3－3	平等川河川改修事業に伴う試掘調査（堤防遺跡推定地:七沢の渡し場）	3－19	都留バイパス建設事業に伴う試掘調査（美通遺跡）
3－4	中部横断自動車道建設に伴う試掘調査（南部IC）（寺前遺跡・清水原遺跡）	3－20	県立都留高等学校トレーニングセンター、屋内練習場建設工事に伴う試掘調査（大月遺跡）
3－5	一般国道52号（上石田）改良に伴う試掘調査	3－21	甲府地方検察庁新営庁舎建設に伴う試掘調査（甲府城下町遺跡・微典館跡地）
3－6	中部横断自動車道建設（増穂IC）に伴う試掘調査	3－22	専門学校農業大学校建替事業に伴う試掘調査
3－7	かえで支援学校車庫棟新築事業に伴う試掘調査	3－23	県庁舎耐震化等事業に伴う確認調査（甲府城跡）
3－8	山梨リニア実験線建設（工事用道路）に伴う試掘調査（笛吹市御坂町竹居）	3－24	県庁駐輪場屋根設置工事に伴う立会調査（甲府城跡）
3－9	山梨リニア実験線建設（工事用道路・作業ヤード）に伴う試掘調査（笛吹市御坂町上黒駒）	3－25	甲府城内ガス管敷設工事事業に伴う立会調査（甲府城跡）
3－10	峡東第四総合学科高校建設事業に伴う試掘調査（石和高校周辺遺跡）	3－26	甲府駅北口交番解体事業に伴う立会調査（甲府城跡）
3－11	平等川河川改修事業に伴う試掘調査（大侭遺跡・法雲寺橋遺跡）	3－27	かえで支援学校車庫基礎撤去事業に伴う立会調査（甲府市）
3－12	防災ステーション建設事業に伴う試掘調査（青柳遺跡橋）	3－28	甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園整備事業に伴う立会調査（甲府市）
3－13	中部横断自動車道（八之尻トンネル）建設事業に伴う試掘調査（谷津遺跡）	3－29	山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業に伴う立会調査（御坂町上黒駒）
3－14	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（増穂町青柳）	3－30	赤芝川河川改修事業に伴う立会調査
3－15	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（原間遺跡）	3－31	御座田三番堤補修事業に伴う立会調査（御座田三番堤）
3－16	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（大神遺跡）		

2　整理作業

2008年度の整理作業は、以下のとおりである。

1）基礎的整理作業

番号	遺　跡　名
1	八幡神社遺跡
2	三光遺跡
3	稲山遺跡
4	竜安寺川西遺跡
5	中丸・中丸東遺跡
6	美通遺跡

2）本格的整理作業

番号	遺　跡　名
1	青柳河岸跡
2	山梨県内中世寺院分布調査
3	玉川金山遺跡
4	寺前遺跡
5	県指定史跡甲府城跡　平成20年度調査・整備
6	山梨県内分布調査

3）報告書刊行一覧

番号	報　告　書　名
第259集	青柳河岸跡
第260集	山梨県内中世寺院分布調査報告書
第261集	玉川金山遺跡
第262集	県指定史跡甲府城跡　平成20年度調査・整備報告書
第263集	山梨県内分布調査報告書

3　資料普及事業

今年度に実施した事業は、県内の小中学校へ土器作りなどについて指導に行く「出前支援事業」、中高生を発掘調査や整理作業の現場に受け入れる「職場体験」、様々な研修会などにおいて埋蔵文化財調査の成果等を報告する「講師派遣」などが挙げられる。これらの事業は外部機関の要請に応じて行ったが、発掘調査現場で実際に発掘を体験する「発掘体験セミナー」や学校の教職員を対象として、埋蔵文化財の学習を広めるための指導者を育成することを目的とした「先生のための文化財支援講座」、埋蔵文化財センターシンポジウム「小江戸の賑わい～甲府城下町を考える」を実施した。これらの事業以外にも、遺物貸出キット・火おこしセット・映像ライブラリーの貸出も行った。

文化庁の補助金（埋蔵文化財保存活用整備事業費）をもとにした埋蔵文化財学習活用事業では、学校教育等で幅広く活用するために、奈良時代～室町時代の土器164点を補修し、これを広報するためのパンフレット『見る！触る！学ぶ！－奈良時代から室町時代までの土器編－』を作成した。他に印刷物として、授業を支援することを目的とし、旧石器時代～江戸時代までを対象とした計８枚のポスター（学習シート『やまなし時代早見表』）を製作し、学校などの教育機関に配布した。また、埋蔵文化財学習活用事業に伴うイベントとしては、児童・生徒を対象とした「体験！とってもむかしのごはん」と教職員や専門職員を対象とした「体験！むかしのくらし」を開催した。参加した人数などは表の通りである。

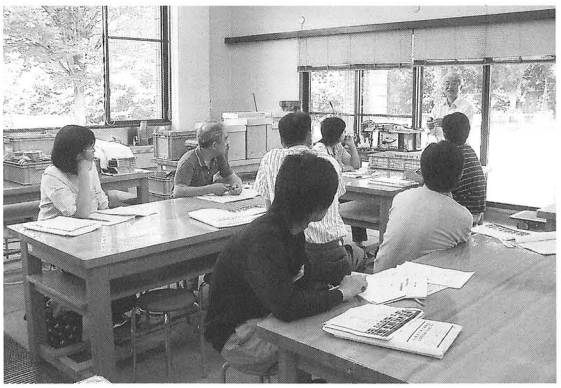
大石小学校　土器作り

富河小学校　土器焼き

竜安寺川西遺跡　発掘体験セミナー

甲府城跡　詰め石体験

上半期遺跡調査発表会



先生のための文化財活用支援講座

普及事業集計表

月	学校への出前支援事業	人数	月	講座・講演	人数	月	遺物など貸出・利用	人数	月	発掘体験セミナー	人数	月	職場体験受入	人数
5	境川小/講座「昔の生活」と火おこし体験	61	5	「甲府城御案内仕隊」養成講座	35	4	東高/遺物貸出キット	40	7	竜安寺川西遺跡(笛吹市)	19	7	職場体験/中富中	2
5	富士豊茂小/土器作り	10	5	塩山高校講座「地域の文化財」	17	4	富士豊茂小/映像ライブラリー	11	7	竜安寺川西遺跡(笛吹市)	5	7	職場体験/英和中	3
6	富士豊茂小/土器焼き	10	5	「甲府城御案内仕隊」養成講座	35	5	南アルプス市小笠原小/火おこしセット	101	8	竜安寺川西遺跡(笛吹市)	16	7	職場体験/英和中	3
6	南アルプス市落合小/土器作り	33	6	ことぶき勧学院甲府学園「古代の甲斐」	46	5	中央高/土器・映像ライブラリー	24	8	竜安寺川西遺跡(笛吹市)	0	7	職場体験/白根高	5
6	身延町大河内小/土器作り	18	6	ことぶき勧学院南巨摩学園「古代の甲斐」	22	5	釈迦堂博物館/火おこしセット	23	8	三光遺跡(笛吹市)	11	8	職場体験/城南中	3
6	南部町富河小/土器作り	20	6	ことぶき勧学院西八代学園「古代の甲斐」	28	5	大河内小/映像ライブラリー	18	8	三光遺跡(笛吹市)	7	8	職場体験/城南中	3
6	上野原市立平和中/土器作り	21	6	ことぶき勧学院南都留学園「古代の甲斐」	42	6	南部町富河小/映像ライブラリー	20	8	三光遺跡(笛吹市)	6	11	職場体験/武川中	5
6	北杜市武川中/火おこし・土器などの説明	25	7	ことぶき勧学院北巨摩学園「古代の甲斐」	35	6	富河小/映像ライブラリー	20	8	三光遺跡(笛吹市)	17	11	職場体験/笛南中	10
7	南部町富河小/土器焼き	20	7	先生のための埋蔵文化財活用講座第1回	7	6	平和中/映像ライブラリー	22	11	甲府城詰め石体験(甲府市)	14	1	職場体験/わかば支援	1
7	身延町大河内小/土器焼き	18	8	先生のための埋蔵文化財活用講座第2回	6	6	三冨小/映像ライブラリー	15	11	甲府城詰め石体験(甲府市)	12	2	職場体験/韮崎高	1
7	山梨市三富小/土器作り	15	8	体験「とっても昔のごはん」学習活用事業	66	6	中道北小/火おこしセット	32	11	甲府城探検(甲府市)	44			
7	富士河口湖町大石小/土器作り	24	8	大国小学校「むかしむかしのやまなし」	52	6	大石小/映像ライブラリー	24						
7	富士河口湖町大石小/土器焼き	24	8	ことぶき勧学院中巨摩学園「古代の甲斐」	53	6	武川中/火おこしセット	25						
7	上野原市立平和中/土器焼き	21	10	ことぶき勧学院北都留学園「古代の甲斐」	41	7	富士豊茂小/火おこしセット	34						
7	山梨市三富小/土器焼き	15	10	2007年度上半期遺跡調査発表会	70	7	牧丘第二小/映像ライブラリー	20						
7	牧丘第二小/土器作り	20	11	埋文シンポ第1回	86	7	山梨英和中・高/映像ライブラリー	1						
8	鰍沢町教委/土器作り	11	11	埋文シンポ第2回	82	7	山梨北中/映像ライブラリー	2						
8	牧丘第二小/土器焼き	20	11	埋文シンポ第3回	94	7	あけぼの支援/映像ライブラリー	5						
8	鰍沢町教委/土器焼き	11	11	埋文シンポ第4回	73	8	山梨英和中・高/遺物貸出キット	14						
9	北杜市泉小/火おこし体験	44	12	埋文シンポ特別講演・パネルディスカッション	74	9	精進小/映像ライブラリー	9						
10	精進小/土器作り	9	12	ことぶき勧学院東八代学園「古代の甲斐」	28	9	一宮西小/映像ライブラリー	62						
10	一宮西小/土器作り	62	1	峡南地区文化財研修会	50	9	春日居中/遺物貸出キット	64						
10	精進小/土器焼き	9	3	埋文活用公開講座「体験!むかしのくらし」	31	10	豊岡小/映像ライブラリー	9						
10	甲府市立羽黒小/火おこし体験	20	3	2008年度下半期遺跡調査発表会	90	10	東京都教育委員会/遺物貸出キット	8						
10	一宮西小/土器焼き	62				11	田富小/映像ライブラリー	94						
11	身延町豊岡小/土器作り	8				12	長野市埋文センター/映像ライブラリー	10						
11	身延町豊岡小/土器焼き	8				12	伊東市埋文センター/映像ライブラリー	10						
12	田富小/土器作り	91				12	市原市埋文センター/映像ライブラリー	10						
1	田富小/土器焼き	91				1	ゆずりはら自然の里/映像ライブラリー	3						
	29件	801		24件	1163		29件	730		11件	151		10件	36

人数総計　2,881人　　件数総計　103件

4　収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧

収蔵資料貸出許可一覧

番号	貸出期間	申　請　者	利　用　目　的	申　請　物　件　名	
1	4.4～7.13	北杜市教育委員会	北杜市長坂郷土資料館第19回企画展「北杜の農～米作りの道具と技術～」に展示のため	上平出遺跡	鉄製鋤先１点
2	4.15～8.31	山梨県立博物館	山梨県における人と牛馬の関わり史の動物考古学的研究のため	大師東丹保遺跡	動物遺体80点
				二本柳遺跡	動物遺体50点
				百々遺跡	動物遺体70点
3	5.1～H21.1.31	財団法人　武田信玄公宝物館	企画展「甲斐国主－柳沢吉保・吉里－」に展示のため	甲府城跡	軒丸瓦１点
					軒平瓦３点
					花菱紋釘隠２点
4	5.20～7.4	東京大学新領域創成科学研究所　覚張隆史	「中世在来馬の遺伝学および地球化学による移動経緯の研究」における分析のため	大師東丹保遺跡	動物遺体50点
				二本柳遺跡	動物遺体50点
				百々遺跡	動物遺体50点
5	6.19～9.12	山梨県立博物館	夏季企画展「文化財をまもる・しらべる・つたえる」に展示するため	二ツ塚１号墳	鉄製品７点
				二ツ塚１号墳	耳環５点
				双葉２号墳	直刀１点
				竜王２・３号墳	銅製品36点
				平田宮第２遺跡	井戸枠３点
				大師東丹保遺跡	木柱１点
6	8.29～12.19	山梨県立博物館	秋季企画展「甲州食べもの紀行」に展示のため	酒呑場遺跡	縄文土器１点
				中谷遺跡	縄文土器片２点
				金生遺跡	動物遺体30点
				二之宮・姥塚遺跡	土師器６点
				大師東丹保遺跡	種実類10点
				二本柳遺跡	石製品６点
					土師質土器１点
				桜井畑遺跡	土師質土器１点
				甲府城下町遺跡	動物遺体20点
				米倉山Ｂ遺跡	人骨３点
				鰍沢河岸跡	動物遺体50点
7	9.25～11.30	横浜市歴史博物館	特別展「縄文文化円熟」に展示のため	金生遺跡	イノシシ下顎骨11点
					縄文土器14点
					土製耳飾13点
					土偶５点
					土製品１点
					石製品18点
8	10.2～H21.2.27	北杜市教育委員会	北杜市長坂郷土資料館第21回企画展「ダムに沈んだムラのこと」に展示のため	塩川遺跡	縄文土器片18点
					縄文土器２点
					土偶１点
					耳飾２点
					土師器３点
					土師質土器２点
					陶磁器片15点
					陶磁器７点
					石製品11点
					土製品３点
					銅製品10点
					木製品２点
					陶製品１点
					銭貨40点
9	10.6～12.19	釈迦堂遺跡博物館	第20回特別展「縄文　華麗なる美の競演」に展示のため	上野原遺跡	縄文土器１点
				甲ッ原遺跡	縄文土器１点
				酒呑場遺跡	縄文土器３点
				村上遺跡	縄文土器１点
				一の沢遺跡	縄文土器１点
10	H21.3.20～6.3	釈迦堂遺跡博物館	企画展「彩りと飾り－時代のなかの色と飾り」に展示のため	花鳥山遺跡	ボタン状貝製品１点
				天神遺跡	ヒスイ製大珠１点
					縄文土器１点
				酒呑場遺跡	縄文土器３点
					土偶１点
				甲ッ原遺跡	縄文土器２点
					コハク丸玉６点
				一の沢遺跡	縄文土器１点
				中谷遺跡	土偶（複製）1点
				金生遺跡	耳飾６点
					玉類３点

写真資料の貸出並びに掲載許可一覧

番号	申請日	申　請　者	利　用　目　的	申　請　物　件　名	
1	4月13日	株式会社　碧水社	『決定版　図説よみがえる名城　豊臣系の城』に掲載のため	甲府城跡	復元模型１点
2	5月16日	株式会社　ＮＨＫプロモーション	「KAZARI」展オリジナルグッズ（ポストカード）に掲載のため	殿林遺跡	縄文土器１点
3	6月５日	社団法人　日本工芸会近畿支部	パンフレット『美しいものをつくりたい』に掲載のため	天神遺跡	ヒスイ製大珠１点
4	6月11日	山梨県立博物館	夏季企画展「文化財をまもる・しらべる・つたえる」関連印刷物等に掲載のため	二ツ塚１号墳	鉄製品集合１点
					銅製品集合１点
				双葉２号墳	鉄製品１点
				竜王２・３号墳	銅製品集合１点
				平田宮第２遺跡	井戸枠１点
				大師東丹保遺跡	木柱１点
5	6月13日	株式会社　悠工房	『最新全国高校入試精選問題集』に展示のため	銚子塚古墳	航空写真１点
6	6月19日	長野県埋蔵文化財センター	「長野県埋蔵文化財センター速報展2008」に掲載のため	温湯遺跡	土師器１点
				北堀遺跡	土師器１点
7	7月22日	山梨日日新聞社	山梨日日新聞「山日高校入試実践教室」に掲載のため	銚子塚古墳	航空写真１点
8	7月30日	株式会社　三推社	『月刊フェネック』９月号に掲載のため	考古博物館	外観写真１点
				殿林遺跡	深鉢形土器１点
				安道寺遺跡	深鉢形土器１点
9	8月５日	財団法人　竹中大工道具館	企画展「伐～木を伐る技」図録に掲載のため	銚子塚古墳報告書掲載	木楔・木槌１点
					荒割り状況写真１点
10	8月12日	横浜市歴史博物館	特別展「縄文文化円熟」関連印刷物等に掲載のため	金生遺跡	住居跡１点
					配石遺構４点
					土坑１点
					イノシシ下顎骨集合１点
11	8月９日	大阪府立近つ飛鳥博物館	特別展「考古学からみた古代の女性」関連印刷物等に掲載のため	御所前遺跡	縄文土器２点
12	8月18日	山梨県立博物館	秋季企画展「甲州たべもの紀行」関連印刷物等に掲載のため	酒呑場遺跡	縄文土器１点
				中谷遺跡	縄文土器片２点
				金生遺跡	動物遺体集合１点
				二之宮・姥塚遺跡	土師器集合１点
				大師東丹保遺跡	種実類集合１点
				二本柳遺跡	石製品集合１点
				桜井畑遺跡	土師質土器１点
				甲府城下町遺跡	動物遺体集合１点
				米倉山Ｂ遺跡	人骨３点
				鰍沢河岸跡	動物遺体集合１点
13	8月24日	ＮＰＯ法人つなぐ	『りてら』平成20年秋号に掲載のため	鰍沢河岸跡	ガラス瓶集合１点
					泥面子集合１点
					動物遺体集合１点
14	8月29日	秦野市立桜土手古墳展示館	特別展「古の農」に掲載のため	酒呑場遺跡	縄文土器１点
15	8月31日	釈迦堂遺跡博物館	特別展「縄文 華麗なる美の競演」関連印刷物等に掲載のため	上野原遺跡	縄文土器１点
				甲ッ原遺跡	縄文土器１点
				酒呑場遺跡	縄文土器３点
				村上遺跡	縄文土器１点
				一の沢遺跡	縄文土器１点
				安道寺遺跡	縄文土器１点
16	9月２日	横浜市歴史博物館	特別展「縄文文化円熟」関連印刷物等に掲載のため	塩瀬下原遺跡	敷石住居航空写真２点
17	9月14日	雨宮加代子	サイバー大学コミュニティーサイトに掲載するため	大丸山古墳	短甲１点
				銚子塚古墳	三角縁神獣鏡１点
				かんかん塚（茶塚）古墳	馬具１点
18	9月24日	山梨日日新聞社メディア企画局出版部	山梨日日新聞「山日こどもウィークリー」、『山梨遺跡ガイド』（仮称）に掲載のため	横針前久保遺跡	航空写真１点
					遺跡近景１点
				釈迦堂遺跡	遺跡近景１点
					土偶集合１点
					縄文土器１点
				金生遺跡	土偶１点
					耳飾り集合１点
				銚子塚古墳附丸山塚古墳	航空写真１点
				銚子塚古墳	木製品出土状況１点
					埴輪集合１点

番号	申請日	申　請　者	利　用　目　的	申　請　物　件　名	
				四ツ塚古墳群	発掘状況１点
					副葬品集合１点
				経塚古墳	復元写真１点
19	９月25日	株式会社　オメガ社	『やきものの楽しみ方完全ガイド』に掲載のため	殿林遺跡	縄文土器１点
20	９月26日	有限会社　キックオフプラス	『資料・日本の遺跡と遺産　第２巻　古墳』に掲載のため	銚子塚古墳	航空写真１点
					木製品１点
21	10月16日	山梨日日新聞社メディア企画局出版部	山梨日日新聞「山日こどもウィークリー」、『山梨遺跡ガイド』（仮称）に掲載のため	丸山塚古墳	近景１点
					石室内１点
22	11月14日	集英社	『エクラ』２月号に掲載のため	殿林遺跡	縄文土器１点
				安道寺遺跡	縄文土器１点
23	11月22日	富士見市立水子貝塚資料館	企画展『富士見に海が来た頃』展示図録に掲載のため	中込遺跡	縄文土器１点
				塩川遺跡	縄文土器１点
24	12月９日	株式会社　新人物往来社	『山梨県の不思議事典』に掲載のため	銚子塚古墳	航空写真１点
				上の平遺跡	航空写真１点
				釈迦堂遺跡	土偶集合写真１点
				一の沢遺跡	縄文土器１点
25	12月17日	株式会社　新人物往来社	『山梨県の不思議事典』に掲載のため	金生遺跡	配石遺構１点
26	１月20日	山梨県立博物館	新指定文化財展「甲斐の国のたからもの」における映像に掲載のため	岡遺跡	容器形土偶１点
27	２月５日	鈴木素行	『茨城県考古学協会誌』第21号に掲載のため	金生遺跡	配石遺構１点
28	２月10日	甲府市長	『広報こうふ』３月号に掲載のため	相川出土	ナウマンゾウ臼歯１点
				考古博物館	ナウマンゾウ復元模型
					写真１点
29	２月10日	山梨日日新聞社メディア企画局出版部	山梨日日新聞「山日こどもウィークリー」、『山梨遺跡ガイド』（仮称）に掲載のため	勝沼堰堤	航空写真１点
					近景２点
30	３月３日	セインズベリー日本藝術研究所	『Dogu:Ceramic Figures from Prehistoric Japan』に掲載のため	獅子之前遺跡	土偶集合１点
31	３月10日	株式会社　武揚堂	2010年「日本の城」カレンダーに掲載のため	甲府城跡	近景１点
32	３月10日	笛吹市教育委員会	『甲斐国千年の都 笛吹市』に掲載のため	亀甲塚古墳	盤龍鏡１点
				平林２号墳	馬具３点
				馬乗山古墳	航空写真１点
				牛居沢窯跡	近景１点
33	３月11日	南アルプス市教育委員会	埋蔵文化財普及用ウォーキングマップ「遺跡で散歩 vol.６」に掲載のため	二本柳遺跡	調査風景１点
					木製品出土状況１点
					銅製品１点
				油田遺跡	遺跡全景１点
					木製品出土状況１点
				向河原遺跡	水田跡全景１点
				大師東丹保遺跡	遺跡全景１点
					木製品出土状況３点
				宮沢中村遺跡	陶磁器集合１点
					建物跡１点
34	３月12日	釈迦堂遺跡博物館	企画展「彩りと飾り－時代のなかの色と飾り」関連印刷物等に掲載のため	花鳥山遺跡	ボタン状貝製品１点
				天神遺跡	ヒスイ製大珠１点
					縄文土器１点
				酒呑場遺跡	縄文土器３点
					土偶１点
				甲ッ原遺跡	縄文土器２点
					コハク丸玉６点
				一の沢遺跡	縄文土器１点
				中谷遺跡	土偶（複製）１点
				金生遺跡	耳飾６点
					玉類３点
35	３月14日	山梨日日新聞社メディア企画局出版部	山梨日日新聞「山日こどもウィークリー」、『山梨遺跡ガイド』（仮称）に掲載のため	加牟那塚古墳	全景１点
					近景２点
36	３月25日	株式会社　オメガ社	『結び方全書』に掲載のため	殿林遺跡	深鉢形土器１点

5　第21回市町村埋蔵文化財発掘調査担当者研修会

講演中の水野正好名誉教授

開催日時　2009年３月10日 13：30－16：00
会　　場　風土記の丘研修センター
講　　師　奈良大学名誉教授　水野正好

本研修会は、県内の埋蔵文化財担当者の資質向上と技術習得を目的として開催しているもので、今回で21回目を向かえた。また、昨年度より一般にも門戸を広げ、より多くの方々が埋蔵文化財への理解を深める機会としている。当初11月開催を予定していたが、諸般の事情により各市町村担当者が多忙な年度末の開催となってしまった。しかし、県内市町村からの参加は11名、一般参加等を含めると全体では54名の参加者を数え、昨年度と概ね同じ参加者数であった。

今回の研修会は、「宗教・信仰遺跡の調査方法と課題」と題して講演を頂いた。古代から近世までのお産、御祓い、禊ぎなどの宗教儀式を古文書や古絵図などから読み解き、それらの行為の結果残される考古学的物証と残されないものから、考古資料の解釈における注意点や限界について指摘を頂くなど、興味深いお話を伺うことができた。

6　遺跡調査発表会

遺跡調査発表会は、県内で当該年度に発掘調査された遺跡について、調査内容や成果を広く公表する場として上半期と下半期の年に２回開催している。開催は、山梨県考古学協会と共催で実施し、出土品や写真パネルのミニ展示も併設している。

○2008年度上半期遺跡調査発表会【参加人数約70名】
開催日時：2008年10月25日（土）午後１時30分～４時30分
開催会場：風土記の丘研修センター　講堂
発 表 1　山梨市 中久堰遺跡（発表者 帝京大学山梨文化財研究所 櫛原功一）
縄文時代後期の大型敷石住居跡が発見され、炉体土器直上から大型発砲粘土が出土した。
発 表 2　中央市 上窪遺跡（発表者 中央市教育委員会 今村直樹）
10世紀前半の墓跡から植物に包まれた遺体がクシと下駄の副葬品とともに発見された。
発 表 3　韮崎市 武田東畑遺跡（武田信義館跡）（発表者 韮崎市教育委員会 閏間俊明）
初代武田家「信義」の居館の一部が青磁・白磁などの貿易陶磁器とともに発見された。
発 表 4　富士河口湖町 富士山二合目御室浅間神社境内地内行者堂跡
（発表者 山梨県埋蔵文化財センター 石神孝子）
中世段階の行者堂に伴うと考えられる石列が発見された。
発 表 5　南アルプス市 御勅使川堤防址群（発表者 南アルプス市教育委員会 斎藤秀樹）
国指定史跡「将棋頭」から続く堤防が二本確認され、それぞれ別々の工法であることが明らかとなった。

○2008年度下半期遺跡調査発表会【参加人数約90名】
開催日時：2009年３月15日（日）午後１時～午後4時30分
開催会場：帝京大学山梨文化財研究所　大ホール
紙上報告　平成20年度の県内埋蔵文化財の調査と保護
（発表者 山梨県教育庁学術文化財課 今福利恵）
発 表 1　都留市 美通遺跡（発表者 山梨県埋蔵文化財センター 田口明子）
約8,000年前の富士山起源の猿橋溶岩を避けるように縄文時代中期の敷石住居跡が発見された。
発 表 2　富士吉田市 上暮地新屋敷遺跡（発表者 富士吉田市教育委員会 篠原武）

縄文時代早期の炉穴をはじめ県内では数少ない弥生時代中期の土器などが発見された。

発 表 3　北杜市 西ノ原B遺跡（発表者 北杜市教育委員会 佐野 隆）
八ヶ岳南麓では数少ない古墳時代初めの方形周溝墓などが発見された。

発 表 4　笛吹市 稲山遺跡（発表者 山梨県埋蔵文化財センター 小澤美和子）
縄文時代中期の集石土坑や中世の地下式土坑などが発見された。

発 表 5　甲府市 甲府城下町遺跡（発表者 帝京大学山梨文化財研究所 宮澤公雄）
溝内から16世紀後半に属する金や銅の溶融物付着土器が多数発見された。

7　埋蔵文化財シンポジウム

埋蔵文化財シンポジウムは、発掘調査で得られた資料を調査研究し、その成果を県民の方々にわかりやすく発表するものである。シンポジウムでは、発掘担当者以外にも関連分野の専門家を交えて多方面から検討を加え、シンポジウムのテーマをより深く掘り下げている。当埋蔵文化財センターでおこなう「遺跡調査発表会」や「山梨の遺跡展」は最新の発掘調査成果を速報的に発表する機会であるのに対して、この埋蔵文化財シンポジウムは、テーマを設定し、発掘資料をじっくりと調査研究した成果を発信するという位置づけにある。

平成20年度は、昨年度に引き続き生涯学習推進センターの「やまなし再発見講座」と連携して、「小江戸の賑わい～甲府城下町を考える～」と題して実施した。近年甲府城下町の発掘調査は進み、資料の蓄積は著しい。また県立博物館の展示では、考古学的手法を用いて甲府城下町の町並みをジオラマで復元するなど、城下町の研究は成果を上げている。さらに甲府市はかつて城下町時代に使用していた「通り」の名前を新たに復活させるなど、甲府城下町を意識した街づくりをおこなっていることなどから、発掘調査成果を再確認し、今後の街づくりにつなげていこうと企画し、それぞれの担当者に発掘調査や文献資料等による研究成果について、お話いただいた。講演の内容は次のとおりである。

日　時　平成20年11月５日（水）「甲府勤番士のくらしを中心に」～甲府城下町遺跡の発掘調査成果から～
県埋蔵文化財センター　吉岡弘樹
平成20年11月12日（水）「甲府城下町に暮らした人々」　甲府市教育委員会　志村憲一
平成20年11月19日（水）「甲斐府中城と城下町」　県埋蔵文化財センター　野代幸和
平成20年11月26日（水）「絵図を使ったジオラマ製作からわかった甲府城下町の姿」
県立博物館　髙橋　修

これらの講演は、山梨県生涯学習推進センター・セミナー室で、午後２時から４時の間におこなわれた。さらに、講演は各サテライトスクール（中北合同庁舎・東山梨合同庁舎・南巨摩合同庁舎・北都留合同庁舎）へ配信された。

上記の講演を受け、特別講演とパネルディスカッションを実施した。特別講演は、甲府城下町の都市形成についてお話いただいた。やまなし再発見講座での4回の講演とこの特別講演の内容をふまえて、パネルディスカッションを実施した。内容は以下のとおりである。

日　時　平成20年12月７日（日）
会　場　山梨県立男女共同参画推進センター「ぴゅあ総合」大研修室
日　程　13：30～13：35　開会挨拶
13：35～15：10　特別講演「都市遺産としての甲府城下町」
東京理科大学工学部建築科教授工学博士　伊藤裕久氏
15：10～15：20　休憩

15：20～16：30　パネルディスカッション
「小江戸甲府の賑わい～甲府城下町を考える～」
コーディネーター　山梨県埋蔵文化財センター所長　新津　健氏
パネラー　伊藤裕久・志村憲一・野代幸和・高橋修各氏
16：30～16：40　閉会

8　山梨の遺跡展2009

「山梨の遺跡展2009」は、2008年度中に県内各地で行われた発掘調査の成果、資料普及活動の様子などを広く一般に公開することと、いち早く県民に紹介することを目的として平成21年３月14日～４月５日まで県立考古博物館の多目的室で開催した。入場は無料とし、本年は武田関連城館跡の調査と展望コーナー併設した。

展示の内容は（１）当センターが発掘した遺跡の展示、（２）市教育委員会が発掘した遺跡の展示(武田関連城館跡の調査と展望コーナー)、（３）当センターの資料普及活動等の展示の３つである。

（１）ではリニア実験線建設に伴い調査した竜安寺川西遺跡等の縄文時代を中心とした土器や石器等の展示を行った。都留バイパス建設事業に伴い調査した美通遺跡では縄文後期の敷石住居跡の復元展示を行った。中世寺院分布調査では５年間の調査の成果をパネル展示し、甲府城跡では数寄屋曲輪の東面石垣の修繕の様子を紹介した。（２）では武田関連史跡の最新の調査と整備の展望を紹介した。山梨市の連方屋敷、韮崎市の武田信義館跡では貴重な輸入陶磁器、笛吹市の信虎誕生屋敷遺跡では17世紀の漆椀、韮崎市の新府城跡、甲府市の武田氏館跡では炭化材や釘、鋲等の遺物を展示した。また新府城の城下町の一部として注目される隠岐殿遺跡を紹介し、都留市の勝山城跡では平成17年度からの調査成果を紹介した。これらの展示においては実際に史跡に足を運んでいただけるよう、パンフレットやチラシで遺跡へのアクセスの紹介も行った。（３）では土器作りなどの体験学習を支援する出前支援事業、遺跡発見体験セミナーの様子などをパネルで紹介すると共に、埋蔵文化財活用事業の一環として、土器の貸出キットを展示した。これらの展示を通して、県民の皆様に埋蔵文化財への理解、郷土山梨への歴史認識を深めて頂くことができたと考えている。

9　埋文やまなし

・30号

本号では、今までの発掘調査で発見された木製品をとりあげ、「出土木製品からみる食生活」というテーマで特集した。油田遺跡・身洗沢遺跡からは、弥生時代の米づくりに関する木製品を紹介し、大師東丹保遺跡・甲府城下町遺跡では、生活用具についてふれ、出土は少ないものの、その出土品が持つ重要性を説明した。

・31号

本号では、埋蔵文化財学習活用事業で作成した貸出キット・埋文学習キットを紹介し、「埋蔵文化財をもっと活用しよう」というテーマで特集した。当センターでは、資料普及活用の一環として、発掘調査で発見された土器を修復して、学校などへ貸出をおこなっている。本物の土器に触れる機会を持つことで、子どもたちが文化財の大切さを学び、興味をもてるように、今年度の資料活用状況を写真で掲載した。

・32号

本号では、「平成20年度に発掘調査された山梨リニア実験線の下に眠る遺跡たち」と題し、今年度発掘調査さ

れた遺跡の中から、特に、山梨リニア実験線関係の遺跡を特集した。発掘担当者が、ピックアップしたその遺跡の目玉情報を分かりやすくまとめている。また、甲府城跡の成果として、金箔違鷹羽紋軒丸瓦の説明が整理室だよりとして掲載されている。

10　県指定史跡甲府城跡活用事業

県指定史跡甲府城跡は、都市公園舞鶴城公園という憩いの場として親しまれてきた。1990（平成２）年に県土木部により舞鶴城公園整備事業が着手され、また2004（平成16）年には稲荷櫓が完成し、史跡公園としての整備が一段落した。近年においては観光名所として県内外からの訪問者も多く、利活用に向けた検討の必要性も増している。そのような状況の中、出土資料の公開や甲府城のインフォメーションセンター的な要素を付け加えた内容で、稲荷櫓を活用して常設展示コーナーを設置し、「信玄公祭」に合わせた企画展示も行っている。しかし、現地に専門職員が常駐していないこともあり、所管する学術文化財課や調査を実施した当センター、資料を保管する考古博物館に多数の質問や依頼が寄せられるなど、一元的に対応できる機関の必要性も課題となっている。当センターでは甲府城に関わる様々な調査等を継続的に行ない、1590年代の築城以来400年以上の歴史を育んできた甲府城の正確な歴史や姿を知り、親しみを持ちながら次世代に伝えるように努めている。

甲府城跡保存活用等調査検討委員会

県教育委員会が主催する標記の委員会が平成17年度に発足し、甲府城に関わる建物像の検討や歴史史料の充実、整備事業など広範な検討を行っていくことを確認した。

委員会は第７回が2008（平成20）年４月18日（金）に開催され、出土瓦の調査成果について報告を行った。また京大所蔵の新発見絵図の紹介と調査報告、城内の歴史的建造物、保存管理計画に関する検討を行った。第８回は６月２日（月）に開催され、「調査研究報告書」の目次、内容、執筆分担に関する検討を行った。第９回は９月９日（火）に「調査研究報告書」の具体的な内容と保存管理計画の検討を行った。第10回は12月20日（土）に実施し、「調査研究報告書」の具体的な内容と保存管理計画の検討を行った。また本委員会に関係し、関連建物について検討を行うために現地調査を行った。また報告書作成に伴い、２月20日（金）に慶長院の調査を実施した。平成20年度は本委員会の最終年度にあたり、検討案件の報告書を刊行する予定である。

講演会等

観光振興課より依頼があり、観光ボランティアガイド「甲府城御案内仕隊」養成講座として、５月11日（日）に「甲府城発掘調査資料について」、５月25日（日）に「甲府城を取り巻く諸環境」に関わるテーマで講演を行った。周辺の文化財、城内踏査や常設展示等の紹介も合わせて実施し、情報の共有化を図ることに一役買った。

甲府城下を語る会より依頼があり、会員以外にも門戸を開いた「絵図から見た甲斐府中城－新発見史料等からの検討－」と題する講演を10月５日（日）に行った。近年の研究動向を盛り込んだ内容で実施したことから、参加者の興味関心も深く有意義な時間を提供できた。

生涯学習推進センターと当センター主催によるやまなし再発見講座＆埋蔵文化財シンポ「～小江戸甲府の賑わい～甲府城下町を考える」と題する講座を行い、発掘調査や絵図などから見た城下町のすがたと今後の活用方法などについて講演を行った。11月19日（水）に「甲斐府中城と城下町」を生涯学習推進センター・セミナー室、12月７日（日）に特別講演＆シンポジウムを男女共同参画推進センター・大研修室において実施した。参加者の興味関心も深く、最新の情報を提供することができた。

現地視察

2008（平成20）年11月10日（月）佐野市教育委員会・同文化財保護審議委員の視察があった。佐野市は唐沢山城跡の整備を予定しており、整備の課題や問題点などについて現地を踏査しながら意見交換を行った。

同日小諸市教育委員会の視察があった。高島城の整備を控え、整備の課題や問題点について現地を踏査しながら意見交換を行った。

11月28（金）山形市の視察があり、山形城跡の整備に向けた課題や問題点について現地を踏査しながら意見交

換を行った。

啓蒙普及活動等

甲府城稲荷櫓において「甲府城発掘展－出土瓦のひみつ」と題して、４月４日（金）から13日（日）に特別展示を実施。出土瓦種類やその分布から建物像を検証。築城期における主郭部の建物の存在や分布を裏付ける素材を提供。観光キャンペーンと重なったことから前年度同様に開館時間を午後８時まで延長して対応を行なった。

また、埋蔵文化財としての甲府城跡や石垣補修工事について、その目的や意義、歴史や伝統的な石工技術に対する理解を深めてもらうために、一般を対象にした石割・詰石体験や見所ツアーを開催した。また石割・詰石体験事業については、公共事業のイメージアップの一環として県土整備部・施工業者と協力して実施したもので、見所ツアーと同様に埋蔵文化財センター発掘体験セミナーの一事業として実施した。内容は以下のとおりである。

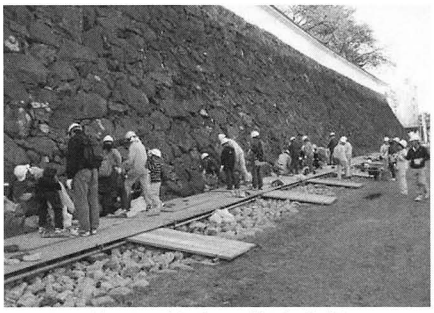
平成20年11月１日（土）10：00～12：00、13：30～15：30の二回「甲府城の石垣で詰石に挑戦！－文化財をみんなの手で守ろう－」と題して、石垣の石材を作る作業の一環としての「石割」や、石肌の面を調整する「ハツリ」、また実際に石垣の修繕工事で実施している「詰石」といった石工技術の体験学習を行った。準備段階から当日の体験まで、熟練した石工職人や工事関係者の協力を得ながら、現代の石割技術のデモンストレーションをはじめ、実技指導など幅広くご指導頂いた。当日は28名の親子が参加し、実体験をとおして楽しく学ぶ機会を提供した。子供たちには参加賞として石製メダルが職人さんから授与された。

平成20年11月20日（木）県民の日に13：15～15：20「探検！甲斐府中城」と題して、城内の見所探検ツアーを行った。導入として甲府城から発見された瓦や鉄製品などを実際に手で触れて実感するところから入り、遺構の分布や往時の痕跡など、絵図史料や発掘成果を基に現地を訪れながら解説を行った。当日は石切り場において、職人から道具などを利用して石工技術について臨場感あふれる解説や、参加した子供たちに矢穴や門跡の実測を行うことにより規模など実感してもらう体験を行った。44名の参加があった。

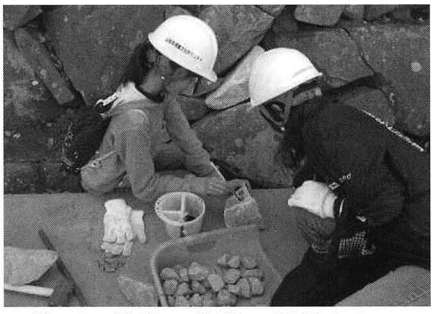
稲荷櫓特別展：展示状況

稲荷櫓特別展：スタンプコーナー

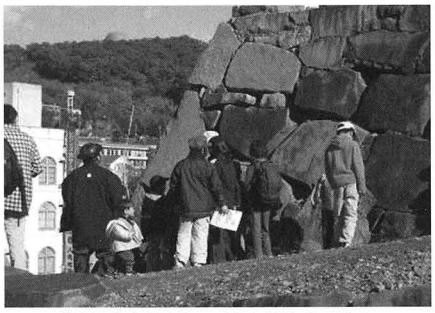
稲荷櫓特別展：展示状況


詰石に挑戦：体験会場

詰石に挑戦：ハツリに挑戦


詰石に挑戦：体験の記録をして

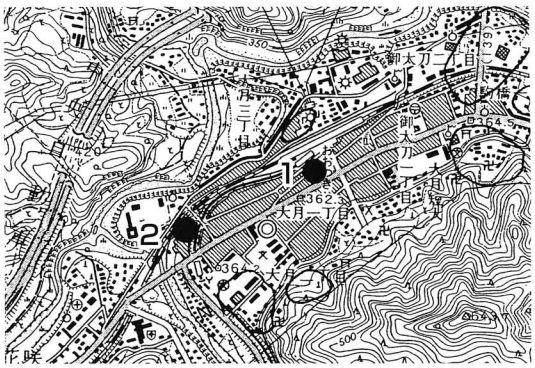
詰石に挑戦：割石を体験

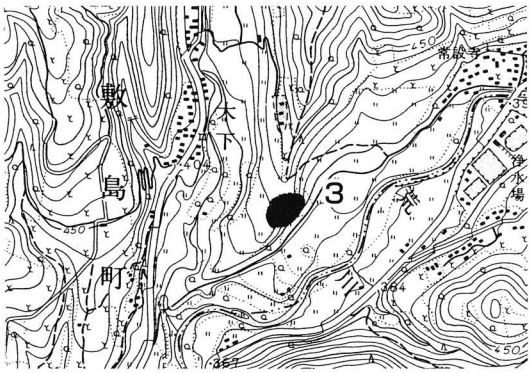

探検甲府城：線刻画を探す

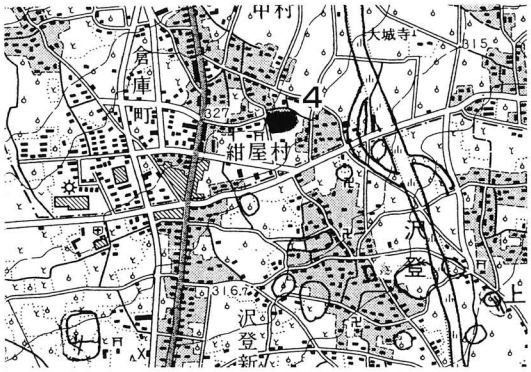
探検甲府城：天守台で記念撮影

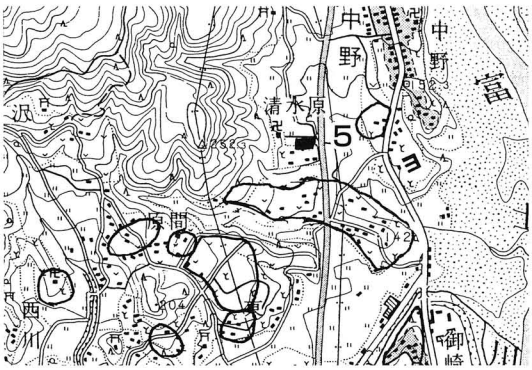
11　遺跡データ管理（ＧＩＳ）

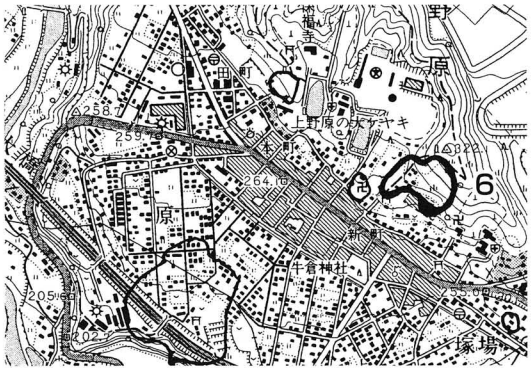
今年度、遺跡情報管理システム（Geographic Information System）に登録した遺跡の発見や遺跡範囲の変更などについては、９件であった。その内訳は、遺跡の発見（大月市：１.御立原２遺跡、２.下原遺跡、甲斐市：３.姫宮遺跡、南アルプス市：４.在家塚・竹之花遺跡、南部町：５.寺前遺跡）５件と、遺跡の範囲変更（上野原市：６.根本山遺跡、甲州市：７.西畑Ｂ遺跡、山梨市：８.延命寺遺跡、都留市：９.美通遺跡）など４件であった。

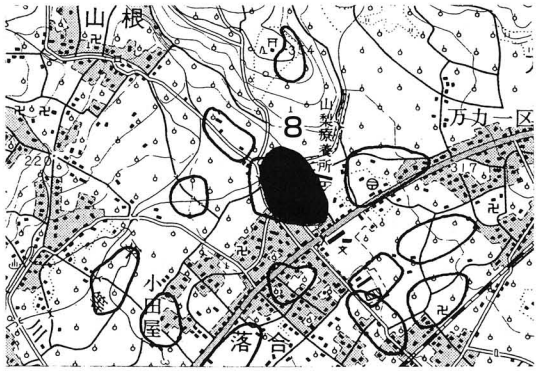


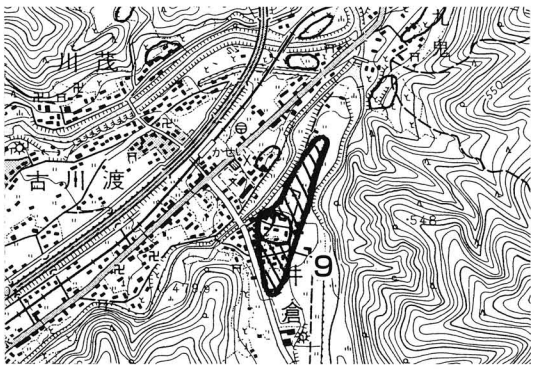












12　発掘調査・整理作業の標準化に関する検討

学術文化財課及び市町村と３回検討を行ったが、字句の一つ一つについて細部にわたる検討を行ったが、なかなか成文に至らなかった。ようやく年度末に至り、スタイル等が整った。だが、実際に運用するにはいくつか問題点も指摘され、埋蔵文化財センターで21年度に実務との検証作業を行うこととなった。

13　寄贈・購入図書

毎年約3,000～4,000冊が寄贈・購入されている。寄贈図書の内容は、全国の都道府県・市町村教育委員会から送られてくる発掘調査報告書、年報、研究紀要、博物館・資料館等の企画展の図録などである。そのほかに、業務に関する考古学や歴史学の専門書、学術雑誌を購入している。

平成20年度（2008年度）は、約3,800冊の図書を登録した。また、業務に関する考古学・歴史学の専門書、学術雑誌などは、56冊購入した。総登録数約85,000冊と大塚文庫約11,000冊と合わせ、約96,000冊が現在収蔵されている。

登録された図書のデータは、図書データベース（マイクロソフト社データベースアクセス）で管理している。そして、図書データベースで蔵書の検索もできるようにしている。

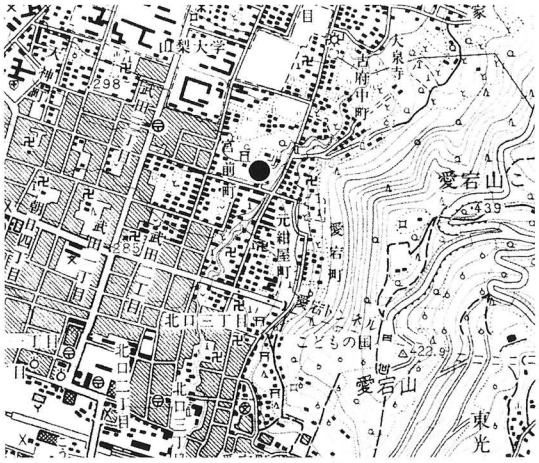
年々増え続ける図書を収蔵するスペースが不足し、昨年度書棚設置場所を確保し、書棚を６棚（昨年度実績）増設したものの限界状況にある。新たなスペースの確保が非常に大きな課題であり、閲覧スペースを含めた新たな保管場所の整備等も強く望まれる。

第Ⅱ章　各遺跡の発掘調査等概要

1　記録保存のための発掘調査

1－1　八幡神社遺跡（はちまんじんじゃ）

所 在 地　甲府市宮前町６－43
事 業 名　燃料電池研究開発関連事業
調査期間　2008年７月１日～９月30日
調査面積　2,200㎡
調査担当　田口明子・正木季洋



八幡神社遺跡　位置図

八幡神社遺跡は、相川扇状地の扇端部、東端に位置する。東は藤川が南流する。南に緩やかに傾斜し、標高約297mである。武田城下町遺跡の範囲にあり、本遺跡の北西には、山八幡古墳、北へ約150mには奈良・平安時代の山梨大学遺跡の存在が知られている。

調査区が２区画に分かれ、それぞれ東側調査区（500㎡）・西側調査区（1,700㎡）とした。東側調査区から、重機による表土剥ぎ後、世界測地系座標による基準杭の設置を行った。人力による遺物包含層の掘削を行いながら、出土遺物の座標値を記録し取り上げた。また、遺構及び、土層の堆積を確認して記録した。

東側調査区の調査終了近くに西側調査区の重機による表土剥ぎを行い、以下、東側調査区と同じように行った。調査終了後に西側調査区の南半分の埋め戻しを行った。

東側調査区

現地表から約0.3mの厚さで表土・盛土層があり、その下の黒褐色粘土層が遺物包含層となる。しかし、調査区の北東角部分にしか、遺物包含層は残っていない。調査区の南は、地山まで削られている。発見された遺構は、ピット３基、溝２条である。ピットからは遺物の出土が無いため、時期は不明である。溝からは、縄文時代中期の土器と石器を中心に、平安時代以降の土器・陶磁器が出土しているため、平安時代以降の時期が考えられる。遺物包含層からも、縄文時代中期の土器と石器を中心に、平安時代以降の土器・陶磁器が出土している。

西側調査区

北から南に下がる４段の区画にそれぞれ建物が建っていた。そのため、調査区の半分以上が攪乱を受けている。縄文時代中期の埋甕１基、ピット５基が発見された。遺物包含層からは、縄文時代中期の土器と石器を中心に、古墳・平安時代以降の土器・須恵器・陶磁器が出土している。

特筆すべきは、遺物包含層から旧石器が４点出土したこと、縄文中期の土偶が３点出土したこと、黒曜石などの剥片が約１万点出土したことである。土偶は頭部が２点、脚部が１点で、やや時期差がある。石器の材は、黒曜石だけではなく、水晶・チャート・ジャスパーの剥片もあり、遺物包含層中から濃い密度で出土した。

また、新たに古墳が１基確認されたことも重要である。径約10mの範囲に、６世紀代の須恵器・土師器の破片が帯状に巡っていることがわかり、金環１点がその中央部から出土した。そして、須恵器の中に提瓶１点が認められた。北側約半分は削平されていたが、周溝を伴う円墳だった可能性が考えられる。

今回の調査で、豊富な遺物が出土したが、住居跡などの遺構が少なかった。現地形をみても、北側の一段高いテラスか、西側の八幡神社境内の方に、集落が展開することが予想される。

全景

東側調査区遺物出土状況

1号埋甕

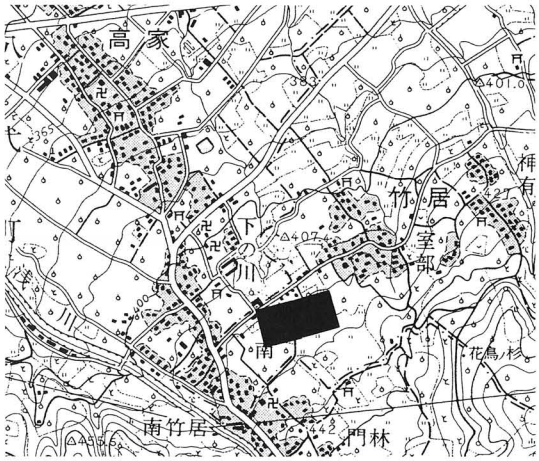
土偶１

土偶２

水晶製石鏃

1－2　三光（さんこう）遺跡

所 在 地　笛吹市御坂町竹居2349－２他
事 業 名　山梨リニア実験線建設事業
調査期間　2008年６月12日～11月28日
調査面積　2,900㎡
調査担当　吉岡弘樹・輿石逸子



三光遺跡　位置図

三光遺跡は、御坂山地に源流を持つ浅川扇状地の扇頂部近くにあり、甲府盆地の全体をおおよそ見渡せるなだらかな北向き斜面に位置している。35年前の1975年に作付転換に伴って短期間の緊急発掘調査が実施され、縄文時代中期から晩期までの土坑などの遺構が多数発見されている。遺物では、大量の土器類のほか鰹節型の翡翠製大珠が発見され当時、大きな話題を呼んだ。

今回はその地点よりやや下方、遺跡の北端縁辺部（標高約420m）にあたる地点の調査を実施した。

また、東方約１ｋｍの地点には全国的に有名な縄文時代前期を中心とした花鳥山遺跡が当遺跡地を眼下に凝視している。

調査方法は、対象地が河川と市道により大きく３分割されていたため、西よりⅠ～Ⅲ区と命名して調査を行うこととした。さらに、Ⅱ・Ⅲ区については段差や排土置き場を考慮し、それぞれの調査区を三分割して調査を実施した。その結果は以下のとおりである。

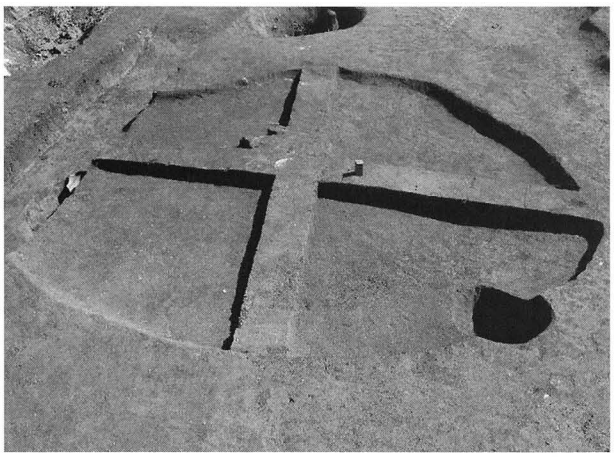
Ⅰ区は非常に調査面積が狭い調査区で遺物包含層が検出されたのみであった。そこからは、縄文時代中期の土器や後世の陶磁器類などの小破片が多数出土している。

Ⅱ区では調査区の中央から西方では、耕作土直下に遺物包含層（約30cm～約160cm）があり、その下層より遺構が検出されている。遺構は、縄文時代中期初頭（五領ヶ台式期）の楕円形住居１軒、平安時代末期の住居１軒、集石土坑６基と土坑群などが検出された。これらの土坑からは、直径約12cmの石棒や縄文時代中期初頭から中期終末までの深鉢形土器が出土している。調査区の東方では蛇行しながら盆地へ急傾斜で下る小河川がある関係から、土砂の流れ込みや攪乱が多所に見られた。遺構の検出は集石土坑２基と土坑５基、近世以降に構築されたと推測される土留め用の石列のみが検出されたに過ぎない。

Ⅲ区でも耕作土直下の浅い位置に遺物包含層が観察される。この包含層はⅡ区のものと違い遺物出土量は少なく摩滅した土器片がほとんどであった。発見された遺構は、縄文時代中期後半と推測される土坑４基のほか、時代の特定出来ない土坑やピットが複数、近世以降の暗渠２条、配石遺構４基などが検出された。また、特筆すべき遺構としては台付甕の脚部とミニチュアの甕が埋納されていた古墳時代のピットが確認されていることである。周囲には同様の遺構は検出できなかったが、調査対象地内の近接した部分に湧水があり、水辺の祭祀を想定できる。遺物の出土としては土器類や石器を中心に、縄文時代中期から後期以降のものが出土している。

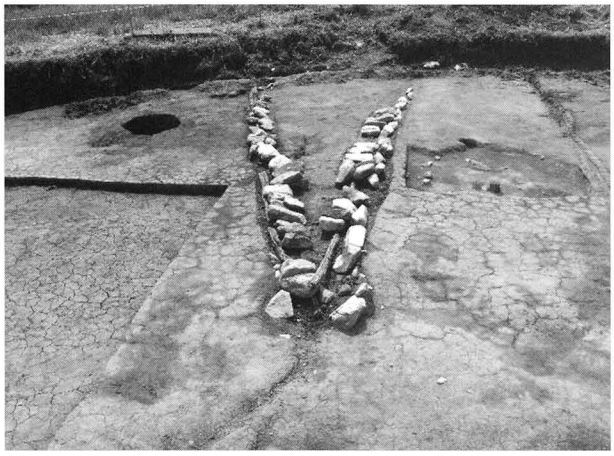
調査結果をまとめると、調査対象地を二分する小河川の東側（Ⅲ区）では遺構・遺物ともに希薄であり遺跡の縁辺部としても良いと考えられる。また、西側（Ⅰ・Ⅱ区）では後世の果樹経営等による緩斜面の平坦化により土地の改変が激しいものの縄文時代中期初頭から平安時代までの生活の痕跡が確認できた。

これらの結果の中でも、縄文時代中期前半の多くの土器類出土は1975年の調査に結果として報告されている縄文時代中期後半以降の資料に加えることで、今まで知られていた三光遺跡にさらなる厚みを付けた成果と言っても良いであろう。

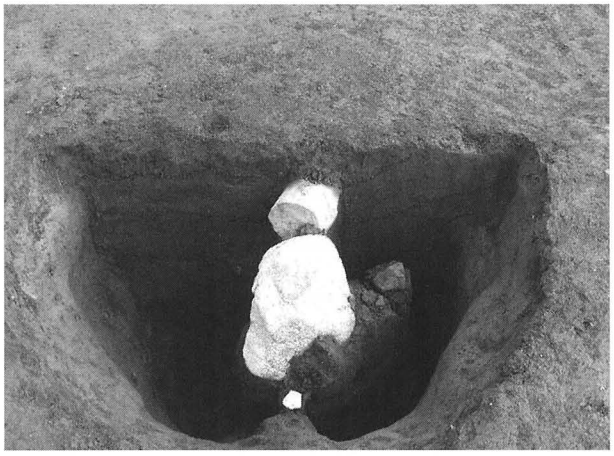


縄文時代中期初頭（五領ヶ台式期）の住居

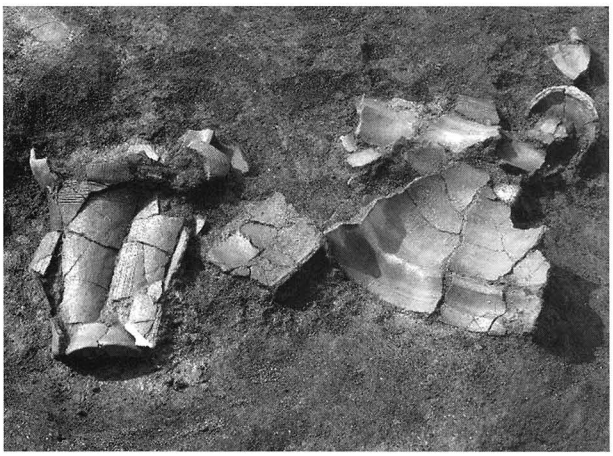
縄文時代集石群の検出状況



暗渠の検出状況



土坑からの石棒出土状況



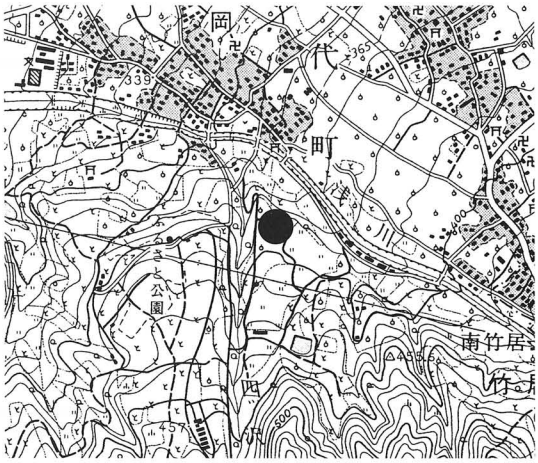
縄文時代中期初頭（五領ヶ台式期）の
深鉢形土器出土状況

縄文時代中期終末（曽利Ⅴ式期）の
深鉢形土器出土状況

Ⅱ区中央部完掘状況

平安時代住居跡の調査風景

１－３　稲山（いなやま）遺跡



稲山遺跡　位置図

所 在 地　山梨県笛吹市八代町岡字稲山1902－２外
事 業 名　山梨リニア実験線建設事業
調査期間　2008年６月12日～12月11日
調査面積　3,800㎡
調査担当　高野玄明・小澤美和子

稲山遺跡は甲府盆地の南縁に連なる曽根丘陵の東方に位置し、東側に浅川、西側にはその支流である四ッ沢川に挟まれた標高約395mの丘陵上にある。遺跡の南方には縄文時代の遺跡である大覚林遺跡、西側には同じく縄文時代の銚子原遺跡、稲山原遺跡が存在する。また、県指定史跡である岡銚子塚古墳を始め盃塚古墳、竜塚古墳など古墳群も周辺に多く存在する。丘陵上には長者屋敷の伝説や妙善屋敷、於屋敷等の小字名があり、古くはここに集落が開けていたと考えられ「岡」の呼称もこれに由来するとも言われる。

本遺跡は平成19年度山梨リニア実験線に伴う試掘調査で新たに発見された遺跡で、その結果、縄文時代、古墳時代、中世、近世の遺構や遺物が確認された。今回の発掘調査では、住居跡、溝状遺構、地下式土坑、土坑、ピット、集石土坑、方形竪穴状遺構、竪穴状遺構が検出されている。調査区内は農道の横断により分断されていることから、便宜上１区～４区に分けて実施した。

１区は調査区の一番東側に当たり、水田耕作のため土地を改変した痕跡がうかがえたが、溝１条、土坑５基、集石１基が検出された。遺構に伴う遺物の出土量は少ないものの、常滑片などが検出されている。

２区は、土坑３基、地下式土坑１基が確認され、３区は、狭小のため５ｍ×５ｍのグリッド内を人力で遺構確認面まで掘り下げたが、遺構や主立った遺物は確認されなかった。

４区は、試掘調査では縄文時代の遺物や遺構が数多く確認された箇所だが、今回の調査により確認された遺構は、住居跡１軒、溝状遺構10条、地下式土坑４基、土坑30基、ピット237基、集石土坑４基、方形竪穴状遺構４基、竪穴状遺構１基である。主な遺構の概要を以下に記す。

住居跡は地床炉や壁面が一部確認されたものの明瞭なプランは確認できなかった。住居覆土中及びその周辺から相当量の土器が出土し、打製石斧や黒曜石製の石鏃も僅かながら見られた。土器の文様、形態から縄文中期初頭の五領ヶ台式に位置づけられる。

集石土坑４基のうち３基は、礫が熱を受け非常に脆くなっていることやその形態から住居跡と同時期のものと考えられる。他の１基は土坑内から完形のかわらけが１点伏せた状態で出土したことから中世に位置づけられる。

地下式土坑４基の規模は竪坑が直径0.7m～1.1m、主体部長辺2.3m～3.2m、短辺1.3m～2.4m、深さ1.4m～1.7mを測る。主体部はいずれも方形もしくは楕円形を呈し、形態も規模も多様である。遺物はほとんど検出されなかったが、２号地下式土坑からかわらけ片、骨片などか若干出土している。

溝状遺構からは陶磁器、かわらけ等の小破片の出土が多いが、９号溝でかわらけ２点が完形で出土している。調査区最西の６号溝は他と違い、屋敷跡周囲に見られるような堀の可能性が考えられる。

これらの調査結果をまとめると、縄文時代の遺構、遺物は調査区内の一部分しかみられないこと、全体的に中世に特有の遺構、遺物が多いことから、稲山遺跡は中世（14～16世紀）の遺跡といえる。本遺跡は土坑、ピットが非常に多く、特にピットは273基も検出されたが、掘建柱建物跡に見られるような規則的に並んでいる痕跡はみられない。しかし、遺跡周辺の小字名などからしても過去に屋敷が存在していた可能性は大きく、本遺跡はそれに関連したものと考えられる。この遺跡が所在する地域は中世の調査事例が少なく、周辺の屋敷跡の存在と今回の調査で確認された地下式土坑との関連性など、中世の生活環境を探る手がかりを得る貴重な調査となった。

稲山遺跡全景（東から）

縄文土器出土状況

２号地下式土坑完掘状況

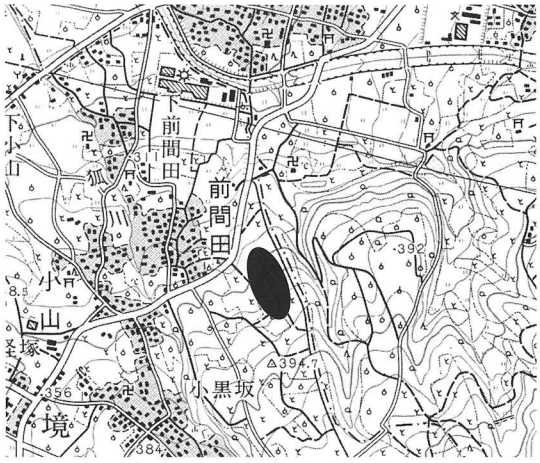
１号集石土坑かわらけ出土状況

３号集石土坑下層検出状況

６号溝完掘状況

１－４　竜安寺川西遺跡（りゅうあんじがわにし）

所 在 地　山梨県笛吹市境川町前間田地内
事 業 名　山梨リニア実験線建設事業
調査期間　2008年６月13日～11月27日
調査面積　14,000㎡
調査担当　猪股一弘・依田幸浩



竜安寺川西遺跡　位置図

竜安寺川西遺跡は笛吹市八代町米倉地区と同市境川町前間田地区の境界付近を流れる竜安寺川の西側に広がる周知の遺跡である。山梨リニア実験線建設事業の変電所建設予定地の中に遺跡の一部が含まれているため、平成19年度に行われた試掘調査の結果から遺跡の範囲を追加修正したうえで、変電所建設予定地内の遺跡該当部分（約14,000㎡）について発掘調査を行った。

調査区域は、北向きの斜面上に立地しており、標高は約335～364mである。遺跡に該当する部分が２カ所に分かれることから、斜面の上方にある区域を１区（約10,000㎡）、下方の区域を２区（約4,000㎡）として調査を行った。

１区では、縄文時代前期末（約5,000年前）の竪穴住居跡１軒、土坑２基、縄文時代中期中葉（約4,500年前）の竪穴住居跡３軒、土坑１基、弥生時代後期（約2,000年前）の竪穴住居跡１軒、古墳時代後期（約1,300年前）の古墳１基（周溝のみ）、時期不明の竪穴状遺構５基、土坑42基、溝状遺構１条を発見した。

縄文時代前期末の竪穴住居跡は、住居跡の中心付近に炉跡の痕跡が残り、焼土が検出された。覆土および床面からは縄文時代前期末に比定される諸磯ｃ式の土器片が出土した。中期中葉の竪穴住居跡からは、新道式の土器片が出土している。炉は、焼土だけが残る状態のものの他に、約20～40cm大の石で囲った石囲炉（いしがこいろ）や土器の上半部を地面に埋めた埋甕炉（まいようろ）が検出された。埋甕炉は、竪穴住居跡の中央部からやや北寄りにあり、深鉢形土器の下半部が打ち欠いて埋められていた。土器の上半部はほぼ完全な状態で残っていた。埋甕炉の隣からは、土器の上半部の一部が出土しており、炉を作り直していた状況がうかがえる。

縄文時代前期末の土坑からは、同一の個体になる土器片がまとまって出土しており、土坑墓であった可能性が高い。土坑は、竪穴住居跡の中からも見つかっており、中期中葉の住居跡内で検出された土坑からは、土器片とともに石皿や磨製石斧が出土している。これらも土坑墓であり、住居跡廃絶後に掘られたものと考えられる。

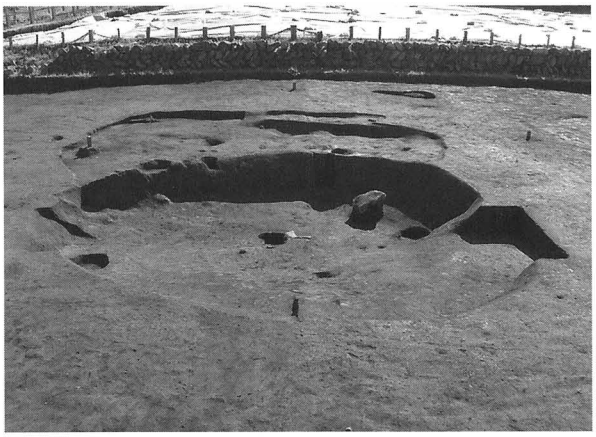
弥生時代の竪穴住居跡からは、壷形の弥生土器の上半部が出土した。住居跡は、調査区の壁や攪乱に阻まれ一部が検出されただけで、全体像を掴むことはできなかった。

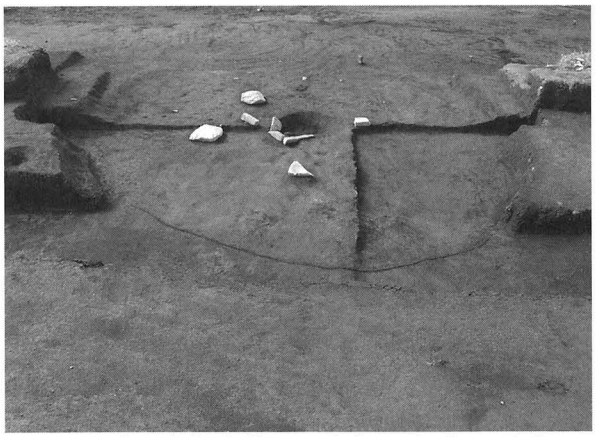
古墳は、円形になると思われる周溝のみが検出された。周溝の一部が調査区外に延びているため全体を検出することができなかったが、直径12mほどの円形になると考えられる。周溝の底部からは、少量ではあるが古墳時代の土師器の欠片が出土している。周溝の内側には古墳の存在を裏付けるような痕跡は残っていなかったが、周溝が調査区外に延びていく付近に１～２ｍほどの石がまとめられていたり、周溝部分の土地の区画（畑地と道路との関係）が不自然に膨らんでいることから、古墳が存在した可能性が高いと考えられる。

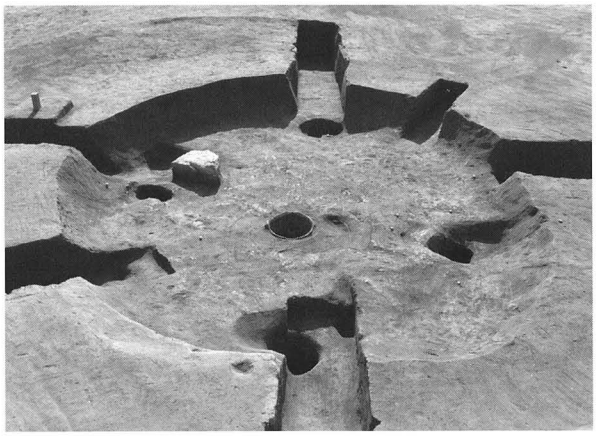
竪穴状遺構は、いずれも竪穴の掘り込みが浅いため、耕作等の攪乱による消失が著しく、平面形は長方形または不定形となるものの、遺構の全体像や性格を掴むことが困難であった。遺物は弥生時代後期前半や古墳時代後期の土器片が出土しているものの、出土量はごく少量である。竪穴の中央部付近に石を伴う焼土が検出されたものもあり、炉跡とも考えられることから、弥生時代または古墳時代の住居跡であった可能性も考えられる。

２区からは遺構を検出することができなかったが、縄文土器の欠片が出土した。

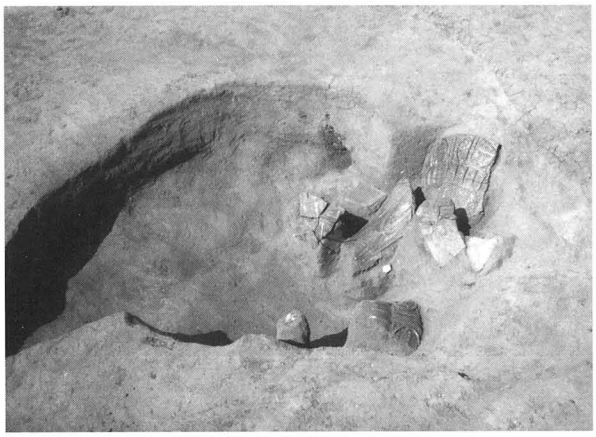
竜安寺川西遺跡の範囲は、今回発掘調査を行った地点からさらに南東側に広がっていると想定されている。今回の調査区域に比べてやや傾斜の緩い台地状となっている南東側が、遺跡の中心にあたると考えられる。


縄文時代前期末の竪穴住居跡

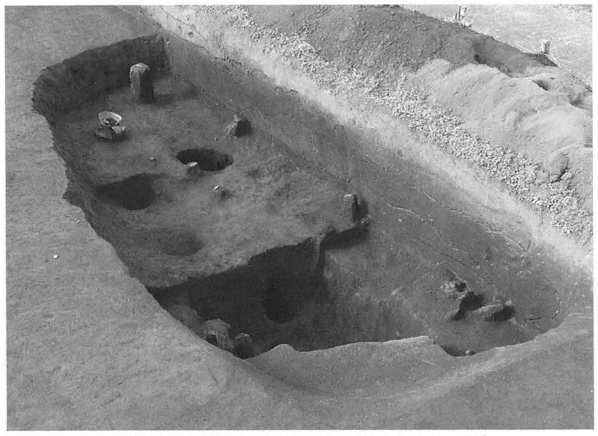

縄文時代中期中葉の竪穴住居跡（石囲炉）


縄文時代中期中葉の竪穴住居跡（埋甕炉）

埋甕炉検出状況


縄文時代前期末の土坑

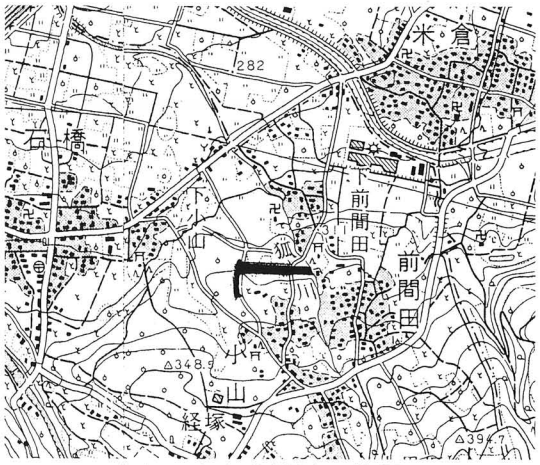
竪穴住居跡内の土坑


弥生時代後期前半の竪穴住居跡

古墳の周溝

1－5　中丸（なかまる）・中丸東（なかまるひがし）遺跡

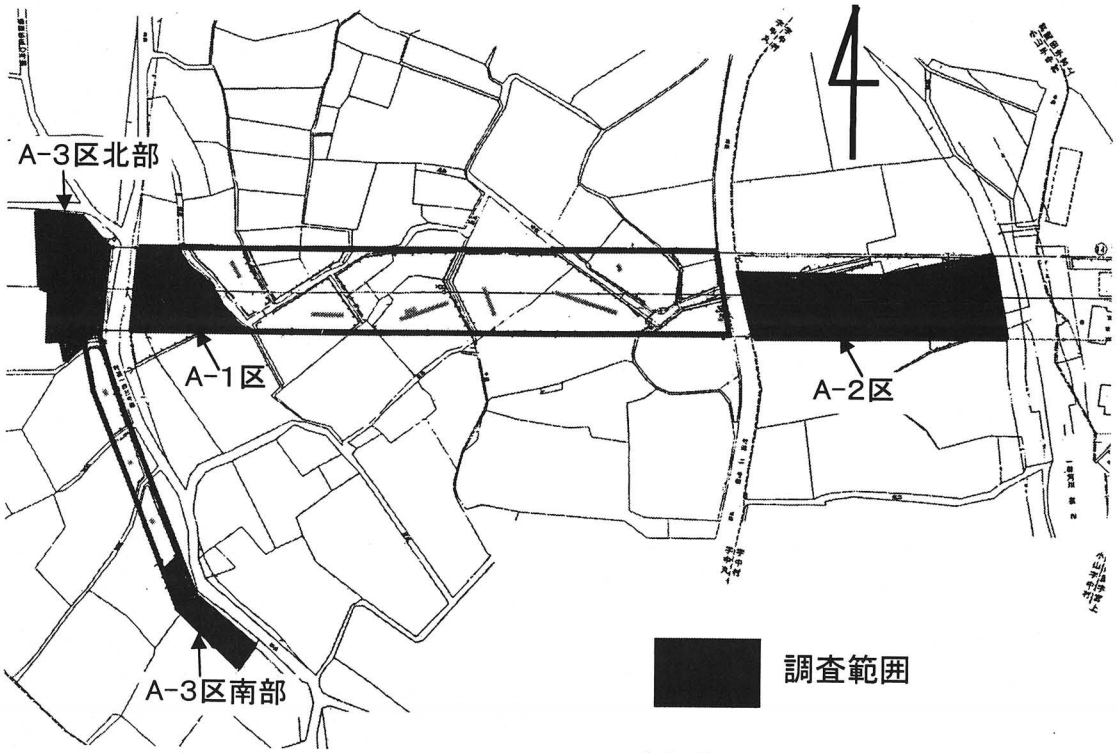
所 在 地　笛吹市境川町小山999番地外
事 業 名　山梨リニア実験線建設事業
調査期間　2008年６月12日～10月10日
調査面積　2,000㎡
調査担当　三田村美彦・堀込紀行



中丸・中丸東遺跡　位置図

中丸・中丸東遺跡は、笛吹市境川町にある遺跡で、甲府盆地南端の標高385m前後を測る台地上に位置する。本調査範囲は前年度に行われた試掘調査により、４箇所に別れ、試掘調査で命名した地区名を本調査でも踏襲し、調査を行った（調査区名は下図を参照）。なお、４箇所のうちＡ－２区が中丸東遺跡、他の３箇所は中丸遺跡の範囲内となる。

Ａ－１区は調査区の西側に位置し、土坑９基が検出された。このうち、時期の判明するものは２基となり、いずれも縄文時代中期となる。また調査区東側が谷部となり傾斜しているため、縄文時代の包含層が残っており、縄文時代中期の土器片や打製石斧、黒曜石製の石鏃などが出土している。このうち、土器片は摩耗著しく調査区南側の台地上から流れてきた可能性がある。Ａ－２区はそのすぐ東側を狐川が流れており、川の氾濫の影響を受けた調査区東側からは遺構は検出されなかった。ただ、調査区の西側では、縄文時代前期の土坑３基、古墳時代前期の住居跡１軒、掘立柱建物跡１棟が検出された。遺物は縄文時代前期の繊維土器や黒曜石製石器、古墳時代の土師器（壺、小型丸底壺、Ｓ字状口縁台付甕）が出土している。Ａ－３区はリニア実験線の起点部分となる北部（以下北部とする）と、送電線を設置する南部（以下南部とする）に分かれる。北部では調査区南側で縄文時代中期の土坑１基が検出されたのみである。遺物も当該土坑から縄文時代中期の土器片が出土したのみである。南部では時期不明の土坑２基と溝状遺構が１条検出された。溝状遺構では須恵器の甕の破片が出土していることから、古墳の周溝の可能性があるが、幅約４ｍ、長さ約10mほどの調査範囲で遺構の性格を判断するのは難しい。



中丸・中丸東遺跡　本調査範囲図　S＝1/2000

Ａ－１区調査区南側

Ａ－１区で検出された土坑

Ａ－２区調査区全景（西から）

Ａ－２区で検出された古墳時代住居跡

Ａ－２区住居跡遺物出土状況

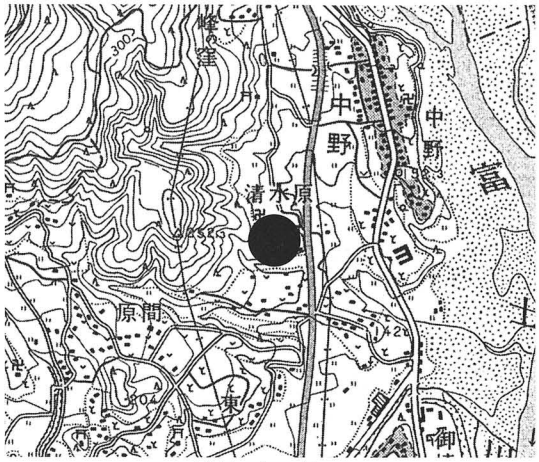
Ａ－２区で検出された掘立柱建物跡

Ａ－３区北部調査区全景

Ａ－３区南部で検出された溝状遺構及び全景

1－6　寺前遺跡（てらまえ）

所 在 地　南巨摩郡南部町中野字寺前地内
事 業 名　中部横断自動車道南部インター建設に伴う発掘調査
調査期間　2008年10月14日～12月９日
調査面積　1,600㎡
調査担当　山本茂樹・上原健弥



寺前遺跡　位置図

平成20年６月16日から20日にかけて、中部横断自動車道南部インター建設に伴い試掘調査が実施された。試掘対象面積は約14,000㎡で、その結果、新たに発見された遺跡の面積は1,600㎡で、字名を付して「寺前遺跡」とし、本年度本調査を実施した。

平成20年８月４日、国土交通省甲府河川国道事務所、学術文化財課および埋蔵文化財センターを交え、現地にて協議を行った。内容については、家の移転、調査範囲、駐車場、プレハブの設置および廃土置場などである。

発掘調査は、10月14日から12月９日まで重機による表土掘削を実施した後、人力による遺構確認を行った。

その結果、主な遺構は、土坑12基、溝２条、焼土跡であった。遺物は、素焼きの土器片、打製石斧、中世陶器などである。遺構については、12基の土坑の内、２基は木が倒れてできたと考えられる痕（風倒木痕）であり、残り10基については、性格不明の落ち込みである。

素焼きの土器片については、摩滅が激しく全て小破片であったが、辛うじて少量ではあるが文様がわかるものもあり、縄文時代であることが明らかにされた。

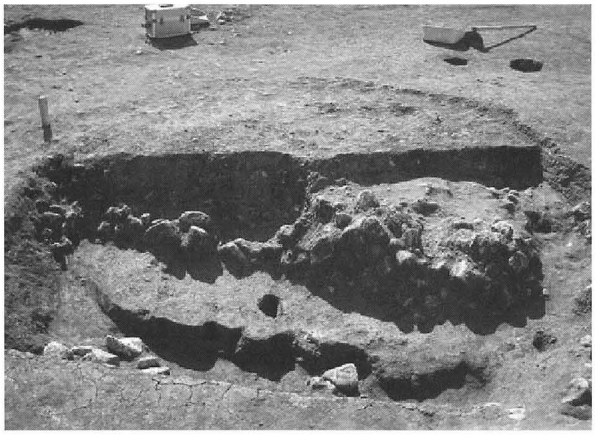
地形では、西からなだらかに東へ傾斜し、小規模ではあるが埋没谷も確認された。この埋没谷に土器片や打製石斧が確認されたことから、隣接する南西方向の高台に小規模ではあるが集落の存在が想定される。

また、本遺跡では、握り拳大から人頭大くらいの礫が調査区の東側半分で地形の変化が認められ、この変化により木が倒されたとも考えられる。

本遺跡の西正面には慈眼寺があり、このお寺に関係する遺構などが想定されたが、確認された遺構からは関連した施設は認められなかった。

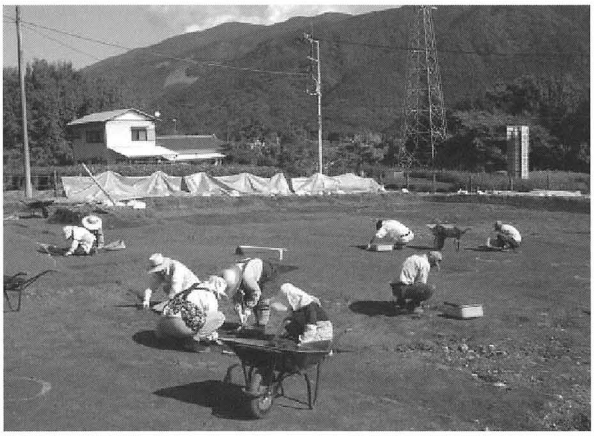
遺構確認作業

遺構掘削作業

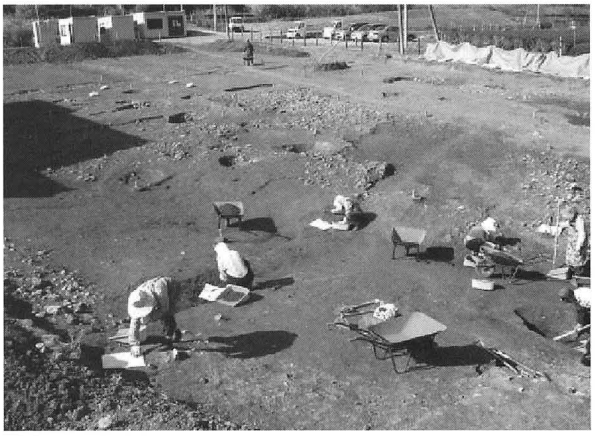


風倒木痕

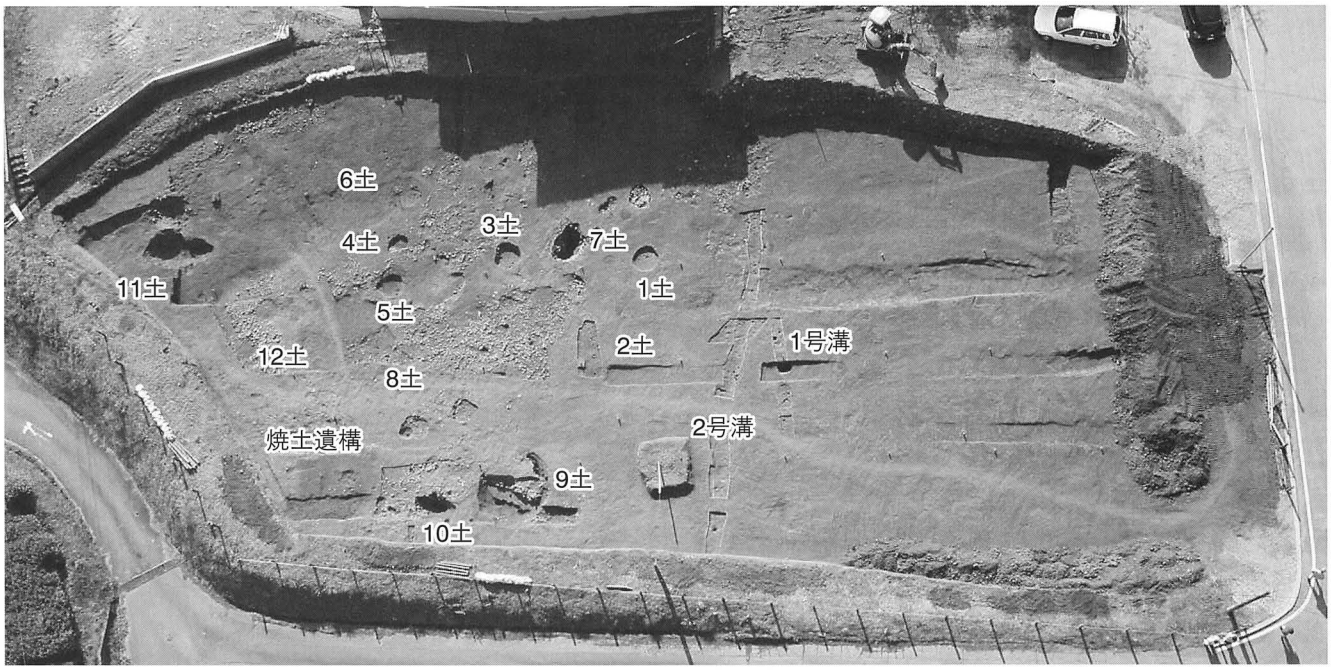
遺構掘削作業



発掘調査風景

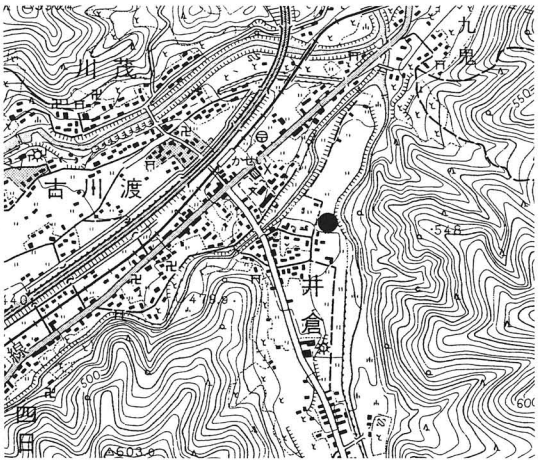


発掘調査風景



寺前遺跡遺構全体写真

１－７　美通（みとおし）遺跡（Ｂ区）



美通遺跡　位置図

所 在 地　山梨県都留市井倉310－１・316－１・332
事 業 名　国道139号都留バイパス建設
調査期間　2008年10月16日～2009年１月15日
調査面積　1,020㎡
調査担当　三田村美彦・堀込紀行・田口明子・正木季洋

今年度はＢ区の内の約３割の調査を終了した。調査区は、２区画に分かれ北から１区・２区とした。１区は約550㎡、２区は約470㎡である。まず１区から、重機による表土剥ぎを行い、排土をクローラーダンプで調査区外に搬出した。１区の表土剥ぎ終了後に続けて、２区の表土剥ぎを行った。２区の排土は、ダンプトラックで、調査区外に搬出した。その後、人力による精査を行いながら、出土遺物・遺構の座標値を記録し取り上げた。各区には、世界測地系座標による基準杭の設置及びベンチマークの設定を行った。１区では、２・３面の調査終了時に、２区では３面の調査終了時に空中写真撮影を行った。

美通遺跡は、富士五湖のひとつ山中湖を水源とする桂川の支流である朝日川の左岸に位置する。北に緩やかに傾斜し、標高約417ｍである。今年度の調査区は、美通遺跡の範囲の東端部にあたる。本遺跡の南西には、標高約650ｍの生出山があり、その山頂には、かつて縄文・弥生・平安時代の生出山山頂遺跡が存在した。

１区

調査区内の約４分の３が猿橋溶岩であり、浅い所では現地表から約0.2ｍの深さである。この溶岩は、部分的に縄状溶岩となり、南西から北東方向に流れたことがわかる。文化層は、大きく分けて３面あり、１面が古代以降、２面が縄文時代中期、３面が縄文時代早期から前期である。発見された遺構は、住居跡１軒・土坑14基・集石土坑２基・焼土跡５基である。１面からは、土坑４基のみであるが、いずれも調査区壁の土層堆積状況を精査した時に確認された。２面からは、試掘調査で発見されていた敷石住居跡である１号住居跡・土坑７基が確認された。３面からは、土坑３基と集石土坑２基が発見された。２～３面では、焼土跡５基も確認された。１号住居跡は、直径約４ｍのほぼ円形で、確認面からの深さが約0.3ｍの掘り込みがある。炉は中央よりやや北寄りに石で囲まれて中に底部のない浅鉢土器が正位に埋設されている。炉から南壁に幅約１ｍの範囲の床面に約0.1～0.3ｍの平らな石が敷かれている。また炉の北側の北壁近くには、床面に土器が置かれたような状態で出土した。

２区

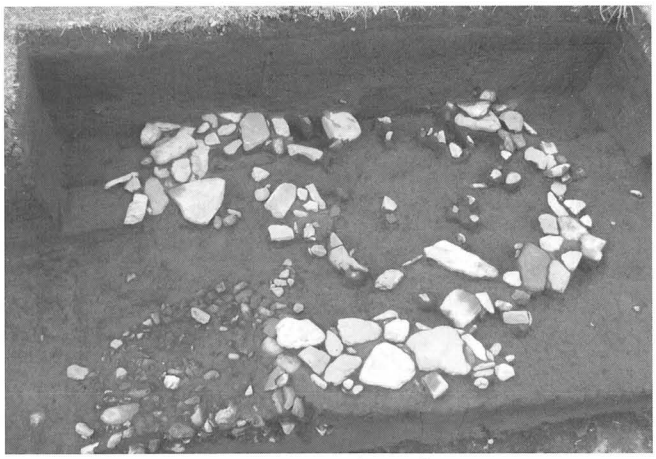
調査区の北側は、猿橋溶岩がある。文化層は、１区と同様に大きく分けて３面あり、１面が古代以降、２面が縄文時代中期、３面が縄文時代早期から前期である。発見された遺構は、住居跡３軒・土坑32基・集石土坑５基・焼土跡１基・溝１条である。１面からは、土坑６基・溝１条、２面からは、住居跡１軒・土坑３基・集石土坑２基・焼土跡１基、３面からは、住居跡２軒・土坑23基・集石土坑３基が確認された。

１面の１号溝は、４号住居跡の範囲を確認するために調査区の一部を西側に拡張したときに発見された。現地表下約0.3ｍから掘り込みが確認され、幅約0.7ｍ、深さ約0.5ｍの断面凵形、確認された長さは、ほぼ東西に0.8ｍである。覆土中から陶器片と縄文時代中期土器片・鉄釘が出土した。２面の４号住居跡は、約3.5ｍの円形の掘り込みの床面の壁際に比較的平らな石が敷かれている敷石住居跡である。ほぼ中央に石囲い炉があるが、焼土や炭化物はほとんど認められない。３面の２・３号住居跡は、どちらも約５ｍの円形の掘り込みに地床炉をもち、２号住居跡では10基、３号住居跡では、３基の柱穴を伴う。

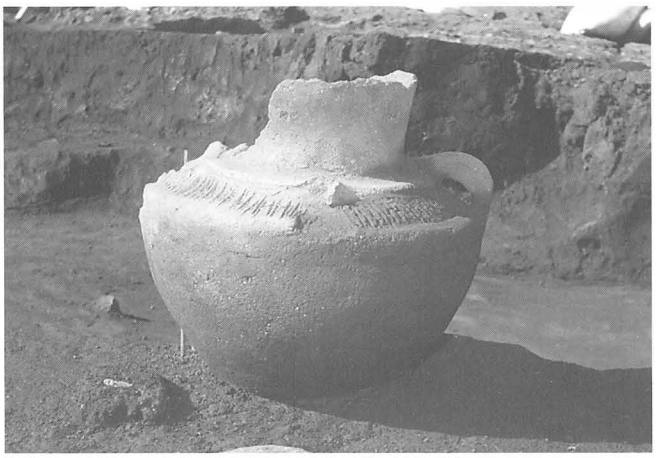
本遺跡の特徴は、遺構数があるわりには、遺物の量が少ないことである。そのため、遺構の時期の詳細が不明なものも多い。また、文化層は大きく分けて３面であるが、1.5面や2.5面などの面の存在も考えられる。また、遺構が調査区の外側に広がることから、隣接地について開発や工事を行う際には発掘調査が必要である。

1区全景

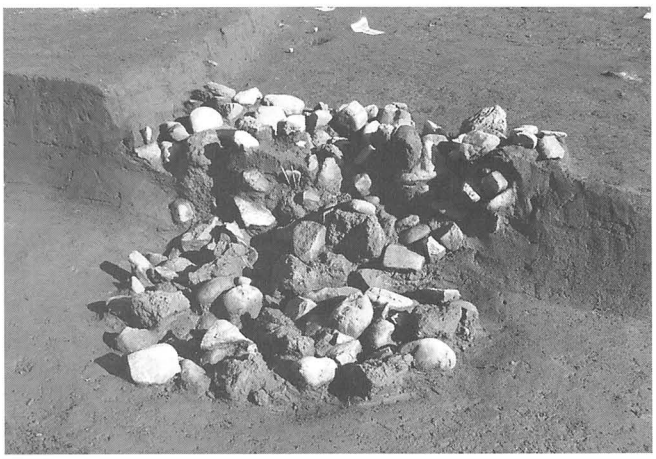
1区1号住居跡



2区4号住居跡



1区1号住居跡出土土器

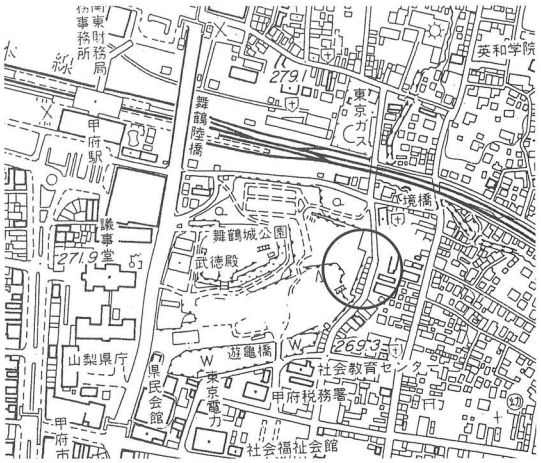


1区1号集石土坑

2　整備事業に伴う調査

2－1　県指定史跡甲府城跡（けんしていいせきこうふじょうあと）

所 在 地　甲府市丸の内１－６－１
事 業 名　舞鶴城公園整備事業
調査期間　2008年９月１日～12月24日
調査担当　野代幸和・長田隆志



甲府城跡　位置図

県指定史跡甲府城跡では、「舞鶴城公園整備事業」として平成17年度より詰石や裏栗石の補充、破損した石材の補強、風化して脆くなった部分の除去など、石垣の維持と安全確保を目的に石垣補修工事を実施している。

本年度は、８月末から石垣維持管理工事の一環として、平成13・14年に改修した稲荷櫓周辺の石垣について修繕工事を実施した。基本作業については、詰石の叩き締めが主たるものであるが、今回の施工確認調査段階で、石材の風化に伴う剥離が認められたため、危険回避を目的に除去を行った。

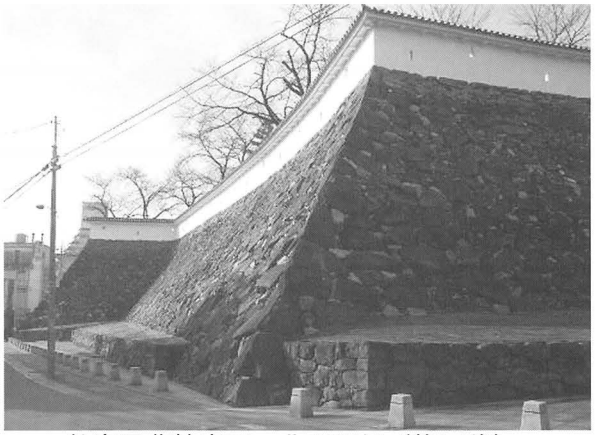
また、平成17年度より実施している石垣の整備として、数寄屋曲輪東面・北面石垣で石垣補修工事を実施した。本石垣は、築城期の野面積み石垣が残る場所で、現在は市道に面している。築城以後の大きな改修はないが、土塀の補修に伴い天端石を中心に、積み直しと詰石の落下防止の補強工事が一部行われている。また、戦後の市街地化のなか、石垣に面して店舗が立ち並んでいた時期もあったことから、石垣にコンクリートの付着や生活雑器の混入が確認された。これまでに補修工事を実施した天守台東面や二の丸西面石垣と同様、明治以降の維持管理がなされていないため、詰石の欠落・石材の破損・孕みといった傷みが生じていた。この石垣は道路に面しているため、工事では、文化財の保存と安全性の確保を目的として、県土整備部と県教育委員会が協力して行った。工事は、詰石や裏栗石の補充を中心とした作業を実施し、石垣の補強と保存に努めた。

石垣部分の工事期間は、９月から12月までのおよそ３ヶ月で、対象となった石垣の面積はおよそ587㎡である。現場では、工事に先行する形で事前調査を実施して、傷みの状態とその原因や施工方法等をカードに記入し、写真撮影と併せて現状の記録とした。調査の結果、施工対象地点は2511ヶ所にも上り、施工面積587㎡に対する面積比から0.23㎡につき１ヶ所であった。今回の施工面積比率を平成19年度と比較すると1.2倍となり、予想以上に傷みが激しかったことが窺える。今年度は、工業製品を使用した補強や割れ部分の除去作業を過去に比べ多く実施されたが、これまでの施工地点に比べて石材自体の傷みが激しかったことが、施工数・施工面積の増加につながったと考えられる。

補修工事期間中に、別途追加対応として児童公園（あじさい広場）露出岩盤補修工事と数寄屋曲輪階段の応急措置工事を実施した。稲荷曲輪北東側の児童公園（あじさい広場）露出岩盤では、崩落等の危険箇所が確認されたため、関係機関との協議を実施し、緊急性が認められることから工事を実施し、立入りできないように植栽も行った。また、舞鶴城公園内の鍛冶曲輪から数寄屋曲輪へと向かう階段で、内部が空洞化した危険な石材が確認されたため、中北建設事務所との現地協議を行い、安全確保のため既存石段の現状回復を行った。

また、石垣補修工事に関わる委託業務を行った。昨年同様に、石垣定点測量・施工後の石垣立面図作成等を実施し、さらに施工前の石垣立面図作成を行うことで作業の効率化を図った。なお、この定点観測測量は、石垣の変異変形を観察する目的で実施している。

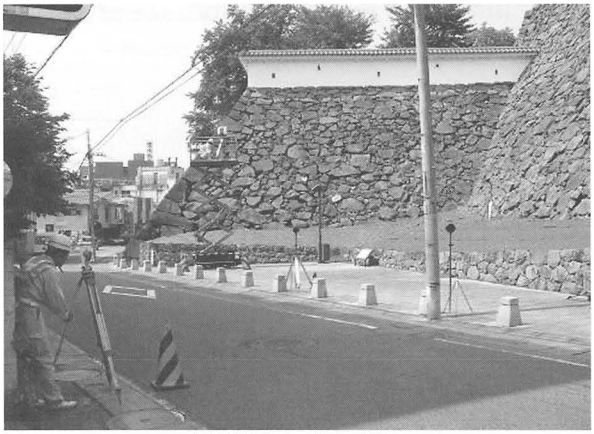
稲荷曲輪周辺の石垣修繕工事


数寄屋曲輪東面・北面石垣（施工後）

補修工事の実施事例（施工前）

補修工事の実施事例（施工後）

補修工事作業の様子


石垣測量作業の様子

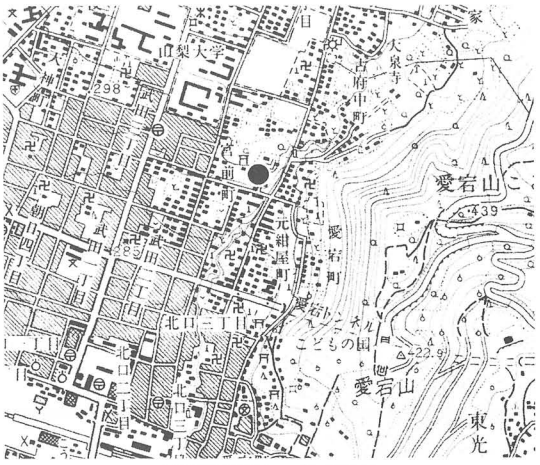
児童公園（あじさい広場）露出岩盤補修工事

数寄屋曲輪階段の応急処置工事

3　県内分布調査

3－1　燃料電池研究開発関連事業に伴う試掘調査

所 在 地　甲府市宮前町６－43
遺 跡 名　八幡神社遺跡
調査期間　2008年５月８日～12日
調査面積　約90㎡（調査対象面積約2,000㎡）
担 当 者　田口明子・正木季洋



試掘調査　位置図

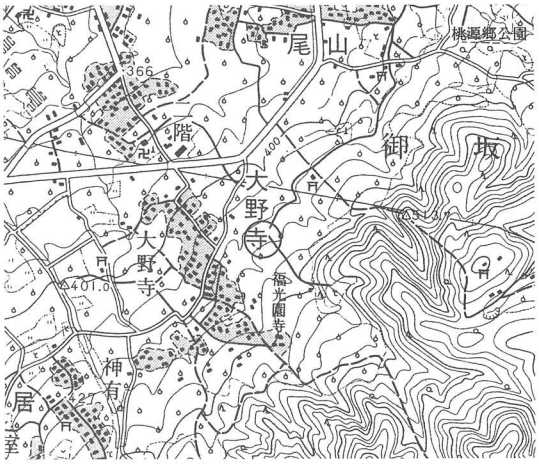
試掘調査対象地内の建物・有用樹木を避けて、長さ約３～14m、幅約１ｍのトレンチを計13本設定し、重機による掘削、人力による平面及び断面精査・観察・記録を行った。

遺構は２・６号トレンチの表土層下において、溝状遺構を１条確認した。溝状遺構内からは縄文時代の土器片や石器、平安時代の土師器片が出土している。遺物は３・13号トレンチを除いたトレンチから縄文時代土器片・石器、平安時代の土師器片、近代の陶磁器片・金属製品が出土している。特に、１・４・９号トレンチでは縄文時代を主体とする遺物が多く出土する遺物包含層が確認されており、調査区中央部を南北に走る道路付近から西側の範囲に遺物包含層が残っているものと考えられる。

以上の結果により、遺物包含層および溝状遺構が確認された範囲と平成12年度試掘調査において土坑が検出された地点を含めた道路東側の約500㎡の範囲と、遺物包含層が残ると考えられる道路西側部分の約1,700㎡の本格的調査が必要となり、平成20年７月１日から９月30日までの62日間にかけて本格的調査を行った。

3－2　山梨リニア実験線(工事用道路)建設事業に伴う試掘調査

所 在 地　笛吹市御坂町大野寺字原1839外地内
調査期間　2008年５月15日～16日
調査面積　108㎡（試掘対象面積3,660㎡）
担 当 者　保坂和博・大木丈夫



試掘調査　位置図

山梨リニア実験線建設に伴い、2008年４月15日に山梨リニア実験線工事用道路建設予定地の現地踏査を行った。この地点では、工事予定地周辺の畑で土器が拾えたため、鉄道・運輸機構、学術文化財課、埋蔵文化財センターの協議の結果、試掘確認調査を実施することとなった。

試掘調査対象地に、長さ５～26m、幅１～1.5mのトレンチを６本設定した。第１号トレンチから第３号トレンチでは、傾斜地の中位に設定した第３号トレンチから低位の第１号トレンチにかけて順次厚さを増す暗赤褐色土層および暗褐色土層を確認した。これらの層から、ビニールや地山にみられる花崗岩が確認されているため、調査対象地外からの客土により整地がなされたものと判断される。その下層は漸移層、地山へと続く。傾斜地の上位に設定した第４号トレンチでは、表土層直下で地山層となり、客土はなく、トレンチのほぼ中央に撹乱が確認された。傾斜地最上位に設定した第５・６号トレンチでは、第５号トレンチで表土の下の層に客土が確認され、これにより平坦に整地され、葡萄畑として使われていた状況が確認された。第６号トレンチ内には、現代の３カ所の暗渠と１カ所の畑管を検出した。

すべてのトレンチにおいて遺構や遺物は見つかっておらず、工事を実施するのに当たり、支障はないものと判断される。

３－３　平等川河川（甲府市上阿原・七沢地内）改修事業に伴う試掘調査

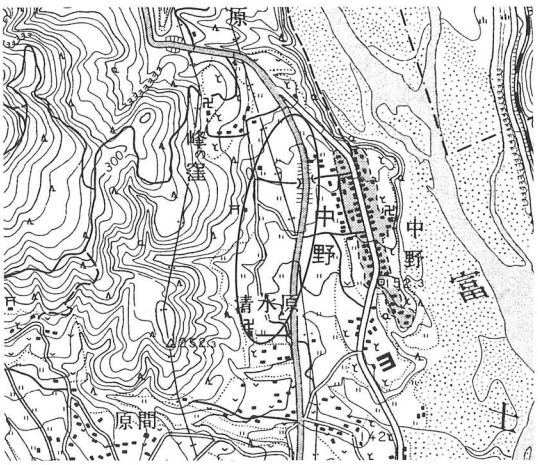
所 在 地　甲府市上阿原字整理地96－２外地内
遺 跡 名　堤防遺跡推定地:七沢の渡し場
調査期間　2008年５月21日～22日、８月27日
調査面積　約59㎡（試掘対象面積1,365㎡）
担 当 者　保坂和博・大木丈夫

試掘調査　位置図

平等川河川改修事業に伴い、2008年１月28日・29日に今回の対象地の下流域で試掘調査を実施した。その時の調査では、遺構・遺物ともに確認されなかった。前回の調査で確認されなかった旧堤防や七沢の渡しの範囲を把握するため、2008年５月21日～22日に試掘確認調査を行った。試掘調査対象地に、長さ３～５ｍ、幅１～1.5ｍのトレンチを12本設定した。ほぼすべてのトレンチで、同じ土層が確認された。表土の下の２層目は、暗オリーブ灰色砂質土層であり、客土であった。３層目は、緑黒色シルト層であり、しまりがなく崩れやすい層であり、湧水が確認された。４層目は、暗オリーブ灰色の粘質土層で、５層目は、オリーブ黒色シルト層であり、４層目と５層目の間から湧水が多量にあった。６層目は、しまりのないオリーブ黒色粘質土層であった。７層目は、暗緑灰色の砂質土で、湧水が確認された。５月21日・22日に上物があり試掘調査できなかった畑の箇所について、８月27日に試掘確認調査を行い、長さ約５ｍ、幅２ｍの２本のトレンチを設定した。両トレンチとも同じ土層が確認された。さらに、前回５月の調査時とも土層は同様であった。試掘調査の結果、①客土層以外は河川の水平堆積と考えられること、②遺構・遺物ともに確認されておらず、七沢の渡し等を含め、遺跡はないと考えられる。

３－４　中部横断自動車道建設事業（南部ＩＣ）に伴う試掘調査

所 在 地　南巨摩郡南部町中野字清水原4908－２外
遺 跡 名　寺前遺跡･清水原遺跡
調査期間　2008年６月16日～20日
調査面積　約365㎡（試掘対象面積14,000㎡）
担 当 者　保坂和博・大木丈夫



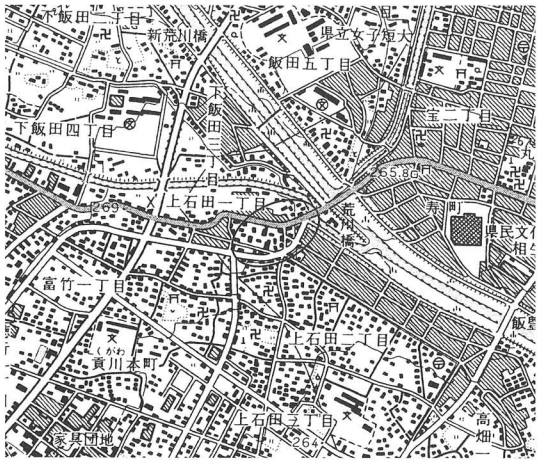
試掘調査　位置図

試掘調査対象地に、長さ５～50ｍ、幅１～1.5ｍのトレンチを20本設定した。

第１号トレンチは表土、暗オリーブ砂礫層、地山の順、第２号トレンチは表土、褐色粘質土の順、第３号トレンチは表土、黒褐色粘質土層、褐色粘質土の順で堆積していた。第４号トレンチは表土から約180cmが埋土で、灰オリーブ粘質土層、褐色粘質土層、第５号トレンチも表土から約100cmが埋土で灰オリーブ粘質土層、褐色粘質土層が堆積していた。第６号トレンチは表土、地山、第７号トレンチは表土、埋土、地山の順で堆積していた。第８～14号トレンチは耕作土層、黒褐色土層、暗褐色土層、地山の順で堆積しており、この地点では、遺構・遺物が確認され、寺前遺跡が発見された。遺構は、竪穴２基・土坑２基・溝状遺構４条・ピット５基検出されている。また、縄文土器も出土している。第15・16号トレンチは、土層の堆積状況は、第８～14号トレンチとほぼ同様であったが、遺構・遺物ともに確認されていない。第17～20号トレンチは清水原遺跡に設定した。第17号トレンチは表土、暗褐色土、地山、第18～20号トレンチは耕作土、地山の順で堆積していた。この地点は清水原遺跡であるが、遺構・遺物ともに確認されなかった。

３－５　一般国道52号（上石田）改良事業に伴う試掘調査

所 在 地　甲府市上石田二丁目835－１外地内
調査期間　2008年６月23日～25日
調査面積　約177㎡（試掘対象面積4,524㎡）
担 当 者　保坂和博・大木丈夫

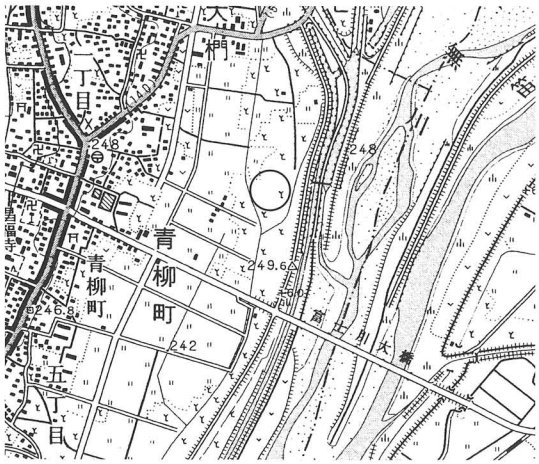


試掘調査　位置図

試掘調査対象地に、長さ７～24m、幅１～1.5mのトレンチを８本設定した。第１号トレンチは表土から約60cmが埋土で、その下層は川の流れによる自然堆積層で、砂層とシルト層の互層であった。第２号トレンチは、埋土と自然堆積層との境まで掘り下げ、遺構などの掘り込みは確認されなかった。第３号トレンチは、表土から約20cmが埋土で、それから下層は自然堆積層で、上層からシルト層、粘質土層、シルト層、粘質土層の順であり、埋土から70cmで砂礫層が確認された。第４号トレンチは、表土が30cm、表土の下層は、自然堆積層であった。自然堆積層は、上層から粘質土層、砂質土層、粘質土層、砂礫層の順で堆積していた。第５号トレンチは、砂質土の表土があり、それから下層は自然堆積層で、粘質土層、砂礫層の順で堆積していた。第６号トレンチは、建物の基礎が埋まっていたものと考えられ、遺構や遺物を確認できる状態ではなかった。第７号トレンチは、表土の下層が川の流れによる自然堆積層で、粘質土層、砂質土層、シルト層、砂質土層、シルト層、砂礫層の順で堆積していた。第８号トレンチは、表土の下層に約30cmの厚さの撹乱層が確認された。撹乱の下層は、川の流れなどによる自然堆積層で、粘質土層、砂質土層、砂礫層の順で堆積していた。遺物は、近世、近代の陶磁器が出土しているが、これらは、川に流れなどにより運ばれてきたか、建物建設時に整地した際に、埋まったものと考えられる。また、遺構も発見されていない。

３－６　中部横断自動車道建設事業（増穂ＩＣ）に伴う試掘調査

所 在 地　南巨摩郡増穂町大字大椚777－１外地内
調査期間　2008年８月11日～12日
調査面積　約180㎡（試掘対象面積9,065㎡）
担 当 者　保坂和博・大木丈夫



試掘調査　位置図

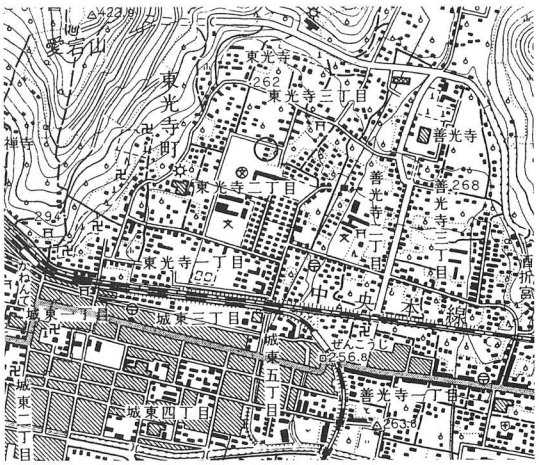
試掘調査対象地に、長さ６～10m、幅1.5～２mのトレンチを10本設定した。

トレンチの基本層序は次のとおりである。１層：にぶい黄褐色砂質土層（表土）、２層：灰黄褐色シルト質土層、３層：灰オリーブ色シルト質土層、４層：灰オリーブ色砂利層、５層：灰オリーブ色シルト質土層、６層：オリーブ褐色粘質土、７層：オリーブ褐色シルト質土層、８層：暗オリーブ褐色粘質土、９層：オリーブ褐色粘質土層、10層：暗緑灰色シルト質土層、11層：暗オリーブ灰色粘質土層、12層：暗緑灰色（5GY3/1）シルト質土層、13層：暗オリーブ灰色粘質土、14層：暗オリーブ灰色土層であった。

これらの堆積状況から、この地区は、富士川の氾濫原であったことがわかる。６層（地表から約120cm）と８層（地表から約200cm）は、近世から近代の水田の床土と考えられる。すでに、試掘調査区域付近にある町屋口遺跡、藤田池遺跡で当該時期の水田跡の調査がされており、さらに今回の試掘調査の結果、検出した水田跡は近世以後のものであり、本地域における文化財保護の観点（山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要項）から保護措置の必要はなく、工事を実施するに当たり支障はないと判断される。遺物については、いずれのトレンチからも発見されていない。

３－７　かえで支援学校車庫棟新築事業に伴う試掘調査

所 在 地　甲府市東光寺２－25－１－１外地内
調査期間　2008年９月１日
調査面積　約62㎡（試掘対象面積366㎡）
担 当 者　保坂和博・大木丈夫



試掘調査　位置図

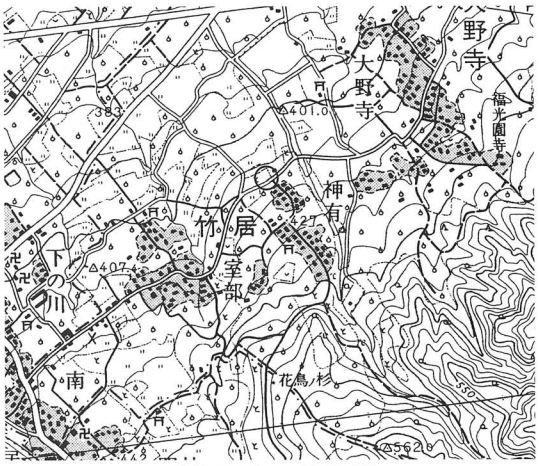
試掘調査対象地に、長さ６～18m、幅1.5mのトレンチを３本設定した。掘削は、重機を用いて実施し、人力による平面・断面の観察を行った。

トレンチの基本層序は次のとおりである。１層は表土で黒色粘質土層、２層も黒色粘質土層で径10～20cm大の礫が多量に混入していた。３は青黒色粘質土層、４層はオリーブ褐色粘質土層、５層は黒色粘質土層で、６層はオリーブ黒色粘質土層、７層は黒色粘質土層、８層はオリーブ黒色粘質土層、９層は黒褐色粘質土層であった。１～４層までは客土（ビニールなど含む）された層である。５層以下は自然堆積層である。５層以下には、ヨシなどの植物繊維が多量に含まれていることから、湿地帯（沼地）を形成していたと考えられる。

また、遺物は、平安時代の土器などが表採され、客土の層から中近世の焙烙が出土しているが、両者とも他の土地から混入したものである。遺構については、いずれのトレンチからも発見されていない。

３－８　山梨リニア実験線（工事用道路）建設事業に伴う試掘調査

所 在 地　笛吹市御坂町竹居4781地内
調査期間　2008年９月８日～９日
調査面積　58㎡（試掘対象面積334㎡）
担 当 者　保坂和博・大木丈夫



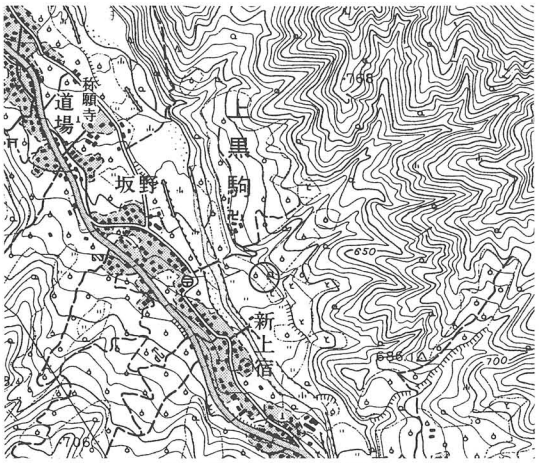
試掘調査　位置図

山梨リニア実験線工事用道路建設に伴い、2008年８月15日に県企画部リニア交通課と学術文化財課と埋文センターで現地協議が行われた。当地点は旧地形が残り、遺跡が存在する可能性が高いと判断されたため、遺跡の有無の確認調査をすることになった。

トレンチの基本層序は次のとおりである。表土層（耕作土）、黒褐色土層、暗褐色土層、黒褐色土層、黄褐色土層（地山層）の順で堆積していた。調査対象地区の土層は、自然に堆積した層であった。５層および６層からは縄文土器や平安時代の土器が出土しているが、土層の堆積状況からすると流れ込みと考えられる。また、遺構も確認されておらず、遺跡はないものと考えられる。よって、工事を実施するに当たり支障がないと判断される。

3－9　山梨リニア実験線（工事用道路・作業ヤード）建設事業に伴う試掘調査

所 在 地　笛吹市御坂町上黒駒6177外地内
調査期間　2008年９月16日～17日
調査面積　84㎡（試掘対象面積6,250㎡）
担 当 者　保坂和博・大木丈夫



試掘調査　位置図

2008年４月15日に山梨リニア実験線建設に伴う工事用道路・作業ヤード予定地の現地踏査を実施した。その結果、当地点は南向きの緩斜面であり、遺跡の存在が想定されることから、埋蔵文化財の有無確認調査が必要と判断された。

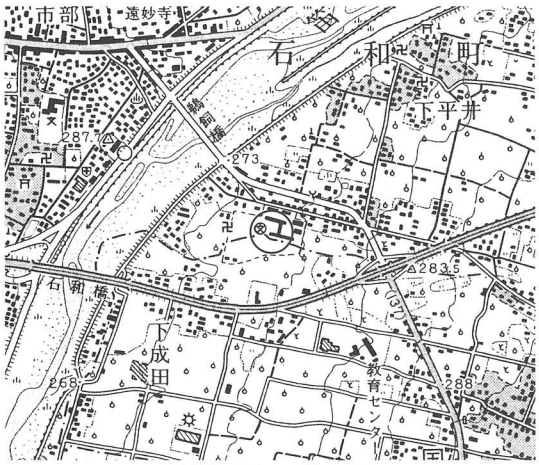
Ａ地区には第１号～４号トレンチの4本のトレンチを設定した。表土の直下からは旧沢地形を埋める砂を多く含む自然堆積層が検出された。

Ｂ地区には第５～７号トレンチを設定した。この地点の層序は、表土の直下が地山層であった。

Ｃ地区には第８・９号トレンチを設定した。これらのトレンチの第１～３層は埋土であり、埋土の層から遺物が出土している。第４～９層は地山層である。すべてのトレンチで遺構は確認されていない。Ａ・Ｂ地区では遺物は出土していない。Ｃ地区では遺物が出土しているが、埋土の層から出土しているので、遺跡ではないと考えられる。よって、工事を実施するに当たり支障がないと判断される。

3－10　峡東第四総合学科高校建設事業に伴う試掘調査

所 在 地　笛吹市石和町市部３地内
遺 跡 名　石和高校周辺遺跡
調査期間　2008年９月24日～25日
調査面積　約40㎡（試掘対象面積約8,100㎡）
担 当 者　保坂和博・大木丈夫



試掘調査　位置図

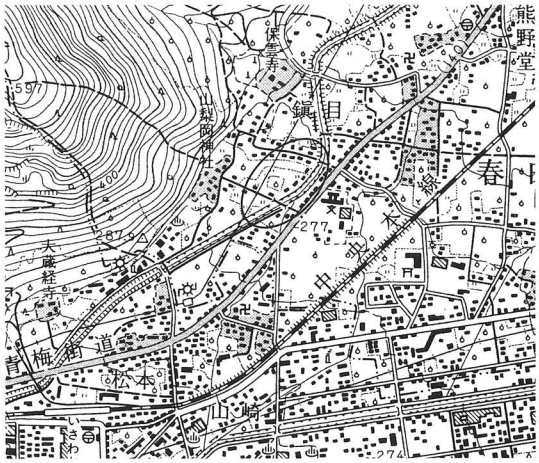
試掘調査対象地に、長さ４～６ｍ、幅1.5～２ｍのトレンチを５本設定した。

第１号～第３号トレンチは、グランドのサッカーコートの脇にトレンチを入れた。第１～４層はグランドを整備するための整地層である。第５層以下は、粘質土や砂質土などの河川堆積物であった。そのため、遺構は確認できなかった。また、第２号トレンチから古墳時代の土器が出土しているが、河川による流れ込みと考えられる。よって、グランドには遺跡が確認されていないので、工事に支障はないと判断される。

第４・５号トレンチは、校舎の間、格技場の隣接地の駐車スペースにトレンチを入れた。第４号トレンチ第１～３層、第５トレンチ第１～５層は埋土であり、近代の遺物が出土している。第４・５号トレンチともに埋土より下層は自然堆積層となる。第４号トレンチ第６層は、畦畔状の高まりが確認されているため、水田の床土と考えられる。この水田が営まれた時代は不明であるが、近代以前のものと考えられるため、調査が必要となる。しかし、現在校舎が建っており、調査対象面積が狭くなるため本調査は困難である。よって、現校舎の解体の際に、立会調査をすることが必要である。

３－11　平等川河川改修事業に伴う試掘調査

所 在 地　笛吹市春日居町鎮目1536－11外地内
遺 跡 名　大伝遺跡・保雲寺橋遺跡
調査期間　2008年10月１日
調査面積　約24㎡（試掘対象面積約530㎡）
担 当 者　保坂和博・大木丈夫



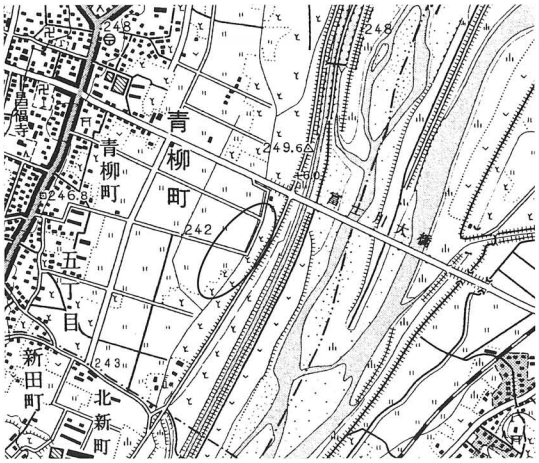
試掘調査　位置図

試掘調査対象地に、長さ３～５ｍ、幅1.5ｍのトレンチを４本設定した。第1・2号トレンチは、周知の遺跡である保雲寺橋遺跡内に設定した。調査対象地の土層は、河川による堆積であった。また、このトレンチからは、遺物・遺構ともに確認されていない。よってこの箇所については、工事に支障はないものと考えられる。

第３号トレンチは、周知の遺跡である大伝遺跡内に設定した。表土の下に礫層があり、その下層はアスファルトやビニール等が混入している埋土であった。埋土の最下層は表土から240cmにあり、その下層は砂地であった。しかし、重機のアームがこの深さ以上掘れなかったため、遺跡の有無を確認できなかった。よって、調査対象面積が狭いことから、工事立会が必要と判断される。第4号トレンチも大伝遺跡の範囲内に設定した。畑では、縄文時代や平安時代の土器片が採集できたが、表土は客土されたものであった。表土の直下の層は、砂質土層でその下の層は埋土であった。埋土の下層は河川により堆積した層であった。表土から235cmで昭和の水田面が検出された。それより深くは重機のアームが届かないために掘ることができなかった。大伝遺跡の試掘調査対象地は、遺跡があるかどうか確認ができず、調査対象面積が狭いことから、工事立会が必要と判断される。

３－12　防災ステーション建設事業に伴う試掘調査

所 在 地　南巨摩郡増穂町青柳1706外地内
遺 跡 名　青柳河岸跡
調査期間　2008年11月17日～21日
調査面積　約175㎡（試掘対象面積約10,000㎡）
担 当 者　保坂和博・大木丈夫



試掘調査　位置図

試掘調査対象地に、長さ５～６ｍ、幅1.5～３ｍのトレンチを10本設定した。第１号～第６号トレンチでは、砂層やシルト層の互層に粘質土層が挟在する沖積地特有（洪水の影響）の状況が見られ、これらの粘質土層からは、近世から近代の水田跡を検出した。遺物は第２号トレンチの９層から近世の磁器片が出土した。第７・８号トレンチは、これまでの調査結果から青柳河岸の入り口へ続く「馬入本道」の存在が想定される現道部分に設定した。両トレンチからは、非常にしまった硬化面（砂利層）が９面検出され、近世から近代の青柳河岸へ続く「馬入本道」と考えられる。遺物は、第７号トレンチ20層（道路５面）から近世の磁器片が出土した。第９・10号トレンチは、第１号～第６号トレンチと同様、沖積地特有の土層堆積状況が見られ、３面の水田跡を検出した。両地点では、遺物の検出には到らなかった。

試掘調査の結果、第１号～第６号トレンチおよび第９・10号トレンチでは、近世以降の水田跡を検出したが、これまでの町屋口遺跡や藤田池遺跡の発掘調査により、この地域一帯における当該期の水田の広がりを把握していることから、本地域における文化財保護の観点より当該地の保護措置の必要はないものと判断される。第７・８号トレンチで確認された「馬入本道」は、平板実測による位置図作成と断面実測を行い、道の範囲や内容を把握し、記録写真撮影による記録保存の保護措置の対応を図ったことから、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

３－13　中部横断自動車道（八之尻トンネル）建設事業に伴う試掘調査

所 在 地　西八代郡市川三郷町字谷津1772－１外地内
遺 跡 名　谷津遺跡
調査期間　2008年12月８日
調査面積　約26㎡（試掘対象面積3,500㎡）
担 当 者　保坂和博・大木丈夫

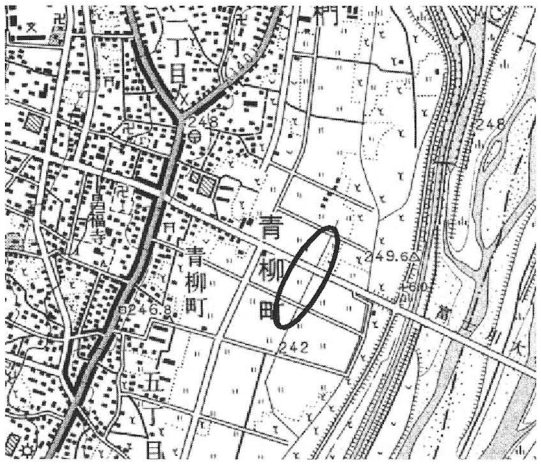
試掘調査　位置図

本事業は、中部横断自動車道建設にかかる八之尻トンネル工事である。今回の試掘調査では、対象地内の緩斜面において長さ約６～11m、幅約１ｍのトレンチを３本設定し、重機を用いて掘削し、人力による平面・断面の観察を行った。

山間部北斜面の旧畑地内に設定した第１・２号トレンチの土層堆積状況は、１層（畑耕作土：にぶい黄褐色土層）、２層（褐色粘質土層）、３層（黄褐色粘質土層）、４層（黄褐色粘質土層）、５層（黄褐色粘質土層）、６層（明黄褐色土層）の順に堆積し、２層目以下は各層位とも水平堆積が見られず、地山のロームブロックを斑状に多量に含んでおり、山伏北斜面に堆積した地崩れ層と考えられる。第１・２号トレンチとの比高差10mの一段低い北緩斜面の旧畑地内に設定した第３号トレンチの土層堆積状況は、１層（畑耕作土：にぶい黄褐色土層）、２層（褐色土層）、３層（黒褐色粘質土層）、４層（にぶい黄褐色粘質土層）の順に堆積し、２層目以下は第１・２号トレンチ同様に山伏北斜面に堆積した地崩れ層と考えられる。試掘調査の結果、第１～３号トレンチの土層堆積状況は、表土下に地崩れ層が確認され、いずれも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡は存在しないものと考えられる。よって、工事には支障にはないと判断される。

３－14　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所 在 地　南巨摩郡増穂町字青柳
遺 跡 名　町屋口遺跡
調査期間　2008年12月８日～12日までの内４日間
（8・9・11・12日）
調査面積　約547.3㎡（試掘対象面積12,370㎡）
担 当 者　笠原みゆき・古郡雅子



試掘調査　位置図

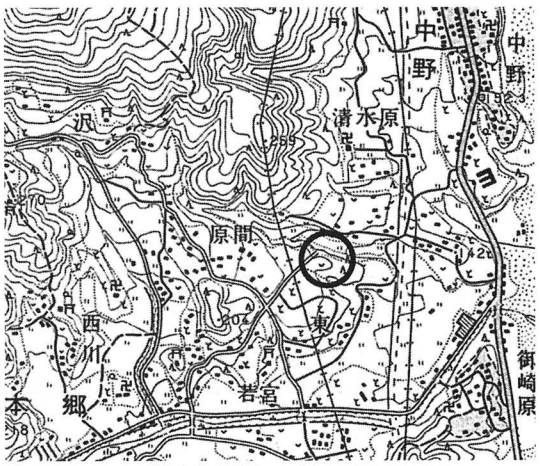
調査地点は、一般国道52号線バイパスに並行する水田地帯で、富士川大橋につづく国道を南北に挟んで位置している。道路を挟んだ南側を１区、道路北側を２区とし、トレンチでの調査を行った。１区では、一般国道52号改築工事に伴う発掘調査において確認された作場通い道とその下層で発見された杭列を伴う水路の範囲確認と水田の状態を調査した。その結果、第３・第９トレンチにおいて杭列が確認できた。第３トレンチ内の杭列は、青灰色シルト層直上の砂層から確認できるが、掘り込みなどは確認できなかった。しかし、これらの杭列は、「作場通い道」とは方向が違い、その性格について確認する必要があったため、並行して第９トレンチを設定したところ、ここでは杭列に向かって、板材と杭が新たに確認された。これは、水田に水を引く取水口のようで、板材の両脇は、粘土で固められて畦状になっており、その南側の断面観察では水田面が確認できた。このため、第３・９トレンチで確認された杭列は水田に関係するものであり、「作場通い道」との直接的な関係を確認することはできなかった。時期は、出土した少ない遺物から推定して江戸時代末期から明治時代以降のものと考える。２区では、一般国道52号改築工事に伴う発掘調査において確認された「お蔵道」の範囲を確認した。ここでは、３本のトレンチを設置し、そのうちの

第13・15トレンチで「お蔵道」が確認できた。「お蔵道」は、幅４～4.5mほどで、砂利と粘土をレンズ状に突き固めたもので、とても硬く締まっていた。

調査の結果、１区については、作場通い道に関係する直接的な遺構は確認出来ず、発掘調査に結びつける決定的な結果を得ることはできなかった。しかし、２区については青柳河岸に向かうお蔵道が確認されたため、対象面積約1,800㎡の発掘調査が必要であると判断した。

３－１５　中部横断自動車道建設事業（南部町本郷原間）

所 在 地　南巨摩郡南部町本郷字原間309番地ほか
遺 跡 名　原間遺跡
調査期間　2008年11月19日～12月３日
調査面積　900㎡（対象面積11,000㎡）
担 当 者　山本茂樹・上原健弥

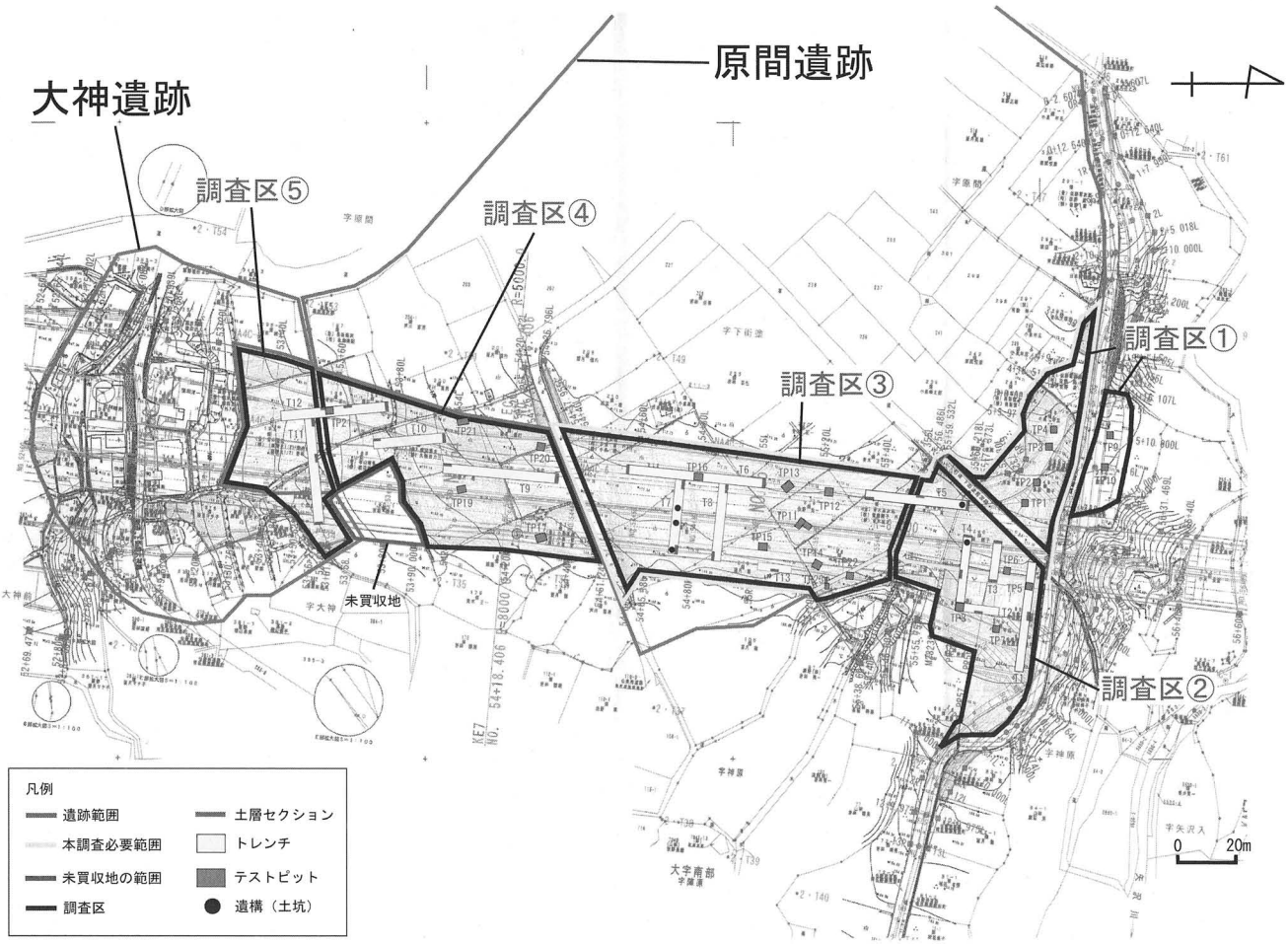


試掘調査　位置図

当地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地「原間遺跡」内であり、中部横断道予定地は遺跡の東部分を南北に縦断する。原間遺跡地内は、主に茶畑として戦後利用されてきた土地で、縄文時代中期を主体とした土器片、黒曜石製の石鏃、打製石斧などが多く表採されている。そのため、本調査に向けた情報収集を目的に試掘調査を実施した。

原間遺跡は、船山川の支流である矢沢川と小川に挟まれた南向きの緩傾斜地に位置し、遺跡の南側の斜面部分には大神遺跡がある。試掘調査では、調査対象地内にトレンチ12本、テストピット23ヶ所を設定し、重機と人力による掘削及び調査を実施した。調査対象地の北側を中心に遺物包含層が良好に残っており、最大で表土下に厚さ60cmほどの遺物包含層を確認した。出土遺物は、縄文時代後期の土器や打製石斧などの石製品が見つかっている。一方、大神遺跡に近い南側部分（調査区内を東西に通る農道より南側）では未買収地を除く範囲を調査した結果、遺物が数点出土しているものの、30cmほどの表土層直下に礫を含む自然堆積層が拡がっている状況を確認した。

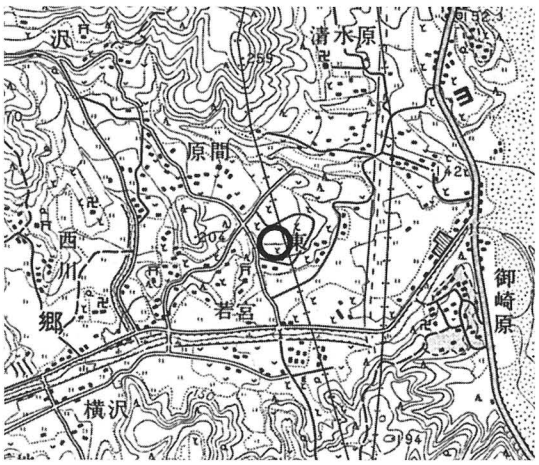
以上のことから、遺物包含層が確認された農道よりも北側では本調査が必要である。また、農道より南側については、未買収地を除く範囲では工事による影響がないものと考えられる。しかし、未買収地は比較的平坦な地形であり、南に隣接する大神遺跡内に設定したトレンチからは遺物が出土していることから、土地取得後に試掘調査の実施が必要である。



原間遺跡・大神遺跡の範囲と調査地点

３－１６　中部横断自動車道建設事業（南部町本郷大神）

所 在 地　南部町本郷字上大神366番地ほか
遺 跡 名　大神遺跡
調査期間　2008年11月19日～12月３日
調査面積　138㎡（対象面積1,000㎡）
担 当 者　山本茂樹・上原健弥



試掘調査　位置図

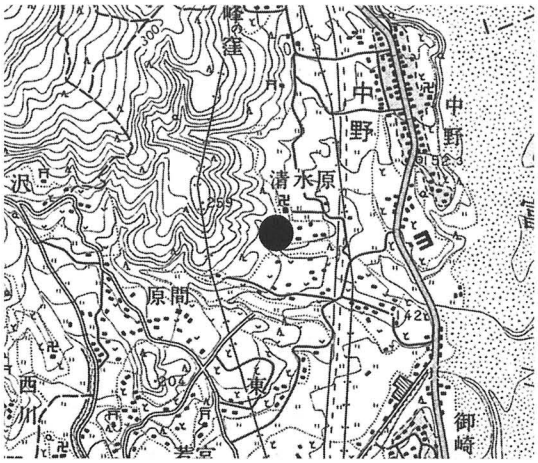
当地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地「大神遺跡」内にあたり、中部横断道予定地は遺跡の中心よりやや東を南北に縦断する。大神遺跡の範囲は、船山川に面する南向き斜面部がその中心となるが、原間遺跡との境近くの未買収地付近には平坦部がある。南部町史によると、打製石斧が数点採集されており、縄文時代の遺跡であることが知られている。

調査対象地内には、南北方向のトレンチ（原間遺跡と本遺跡を跨ぐ形）と東西方向のトレンチを設定して調査を実施した。東西方向のトレンチでは、中央付近を頂点に南西方向へ大きく傾斜している。同トレンチ東側では、表土層と礫を含む自然堆積層の間に、暗褐色から暗茶褐色の土層堆積がみられ、これらの層中から縄文土器片が２点出土している。中央部ではこれらの土層が確認できなかったことから、耕作等により消失してしまった可能性もある。また、重機による掘削排土からは、陶器（灯明皿）が１点出土している。

東西方向のトレンチ北側には、約450㎡の未買収地が残っており、この範囲については試掘調査を実施していない。そのため、当調査範囲における本調査の必要性については、未買収地の試掘調査結果も踏まえて判断する必要がある。

３－17　中部横断自動車道建設事業（南部町慈眼寺裏）

所 在 地　南巨摩郡南部町中野4171番地ほか
調査期間　2008年11月18日、19日
調査面積　64㎡（対象面積400㎡）
担 当 者　山本茂樹・上原健弥



試掘調査　位置図

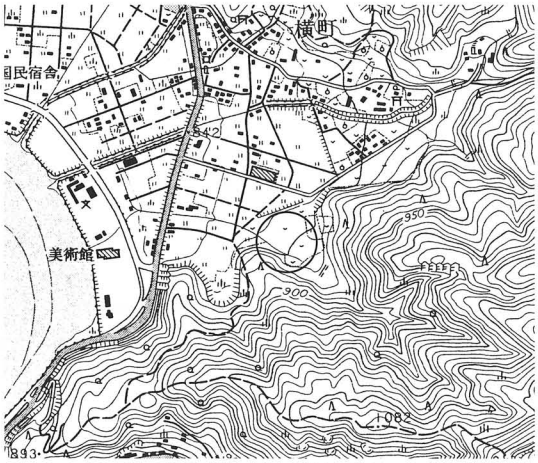
当地点は、慈眼寺の裏手（南西）部分で、山裾から川へ至る斜面のうち平坦部分のおよそ400㎡であった。平坦部は上下に二段あり、合計で４本のトレンチを設定し、約64㎡を調査した。下段部には、トレンチ２本を縦列に設定し、地山層まで掘削した。いずれも15cm～30cmの表土層を取り除くと、地山の堆積が確認され、遺構や遺物は検出されなかった。

上段の平坦部は、五輪塔や無縁仏40体分があった墓域で、２本のトレンチを縦列に配置し調査した。両トレンチとも、20cmほどで自然堆積層に達し、墓に関する遺構や遺物はみつからなかった。また、周辺に散在する石材の表面を調査したが、墓石等として用いられたと考えられる石材の確認には至らなかった。

工事予定範囲は斜面部が大半であり、トレンチを設定した平坦部分では、遺構や遺物は検出されていない。以上の結果から、当該範囲には遺跡はなく、工事による影響もないと考えられる。

３－18　吉田河口湖バイパス建設事業に伴う試掘調査

所 在 地　富士河口湖町534外地内
遺 跡 名　滝沢遺跡
調査期間　2008年12月15日～19日
調査面積　約516㎡（試掘対象面積5,908㎡）
担 当 者　保坂和博・大木丈夫



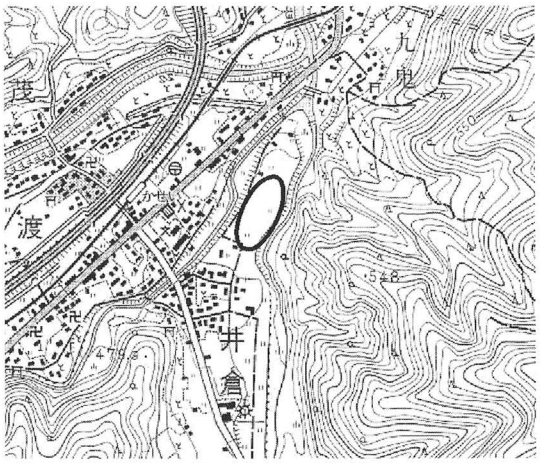
試掘調査　位置図

試掘調査対象地に、長さ約13～55m、幅約1.5mのトレンチを畑地等の開墾により造成された面に基づいて、上段面（第８・９号トレンチ）、中段面１地点（第５・６・７・10・11号トレンチ）、中段面２地点（第３・４号トレンチ）、下段面（第１・２号トレンチ）に計11本設定した。

今回の調査区における基本土層は、34層の細別層の堆積が確認され、Ⅰ層～Ⅷ層に大別される。検出した遺構は、平安時代の住居跡３軒、土坑５基、溝状遺構５条、古墳時代以前の土坑２基、溝状遺構1条、時期不明の土坑4基が確認された。遺物は、第１号トレンチの14層で縄文時代の土器片が極少量、第４～７・10・11号トレンチの遺物包含層（Ｂ層、Ｃ層、Ｃ'層、Ｄ層）で縄文時代から平安時代の土器片が混在して少量、各トレンチの古墳時代から平安時代の文化層となる2層から当該期の土器片が多量に出土する状況である。試掘調査の結果、本調査の対象となる遺物包含層は、①縄文時代から平安時代の遺物包含層（Ｄ層）：約3,900㎡（上段面：第８・９号トレンチ、中段面１地点：第５・６・７・10・11号トレンチ）、深さ約30cm。②縄文時代の遺物包含層（Ｅ層～Ｇ層）：約1,725約㎡（上段面：第９号トレンチと中段面１地点：第５・６・10・11号トレンチの山地側）、深さ約120cm。また、調査対象となる文化層は古墳時代から平安時代の文化層（２層）１面、約5,908㎡である。

3－19　都留バイパス建設事業に伴う試掘調査

所 在 地　都留市字井倉
遺 跡 名　美通遺跡
調査期間　2009年１月21日～年１月27日
調査面積　360㎡（対象面積2,900㎡）
担 当 者　笠原みゆき・古郡雅子



試掘調査　位置図

試掘調査対象地は、今年度発掘調査された美通遺跡の東側に続く路線上である。調査区東から西に向かって、15本のトレンチを設定した。今回の調査の目的は、都留バイパス建設に伴う事前調査である。今年度の調査地点では、縄文時代中期末の敷石住居跡や縄文時代早期～後期、古墳時代の遺物が検出されている。この遺構や遺物の分布範囲がどこまで広がるかを含め、確認調査をおこなった。

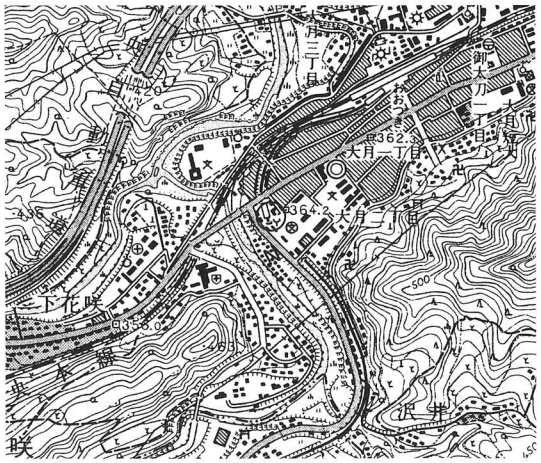
調査の結果、15本設置したトレンチのうち、第１～第３トレンチと第４～第15トレンチでは、水路をはさんで土層の堆積状況や、遺構の性格が異なることがわかった。

第１～３トレンチでは、表土下を約20cmで火山灰を含んだ黒褐色土が検出できる。この層では、第１トレンチで土穴や集石土坑が確認された。これらの遺構の多くは、掘り込み面がわかりにくく、黒褐色土の下層にあるローム層まで掘り下げて確認できたものである。遺物は、縄文土器片が１点検出されたのみである。第４～15トレンチでは、第１～第３トレンチの堆積とは違い、耕作面と第１～３トレンチで確認された黒褐色土の間に、厚い土壌の堆積が確認された。これらの土壌中には、発掘調査時に検出された橙色のスコリアが多く含まれる火山灰層に類似する層があり、この層は、S15～18層縄文時代後・晩期に相当する。この層から上層の黒褐色土中から土坑23基や焼土が検出された。第５トレンチの土坑は、底面に平らな石を並べた状態であり、この同じ層から常滑産のカメと類似する破片が検出できた。このため、同じ層位から掘り込まれた土坑は、13～14世紀の遺構と考えている。また、焼土はトレンチの多くで検出されているが、第10・11・14トレンチでは広範囲で検出された。

このような、結果から今回の試掘対象地では、縄文時代の土坑５基・集石土坑４基・焼土１ヶ所と中世の土坑18基・焼土数箇所が検出され、発掘対象面積は試掘対象面積と同じ2,900㎡であることがわかった。

3－20　山梨県立都留高等学校トレーニングセンター・屋内練習場建設工事に伴う試掘調査

所 在 地　大月市大月２－11－20地内
遺 跡 名　大月遺跡
調査期間　2009年１月16日
調査面積　約20㎡（試掘対象面積約340.77㎡）
担 当 者　保坂和博



試掘調査　位置図

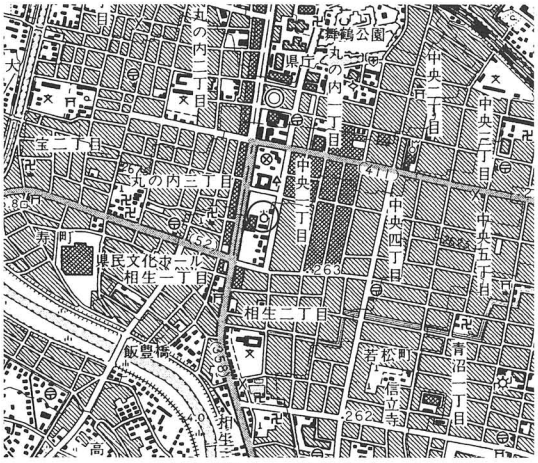
試掘調査対象地に、長さ約７～10m、幅約0.8mのトレンチを３本設定した。第１号トレンチでは、平成８年時のグランド整地層・盛土層となる１層（砂層）、２層（砂層）、３層（砂礫層）、４層（黒褐色土層）が地表から約1.2m以上の深さまで確認され、文化層の検出には到らなかった。第２号トレンチでは、第１号トレンチ同様、グランド整地層・盛土層（１～４層）が確認された。５層以下は、５層（文化層：縄文時代）、６層（シルト層）、７層（粘質土層）、８層（砂利層）の順に堆積し、地表から約70cmの深さまで堆積するグランド整地層・盛土層（１～４層）の堆積下に縄文時代の文化層（５層）が確認された。５層では、縄文時代の土器片を出土したピットが１基確認された。第３号トレンチ

では、１層から５層までは第２号トレンチ同様である。５層の堆積下は、９層（褐色ローム層：第２号トレンチの６層から８層に対応する）、10層（富士山を起源とする溶岩層）の順に堆積し、地表から約60cmの深さまで堆積するグランド整地層・盛土層（１～４層）の堆積下に第２号トレンチで検出した縄文時代の文化層（５層）が確認された。

試掘調査の結果、第２・３号トレンチでは、縄文時代の文化層（５層）が確認されたことから、当該埋蔵文化財包蔵地内で、土木工事を行う場合には、事前に埋蔵文化財の適切な保存措置（保護層の確保）を行う必要がある。

３－21　甲府地方検察庁新営庁舎建設事業に伴う試掘調査

所 在 地　甲府市中央１－11外地内
遺 跡 名　甲府城下町遺跡および徽典館跡地
調査期間　2009年１月28日～29日、２月２日
調査面積　約55㎡（試掘対象面積2,052㎡）
担 当 者　保坂和博・大木丈夫



試掘調査　位置図

仮設庁舎建設地点は、中央公園内北側に設定した第２・４・６・８号トレンチでは、遺構や遺物は確認されなかったが、南側に設定した第１・３・５・７号トレンチでは、江戸時代の文化層が確認されたことから、当該埋蔵文化財包蔵地内で、土木工事を行う場合には、事前に埋蔵文化財の適切な保存措置（保護層の確保）を行う必要がある。

新庁舎建設地点では、現庁舎南側の職員駐車場内に設定した第１・２号トレンチで、地表から約1mの深さまで堆積する近現代の整地・埋土層（１～６層）の堆積下に江戸時代の文化層（７層）が確認された。７層では、上面で確認されたピット１基をはじめ、江戸時代の陶磁器やかわらけなどが出土した。現庁舎南側の一般駐車場内に設定した第３号トレンチでは、第１・２号トレンチと同様、地表から約70cmの深さまで堆積する近現代の整地・埋土層（１～６層）および近現代の文化層（A～D層）の堆積下に江戸時代の文化層（７層）が確認された。７層では、遺構の検出には到らなかったが、江戸時代の土器（焙烙）などが出土した。試掘調査の結果、第１号～第３号トレンチでは、江戸時代の文化層（７層）が確認されたことから、当該埋蔵文化財包蔵地内で、土木工事を行う場合には、事前に埋蔵文化財の発掘調査等適切な保存措置を行う必要がある。

３－22　専門学校農業大学校建替事業に伴う試掘調査

所 在 地　北杜市長坂町長坂上条3251地内
調査期間　2009年２月18日
調査面積　約38㎡（試掘対象面積約1,375㎡）
担 当 者　保坂和博・大木丈夫

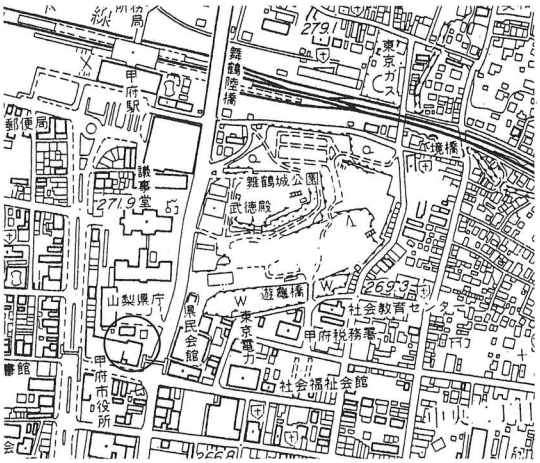
試掘調査　位置図

試掘調査対象地に、長さ約２～11m、幅約１mのトレンチを７本設定した。第１号～第３号トレンチは、仮説校舎建設予定地である寮舎と体育館の間の駐車場として使用されている地点に設定した。各地点の土層堆積状況は、駐車場として利用されているため、１層は砕石層（灰オリーブ色砕石層）、２層（整地層：にぶい黄褐色土層）、３層（地山：褐色ハードローム層）の順に堆積する。１・２層は駐車場のため整地された層であり、３層はローム層で地山であった。現在はほぼ水平な土地で

あるが、元来斜面であり、開拓のため削平されたものと考えられる。この地点では、遺構・遺物は発見されなかった。第４～７号トレンチは、新営本館建設予定地である本館と教室実験室の間の植栽の間に設定した。土層の堆積状況は、１層（芝生：褐色土層）、２層（黄褐色土層、暗褐色土層、褐色土層）、３層（黄褐色ソフトローム層）、４層（褐色ハードローム層）の順に堆積し、２層目は、盛土と考えられ、３層目以下は地山層であった。この地点でも遺構・遺物の検出には到らなかった。試掘調査の結果、第１～３号トレンチの土層堆積状況は、表土直下に地山が確認され、いずれも遺物や遺構は全く確認できていない。また、第４～７号トレンチにおいても、表土下は盛土層で、その直下で地山が確認されおり、ここでも遺構・遺物は発見していないので、遺跡は存在しないものと考えられる。よって、工事を実施するのに当たり、支障はないものと判断される。

３－23　県庁舎耐震化等事業に伴う確認調査

所 在 地　甲府市丸の内一丁目
遺 跡 名　甲府城跡
調査期間　2008年６月14日～22日
調査面積　約52.5㎡
担 当 者　野代幸和　長田隆志



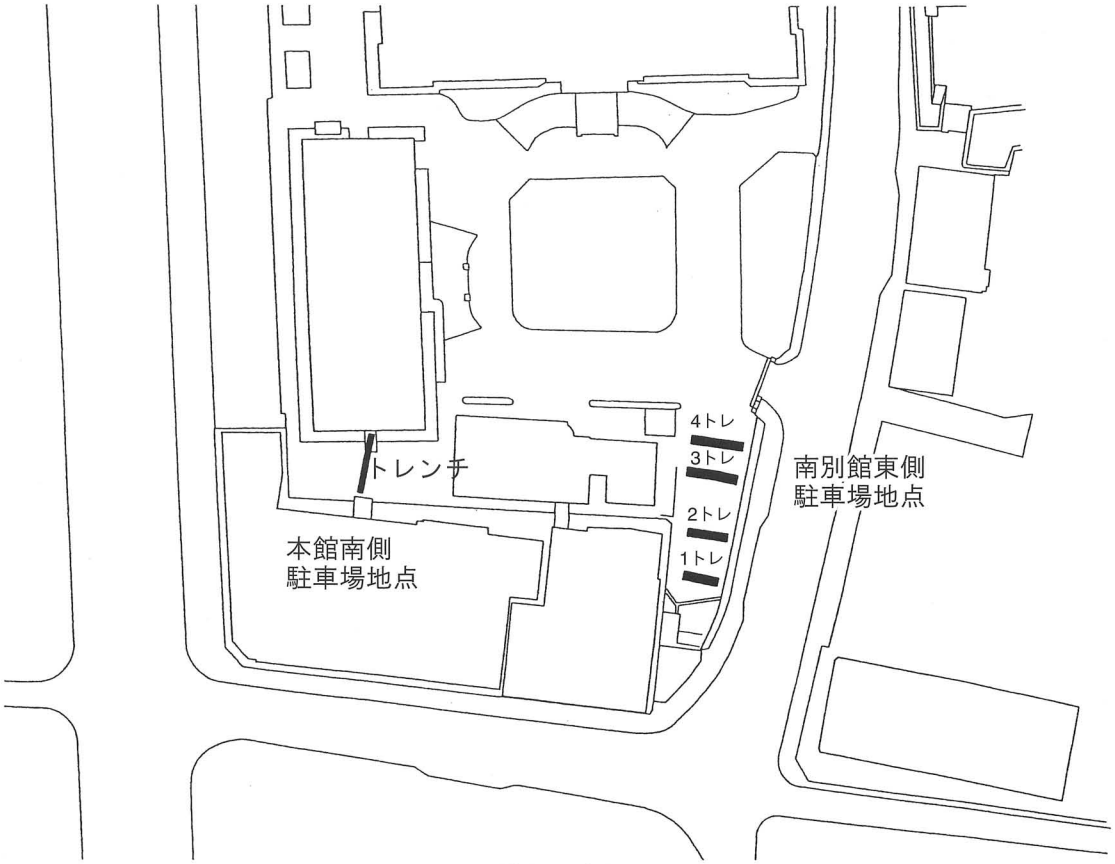
試掘調査　位置図

本事業は、県庁舎耐震化等事業に先立ち、総務部管財課と学術文化財課との協議結果に基づき、同課から試掘・確認調査の依頼を受け、当センターで実施した。協議内容については、既存建物の影響が無い南別館東側駐車場ならびに本館南側駐輪場部分において調査を試みることを確認した。当該地域は甲府城楽屋曲輪内に位置し、大手（追手）門関連石垣、堀、土塁などの存在が想定されており、事前に先行する形で実施した地中レーダー探査おいてもその痕跡が認められた。今回の調査で基礎的データを把握し、今後の庁舎整備の基本計画に盛り込むことを目的に試掘確認調査で対応することとなった。

本館南側駐輪場部分の調査では、石垣の存在が想定されていたため幅1.5m×長さ18mのトレンチを設定して実施した。約２mの深度まで掘削して調査を行ったが脆弱な地盤であり、側壁部分が崩落するなど危険な状況が把握されたため、以下の層についてはボーリング杖による調査を実施したが、石垣は確認できなかった。現地表下約３mまでは撹乱された埋土であり埋蔵文化財の存在は認められなかった。

南別館東側駐車場部分の調査では、大手門石垣の存在が想定されたためトレンチ４本を縦断方向に設定して調査を行った。第１トレンチでは、曲輪造成地盤面の削平が著しく、遺構（造成地盤）の残存状況は悪かった。旧地盤面から縄文土器が認められた。第２トレンチでは、旧構内誘導路のコンクリート土間等によって上層部が撹乱されていた。地表下約30cmで土塁を構成する版築地盤が良好な状態で確認された。遺構としては、西側部分で石垣の裏栗石と推定される層が認められ、隣接部分の土壌が乱れていることから、石材が抜き取られた痕跡と考えられる。造成地盤面直下から縄文・平安時代の土器が認められた。第３トレンチでは、地表下約20cmで土塁を構成する版築地盤や石垣遺構、瓦溜が確認された。石垣の遺構は根石もしくはアゴ石であり、文禄・慶長年間に帰属する遺構と考えられる。石垣の西側からは改築・廃城時に廃棄されたと考えられる17世紀後半から19世紀前半までに帰属する瓦溜層が認められた。また旧地盤面から中世以前の土坑のプランが確認された。第４トレンチでは、地表下５cmで石垣が、また約10cmで裏栗石の充填層が認められた。本地点では石垣を構成するアゴ石と考えられる遺構上に根石か存在し、その上に一石積まれた状態で確認された。石垣西側からは上下二層の瓦溜層が認められ、下層部分の瓦は概ね17世紀後半代に帰属するものであった。

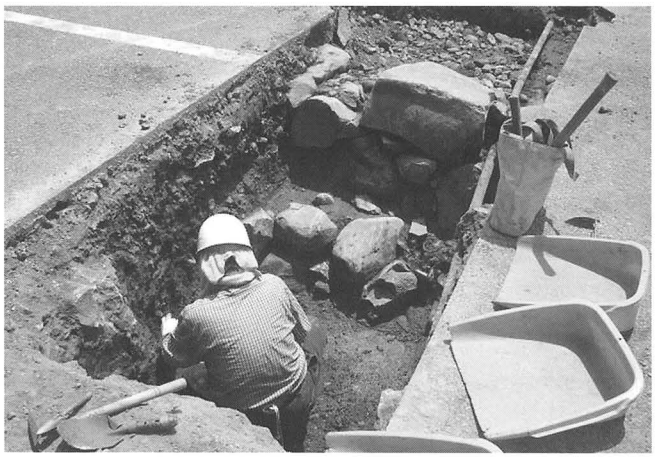
本調査内容は保存活用のための基礎データとして有効なものと判断される。県庁構内として大きな改変を受けずに保護されてきた経過もあり、比較的浅い深度に良好な状態で石垣が保存されてきたことが判明したため、開発行為が行なわれる場合には詳細な発掘調査が必要である。



県庁構内調査位置図

地中レーダー実施状況

本館南側駐輪場調査状況

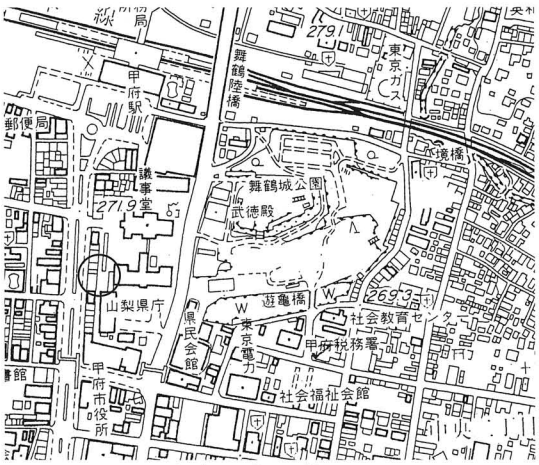


南別館東側駐車場石垣確認状況（４トレ）

南別館東側駐車場実測作業状況（３トレ）

３－24　県庁駐輪場屋根設置工事に伴う立会調査

所 在 地　甲府市丸の内一丁目地内
遺 跡 名　甲府城跡
調査期間　2008年７月15日
調査面積　2.56㎡
担 当 者　野代幸和・長田隆志



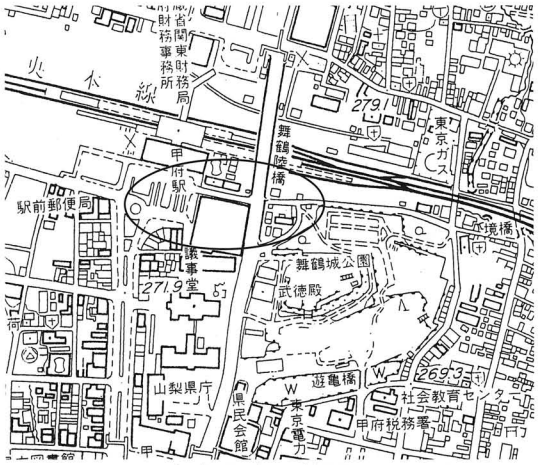
立会調査　位置図

立会調査地点に隣接する地点より土塁に関係する暗渠と考えられる遺構が確認されていることから、学術文化財課と管財課で事前協議を実施し、７月１日に工程ならびに対応に係わる連絡があった。これを受けて当センターでは、現況地盤掘削時において、埋蔵文化財の立会調査を実施した。

調査は1.6m×0.8mの基礎設置溝２基を対象に実施した。掘削深度は0.6mであり、隣接遺構確認面の1.2mより浅く遺構や遺物は確認できなかった。全体的にコンクリート廃材などが混入した後世の盛土であり、旧地盤面まで達することはなかった。

３－25　甲府城内ガス管敷設工事事業　立会調査

所 在 地　甲府市丸の内一丁目４番～７番
遺 跡 名　甲府城跡
調査期間　2009年１月16日～２月10日
調査面積　約359㎡
担 当 者　野代幸和・長田隆志



立会調査　位置図

本地点は、県指定史跡に隣接し、城内に位置する地点である。調査の主体は甲府市教育委員会であるが、施工地点は県管理地内であると共に史跡甲府城関連遺構の存在が推定される地点であることから、県埋蔵文化財センターと共同で対応することとなった。

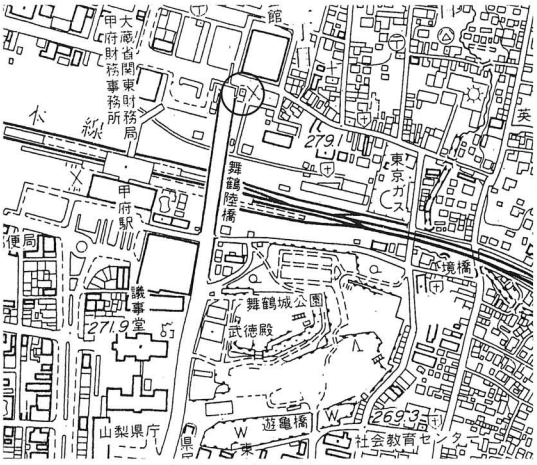
調査の掘削幅は0.7m、深さ1.0～1.2mで、１月16日より立会調査を実施した。調査の結果、県道（甲府・山梨線）舞鶴通りから舞鶴城公園第２駐車場にかけて、内堀の裏栗石と推定されるものが確認されたほか、内堀と推定される落ち込みから戦災で焼けた瓦が出土した。第２駐車場南側横断歩道部分からは、堀境と推定される落ち込みが確認された（石材等は未確認）。また、内松陰門北側の調査では、かつて存在した地下道のコンクリート塊（カルバートボックス）が確認された。

２月10日に実施した夜間立会調査では、タクシープール付近の道路敷下約1.0～1.2m地点から、約70cm大の石材が南北に３石並ぶ状況が認められた。一部既存管により破壊されていたが、当初の想定よりも良好な状態で残っていることが判明した。また、石垣の東側には栗石が充填されている状況も確認された。

これと併行して甲府市教育委員会で行っている駅北口の清水曲輪内での調査では、外堀の石垣と思われる石材が道路のセンターライン付近から確認されている。こうした遺構の残存状況などは、今後の保存・活用等を検討する際に基本データとなる。また、掘削中に発見された石材等の対応について、保護を図るなど県と同様な対応を取るように求めた。

３－26甲府駅北口交番解体事業に伴う立会調査

所 在 地　甲府市北口二丁目地内
遺 跡 名　甲府城跡
調査期間　2009年２月４日・16日
調査面積　15㎡（対象面積30㎡）
担 当 者　野代幸和・長田隆志

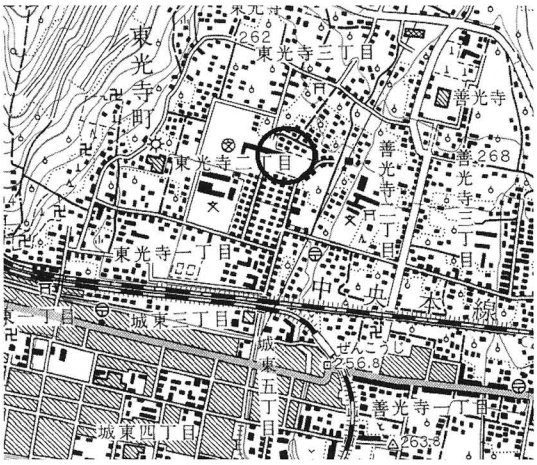


立会調査　位置図

甲府市教育委員会による隣接地部分の調査データから、予定している掘削深度では遺構面ないし包含層には達しないことが判明したが、本地点が甲府城跡内の清水曲輪北側堀内に位置するため、立会調査で対応することを確認した。調査の結果、遺構・遺物共々発見には至らなかったが、南側には清水曲輪内堀石垣の推定ライン、また北側道路センター付近にはその対岸の石垣の推定ラインに位置しており注意を要する地点である。今後歩道の拡幅工事も予定されているため、慎重な対応が望まれる。

３－27　かえで支援学校車庫基礎撤去事業に伴う立会調査

所 在 地　甲府市東光寺二丁目25－１
調査期間　2008年６月20日
調査面積　約13.5㎡（対象面積360㎡）
担 当 者　笠原みゆき



立会調査　位置図

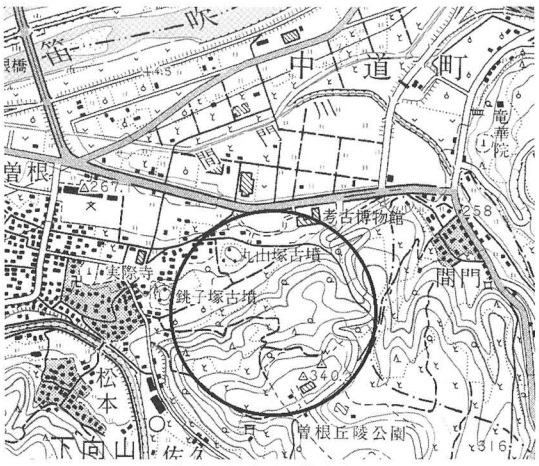
立会調査地点は、かえで支援学校校門を入ってすぐ右手にあった元送迎用バスの車庫である。本事業は、かえで支援学校の校舎増築に先立つ、車庫の基礎部分撤去事業の立会調査である。調査は、基礎部分の撤去作業の合間に、掘削を行い遺構・遺物・土層の堆積状況などを確認した。当日、すでに、北側1/3・西側・南側の1/3以外の基礎は撤去済みで、部分的に埋め戻されていない場所には、地表から80cmほどの水位で水が溜まっていた。基礎を撤去した部分は、埋め戻して地盤が弱くなっているため重機が入れず、南側・西側の基礎に近い部分で調査を行った。

調査の結果、第１～第３地点において地表下１ｍほどは、旧建物の基礎や廃材などによる攪乱が確認された。それ以下では、自然堆積層となる粒子の違う青灰色砂質土が、何層にも重なり、厚く堆積していた。なお、第３地点では、基礎の下部を掘り下げると、地表下２ｍほどで、時期不明の工事用基礎の杭（直径30cm）列が確認された。

今回の調査地は、数回の立替を経ているためか、地表から１ｍほどはかなり荒れており、遺構・遺物とも確認できなかった。また、隣接する普通駐車場については、旧建物基礎が同じように続いていることが予想されるため、試掘調査の必要性はないと判断した。

３－28　甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園整備事業に伴う立会調査

所 在 地　甲府市下曽根
遺 跡 名　国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳
調査期間　2008年11月18日、12月11・12、18日、2009年１月23日
調査面積　１回目約６㎡、２回目70㎡、３回目15㎡　合計91㎡
担 当 者　保坂和博・笠原みゆき・大木丈夫



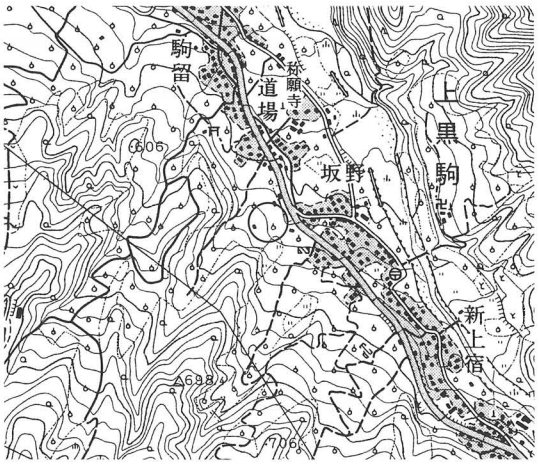
立会調査　位置図

立会調査地点は、甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園内、史跡丸山塚古墳北側に位置する。平成19年度の用地取得に伴い公園整備が計画され、同年度中に試掘調査が行われている。今回は、公園整備に伴う、丸山塚古墳周濠関連遺構の確認・立会調査と、新設説明板設置に伴う立会調査である。新設公園周辺の立会調査は、用地内の切り株撤去時、周濠と民地のとの緩衝地帯に植えられていた樹木の抜根と、既設公園から新設公園への新設園路掘削時におこなった。その結果、１回目の切り株の撤去時では、切り株が腐食しており掘削深度は15～20cmほどと浅かった。遺構・遺物は確認されず、土層は褐色の単層（耕作土）であった。２回目の新設園路地点と、新設芝生公園地点での樹木の抜根に伴う立会調査では、18本の樹木の抜根が行われた。掘削深度は20cm程度で、深いところで約35cmほどである。試掘調査第５・６号トレンチの第１・２・５・６層に対比されると思われる耕作土以下の自然堆積層を確認したが、遺構・遺物は検出されなかった。３回目の新設園路の掘削では、掘削深度約20cmほどで、厚い腐葉土の下に礫が入る客土が見られたが、遺構・遺物の検出には至らなかった。

また、風土記の丘公園内の看板整備が平行して進められており、今年度は、公園内の遺跡に説明板を設置する工事をおこなった。対象は、東山南遺跡・稲荷塚古墳・鍋弦塚・岩清水遺跡の４箇所である。看板については、60cm×60cmの盤面に２本の客が両端につくタイプで、基礎部分の掘削は、長さ140cm×幅60cm×深さ50cmである。調査の結果、岩清水遺跡･東山南遺跡では、整備時の盛土内であり、遺構・遺物は確認されなかった。稲荷塚古墳では、遊歩道設置時に掘削が、既に行われており、掘削面で遺構確認をおこなったが、遺構・遺物は確認されなかった。鍋弦塚では、掘削面で遺構確認を行なったが、遺構・遺物は確認されなかった。

３－29 山梨リニア実験線(工事用道路)建設事業に伴う立会調査

所 在 地　笛吹市御坂町上黒駒3632外地内
調査期間　2008年11月５日～６日
調査面積　約20㎡（立会対象面積約450㎡）
担 当 者　保坂和博・笠原みゆき・大木丈夫



立会調査　位置図

本事業は、旧国道137号と上黒駒バイパスを結ぶ民地を借地しての工事用道路を建設する工事で、地形の傾斜に合わせた切土と盛土による掘削計画である。2008年５月20日に実施した現地踏査に基づき、地形的な環境から遺跡が存在すると考えられた笛吹市御坂町上黒駒3632外地内で立会調査を実施することとなった。

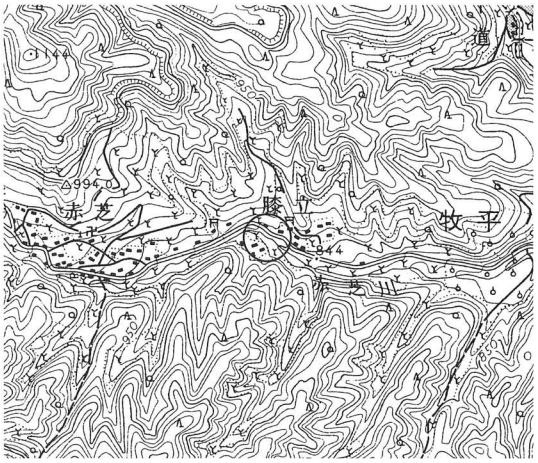
今回の立会調査は、工事工程に合わせ切土される地点において２日間にわたり実施した。第１日目（11月５日）の立会は、旧国道137号側からの重機搬入口の造成に伴い長さ約４m、幅約２m、深さ約１mの掘削範囲において遺構確認と土層観察を行った。第２日目（11月６日）の立会は、４地点～６地点における長さ約15m、幅約0.8m、深さ約0.6m（最深部約1.2m）の掘削範囲において遺構確認と土層観察を行った。両地点における土層堆積状況は、地表から0.3～0.6mほどは耕作土（部分的に人頭大の

花崗岩を含む黒褐色土層が約0.3m残存)、その下は、黄褐色粘質土層（花崗岩質の直径２ミリ程度の粒子を多量に含む)、さらに黄褐色粘質土層（層拳大の礫を多量に含む）が確認された。

立会調査の結果、表土層以下は地山層となり遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

３－30　赤芝川河川改修事業に伴う立会調査

所 在 地　山梨市牧丘町牧平1954外地内
調査期間　2008年12月１日、2009年１月15日
調査面積　約130㎡（立会対象面積約320㎡）
担 当 者　保坂和博・大木丈夫



立会調査　位置図

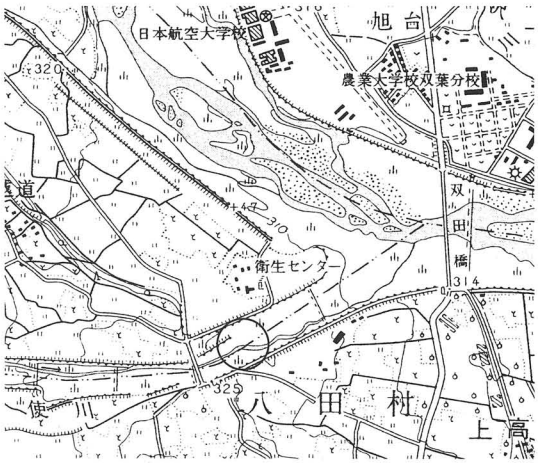
本事業は、生活関連土木施設整備事業による赤芝川河川改修であり、新たに河床を掘り下げ、その際に検出した巨石を利用し、約64mにわたり護岸する工事である。事業予定地に隣接して周知の埋蔵文化財包蔵地が所在することから立会調査を実施することとなった。本年度の事業箇所は、昨年度実施した立会調査地点の対岸にあたる。昨年度の立会調査では、遺跡は確認されていない状況である。

立会調査は、2008年11月20日に実施した現地協議に基づき、工事工程に合わせ２回に分けて行った。第１日目（2008年12月１日）の立会は、掘削開始初日に川下側末端の長さ約10m、幅約５m、深さ約３mの掘削範囲において遺構確認と土層観察を行った。第２日目（2009年１月15日）の立会は、川上側末端の長さ約16m、幅約５m、深さ約３mの掘削範囲において遺構確認と土層観察を行った。

両地点における土層堆積状況は、左岸の斜面地（竹林）の掘削範囲では、表土層以下は地山層となり、また河床掘削範囲では、河川堆積層以下は地山層となり、いずれも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられるため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

３－31　御座田三番堤補修事業に伴う立会調査

所 在 地　韮崎市龍岡町地先
遺 跡 名　御座田三番堤
調査期間　2009年１月20日
調査面積　約43㎡（立会対象面積3,370㎡）
担 当 者　保坂和博・大木丈夫



立会調査　位置図

2008年12月22日に実施した現地協議の結果に基づき、韮崎市龍岡町地先の御座田三番堤で立会調査を実施した。

本事業は、現況の堤防に盛り土をする護岸工事計画である。立会調査は、堤防の清掃が終了後の2009年１月20日に護岸工事される地点において実施した。

最初、現在の堤防の状況を把握するため、記録写真を撮影した。清掃後の現状からは、旧堤防の前衛に設置された新しい堤防の表面の積み石が崩落していることが確認された。

護岸工事のため、大型ブロック張護岸の設置予定箇所３地点を重機により掘削を行った。３地点とも、土層堆積状況は、地表から140～160cmは河川堆積層であり、その下は地山層で湧水が確認された。

立会調査の結果、河川堆積層以下は地山となり、堤防などの遺構は確認できず、遺物もなかったことから、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても支障はない旨を報告した。

第Ⅲ章　県内の概況

1　届出件数と内容

平成19年度より文化財保護施行令第50条により県教育委員会が行うこととされている文化財保護法第93条の指示及び第94条の勧告に係る権限の一部を富士吉田市を除く11市に移譲し、平成20年度には富士吉田市へ移譲を移譲したことにより、県下全12市へ文化財保護法第93条・第94条に係る権限の一部を移譲した。権限移譲を行ったのは指示・勧告のうち工事立会、慎重工事などの軽微なもので「発掘調査」や「試掘・確認調査」の指示・勧告は現行どおり県教育委員会にて行う。権限移譲にあたって、埋蔵文化財の専門知識と客観的かつ合理的な基準が必要となることから埋蔵文化財専門職員が設置されている市を対象とし、山梨県教育委員会の事務処理の特例に関する条例の一部を改正する条例により実施した。よって届出件数について、権限移譲した分は県への届出件数が減少している。

平成20年度、県内の埋蔵文化財調査による届出件数については、法92条：6（3）件、法93条：161（270）件、法94条：65（56）件、法96条法0（2）件、法97条6（4）件、法99条174（123）件である。届出の総件数は412（458）件であり、前年度と比較すると、その件数は46件（90%）の減少となっている。　※（　　）内数字は前年度。　過去20年間の件数の変遷は50頁の表のとおり。

2　発掘調査

平成20年度に実施された県内の発掘調査件数は、50頁の表のとおり試掘調査を含めて174（214）件（発掘調査学術調査等含む）となっている。その内訳は、県が25（12）件・市町村が155（193）件である。発掘調査の原因は、道路23（17）件、鉄道4（2）件、河川2（2）件、学校建設10（4）件、集合住宅12（16）件、個人住宅53（64）件、工場4（2）件、店舗4（11）件、個人住宅兼工場又は店舗2（32）件、その他建物23（25）件、宅地造成9（12）件、農業基盤整備事業17（7）件、土砂採取1（0）件、その他開発6（4）件といった緊急調査と、学術調査1（4）件、保存目的の範囲確認2（5）件があった。緊急調査では、地方公共団体が行う公共事業では道路などが目立つものの大きな変動はないが、民間開発におけては個人住宅が目立っている。　※（　　）内数字は前年度。

3　県指定有形文化財（考古資料）及び県指定史跡

平成20年度は、国指定史跡の御勅使川旧堤防の追加指定の答申がでている。平成20年5月8日に身延町大野の本遠寺にある大名墓が「徳川家康側室養珠院墓所」として県指定史跡に指定された。山梨県唯一の近世大名墓であり、花崗岩でつくられた高さ4.55mの宝筐印塔とともに紀州徳川家供養塔、玉垣、石灯篭は、当時の最上級の石造技術がみてとれ、養珠院お万の方という一女性を介して徳川時代の日蓮宗及び本遠寺の歴史を証する貴重な史料である。また、3月には県指定史跡甲府城跡出土瓦、笛吹市春日居町の寺本廃寺跡の県指定の答申が出ている。平成17年に重要文化財に指定された釈迦堂遺跡縄文土器についても、順次修理が行われている。

4　発掘調査の成果と保存整備事業

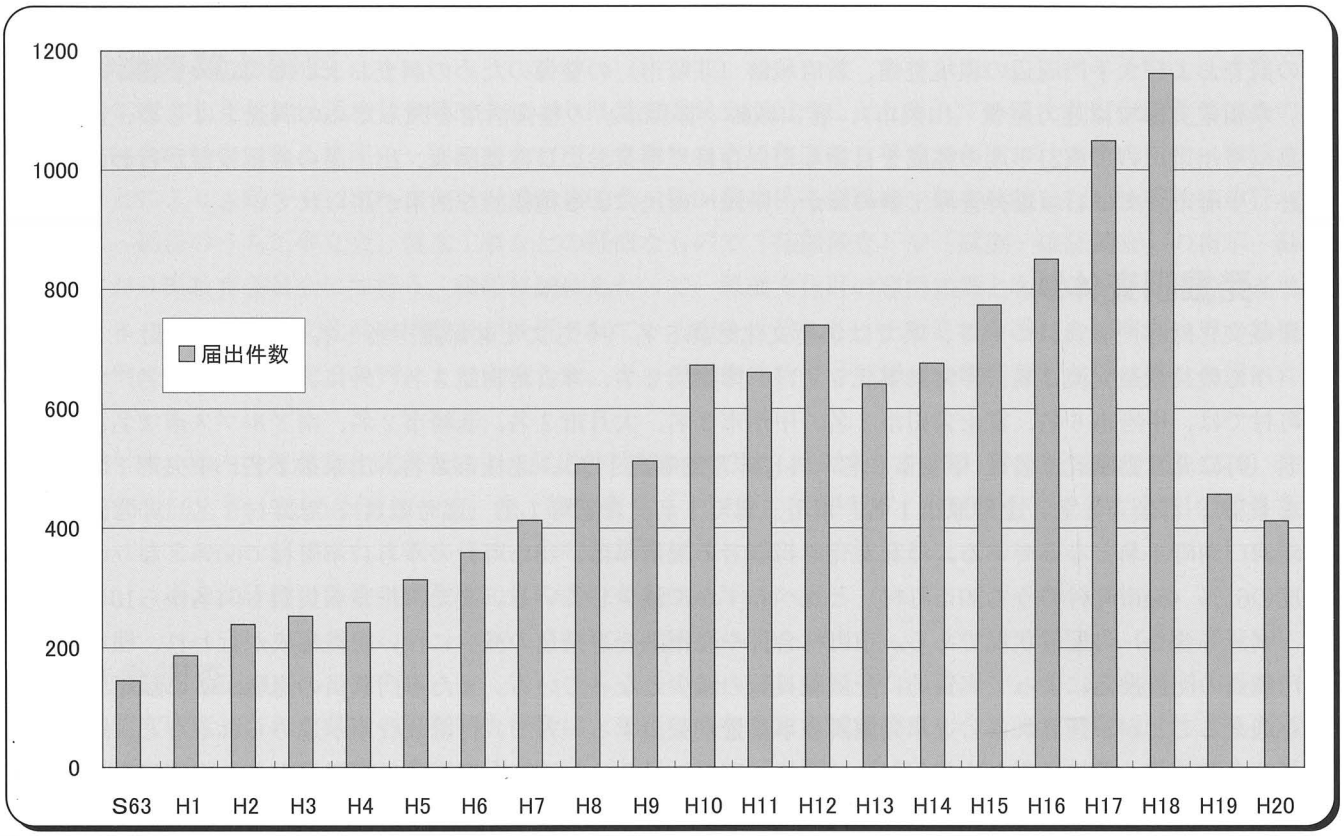
平成20年度県内各地で行われた発掘調査（学術調査等含む）は、174カ所ある。都留市美通遺跡は、縄文時代中期の敷石住居跡などがみつかり、さらに下層からは早期の炉穴、土坑、焼土、配石がみつかった。北杜市長坂町の東原遺跡では、中世の地下式土坑を、同じく長坂町頭無遺跡では縄文時代の住居跡や土坑、古墳時代、中世の遺構が発掘されている。また北杜市高根町の西ノ原B遺跡では、縄文時代の他、古墳時代の住居跡と方形周溝墓、平安時代の竪穴住居と掘立柱建物などがみつかっている。笛吹市物見塚遺跡は、釈迦堂遺跡から山側へ数百m上がったところにあり、縄文時代の住居跡、土坑などが見つかっており、季節的な作業場と推定されています。笛吹市八代町の三光遺跡からは縄文時代、平安時代の住居跡の他、古墳時代の土器が出土している。同市境川町の竜安寺川西遺跡は、縄文時代、弥生時代の住居跡及び古墳1基が発掘調査された。

本県には12件14か所の国指定史跡、26か所の県指定史跡があり、これらの貴重な史跡の保存と活用を図るため、指定地の公有地化や保存整備事業が進められている。今年度、国指定史跡では武田氏館跡（甲府市）の整備のための調査および大手門周辺の環境整備、新府城跡（韮崎市）の整備のための調査および堀周辺の整備が進められた。県指定史跡では連方屋敷（山梨市）、勝山城跡（都留市）の整備活用を図るための調査をはじめ、武田勝頼の墓（甲州市）の平成21年度の完成を目指した保存修理事業および確認調査、出土品の詳細検討が行われ、甲府城跡（甲府市）では石垣維持管理工事のほか、県民・市民による積極的な活用が諮られている。

5　発掘調査体制

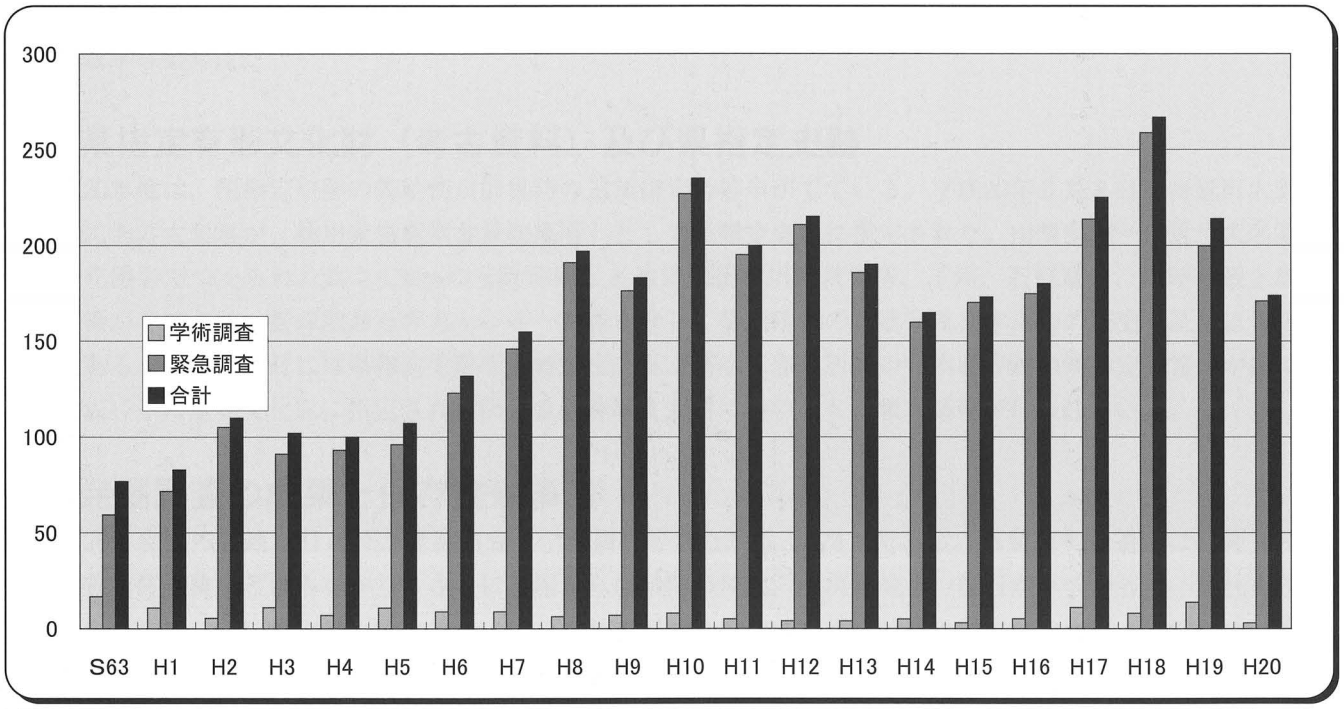
埋蔵文化財専門職員について、県では学術文化財課５名（うち文化財保護担当１名）、埋蔵文化財センター23名（うち教員派遣交流３名、非常勤嘱託５名、）、博物館２名、考古博物館３名（外に非常勤嘱託１名）である。市町村では、甲府市６名、富士吉田市２名、甲州市３名、大月市２名、韮崎市２名、南アルプス市３名、笛吹市５名（外に非常勤嘱託２名）、甲斐市２名（外に非常勤嘱託１名）、北杜市８名、山梨市２名、中央市１名（昭和町を兼務）、都留市１名、上野原市１名、市川三郷町１名、身延町１名（臨時職員）、忍野村１名（非常勤嘱託）、富士河口湖町１名となっている。埋蔵文化財担当者の配置率は、28市町村のうち17市町村で60％となり、平成15年度の61％（64市町村のうち39市町村）と比べわずかに減少している。また、担当職員数も54名から10名減の45名（嘱託等含む）の配置状況である。市町村合併や発掘調査事業量の減少に伴い組織編成が行われ、埋蔵文化財専門職員の配置換えによって実質的に配置職員数の減少となっている。また専門職員の退職がここ数年で大きな山を迎えることが予想される。近年発掘調査事業量が減少する一方で、行財政改革が進められるなど、埋蔵文化財行政をとりまく環境は大きく変化しつつあり、実情に見合った適切な専門職員配置は大きな課題である。行政としては、記録保存のための発掘調査の実施にとどまらず、これまでの膨大な調査成果の蓄積を適切に保存・活用し、歴史を活かした地域作りに資するなど、多様な業務を実施し、国民の期待に応えることが求められている。

発掘届出等件数の推移



年度	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
届出件数	145	187	238	253	243	315	359	410	508	513	671	659	738	642	677	775	850	1050	1161	458	412

発掘調査件数の推移



年度	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
学術調査	17	11	5	11	7	11	9	9	6	7	8	5	4	4	5	3	5	11	8	14	3
緊急調査	60	72	105	91	93	96	123	146	191	176	227	195	211	186	160	170	175	214	259	200	171
合計	77	83	110	102	100	107	132	155	197	183	235	200	215	190	165	173	180	225	267	214	174

2008年度　県内発掘調査一覧表

No	遺跡名	所在地	面積（㎡）	遺跡の種別	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
1	青葉町遺跡	甲府市青葉町	3.00	散布地	平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H20.3.18～H20.3.18
2	神田遺跡	甲府市千塚三丁目	4.00	散布地	弥生～平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H20.4.23～H20.4.23
3	（99条に準ずる）	大月市富浜町鳥沢	8.20			その他の建物	大月市教育委員会	H20.4.23～H20.5.2
4	東久保A遺跡	南アルプス市中野	1,000.00	散布地	縄文～中世	その他の開発	南アルプス市教育委員会	H20.5.1～H20.6.30
5	八幡神社遺跡	甲府市宮前町	240.00	散布地	縄文・中世・近世	その他の建物	山梨県教育委員会	H20.5.8～H20.5.13
6	武田城下町遺跡	甲府市下積翠寺町	36.00	城下町	中世	その他の開発	甲府市教育委員会	H20.5.12～H20.5.12
7	（99条に準ずる）	笛吹市御坂町大野寺	183.00			道路	山梨県教育委員会	H20.5.14～H20.5.15
8	松原遺跡	笛吹市一宮町東原	10.00	集落跡	古墳～中世	個人住宅	笛吹市教育委員会	H20.5.15～H20.5.21
9	（99条に準ずる）	大月市大月町真木	1.10			個人住宅	大月市教育委員会	H20.5.16～H20.5.16
10	町屋遺跡・米倉B条里制遺跡	笛吹市八代町米倉	10.00	散布地・その他の遺跡	古墳～平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H20.5.19～H20.5.19
11	堤防遺跡推定地（七沢の渡し場）	甲府市上阿原	40.00	その他の遺跡	中世～近世	河川	山梨県教育委員会	H20.5.20～H20.5.21
12	大坪遺跡	甲府市和戸町奈良原	7.50	生産遺跡	古墳～平安	その他の建物	甲府市教育委員会	H20.5.21～H20.5.30
13	大坪遺跡	甲府市横根町	2.25	生産遺跡	古墳～平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H20.5.22～H20.5.30
14	上暮地新屋敷遺跡	富士吉田市上暮地	1,379.72	集落跡	縄文・弥生	農業基盤整備事業	富士吉田市教育委員会	H20.5.23～H20.5.30
15	栗原遺跡	南都留郡富士河口湖町勝山	10.00	散布地	平安	個人住宅	富士河口湖町教育委員会	H20.5.26～H20.5.26
16	観音寺前遺跡	笛吹市石和町市部	2.00	散布地	平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H20.5.26～H20.5.26
17	坂ノ上姥神遺跡	南アルプス市徳永	65.69		奈良・平安		南アルプス市教育委員会	H20.6.2～H20.6.5
18	本都塚条里	笛吹市一宮町金田	30.00	その他の遺跡	奈良・平安	宅地造成	笛吹市教育委員会	H20.6.3～H20.6.6
19	曽根遺跡	南アルプス市上宮地	500.00	散布地	縄文～古墳	道路	南アルプス市教育委員会	H20.6.4～H20.7.10
20	竜安寺川西遺跡	笛吹市境川町前間田	14,000.00	集落跡	縄文・古墳・中世	鉄道	山梨県教育委員会	H20.6.9～H20.11.28
21	御坂埋没条里	笛吹市御坂町成田	50.00	その他の遺跡	古墳・奈良	宅地造成	笛吹市教育委員会	H20.6.10～H20.6.17
22	稲山遺跡	笛吹市八代町岡	3,800.00	散布地・集落跡	縄文・古墳・中世	鉄道	山梨県教育委員会	H20.6.12～H20.12.5
23	三光遺跡	笛吹市御坂町竹居	2,900.00	散布地・集落跡	縄文	鉄道	山梨県教育委員会	H20.6.12～H20.11.28
24	中丸遺跡	笛吹市境川町小山	2,000.00	散布地	縄文・古墳～平安	鉄道	山梨県教育委員会	H20.6.12～H20.10.16

No	遺跡名	所在地	面積（㎡）	遺跡の種別	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
25	下中下宮遺跡	大月市富浜町鳥沢	1.00	集落跡	奈良	個人住宅	大月市教育委員会	H20.6.13～H20.6.13
26	朝気遺跡	甲府市朝気二丁目	4.00	集落跡	縄文～平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H20.6.13～H20.6.20
27	西ノ原B遺跡	北杜市高根町村山西割	2,130.00		縄文･古墳･平安･中世	集合住宅	北杜市教育委員会	H20.6.13～H20.7.18
28	藤塚古墳	甲府市上阿原町	7.00	集落跡	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H20.6.16～H20.6.16
29	花鳥山遺跡	笛吹市八代町竹居	50.00	集落跡	縄文	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H20.6.17～H20.6.24
30	朝気遺跡	甲府市朝気三丁目	4.00	集落跡	縄文～平安	その他の建物	甲府市教育委員会	H20.6.18～H20.6.30
31	（99条に準ずる）	南アルプス市上宮地				道路	南アルプス市教育委員会	H20.6.18～H20.7.10
32	獅子之前遺跡	甲州市塩山千野	20.00	集落跡	縄文･平安	店舗	甲州市教育委員会	H20.6.19～H20.6.30
33	中通遺跡･御坂埋没条里	笛吹市御坂町二之宮	2.00	散布地･その他の遺跡	古墳～平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H20.6.21～H20.6.21
34	（99条に準ずる）	甲府市上石田二丁目	300.00			道路	山梨県教育委員会	H20.6.23～H20.6.27
35	朝気遺跡	甲府市朝気三丁目	4.00	集落跡	縄文～平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H20.6.23～H20.7.4
36	（99条に準ずる）	大月市七保町葛野	2.00			個人住宅	大月市教育委員会	H20.6.24～H20.6.24
37	清水遺跡	笛吹市一宮町本都塚	4.00	集落跡	縄文･古墳	その他の開発	笛吹市教育委員会	H20.6.24～H20.6.25
38	甲府城下町遺跡	甲府市城東二丁目	31.00	城下町	近世	その他の建物	甲府市教育委員会	H20.6.25～H20.6.25
39	谷村城	都留市中央二丁目	610.63	城館跡	近世	その他建物	都留市教育委員会	H20.6.27～H20.11.15
40	宮原遺跡	都留市法能	4.00	散布地	縄文	個人住宅	都留市教育委員会	H20.7.1～H20.7.3
41	（99条に準ずる）	大月市初狩町下初狩	6.00			店舗	大月市教育委員会	H20.7.1～H20.7.2
42	武田城下町遺跡	甲府市屋形一丁目	91.60	城下町	中世	宅地造成	甲府市教育委員会	H20.7.1～H20.7.11
43	八幡神社遺跡	甲府市宮前町	2,700.00	散布地	縄文･中世･近世	その他の建物	山梨県教育委員会	H20.7.1～H20.9.30
44	東峰C遺跡	甲斐市団子新居	1,200.00	集落跡	縄文	農業基盤整備事業	甲斐市教育委員会	H20.7.1～H20.9.30
45	甲府城下町遺跡	甲府市朝日一丁目	35.00	城下町	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H20.7.2～H20.7.2
46	朝気遺跡	甲府市朝気二丁目	10.00	集落跡	縄文～平安	集合住宅	甲府市教育委員会	H20.7.3～H20.7.3
47	甲府城下町遺跡	甲府市中央五丁目	4.00	城下町	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H20.7.3～H20.7.3
48	奥山尾田南遺跡	南都留郡忍野村忍草	333.00	散布地		個人住宅	山梨県教育委員会	H20.7.3～H20.7.3
49	武田城下町遺跡	甲府市大手一丁目	8.00	城下町	中世	集合住宅	甲府市教育委員会	H20.7.3～H20.7.18
50	大儘遺跡	笛吹市春日居町鎮目	2.39	散布地	古墳･奈良	個人住宅	笛吹市教育委員会	H20.7.4～H20.7.4

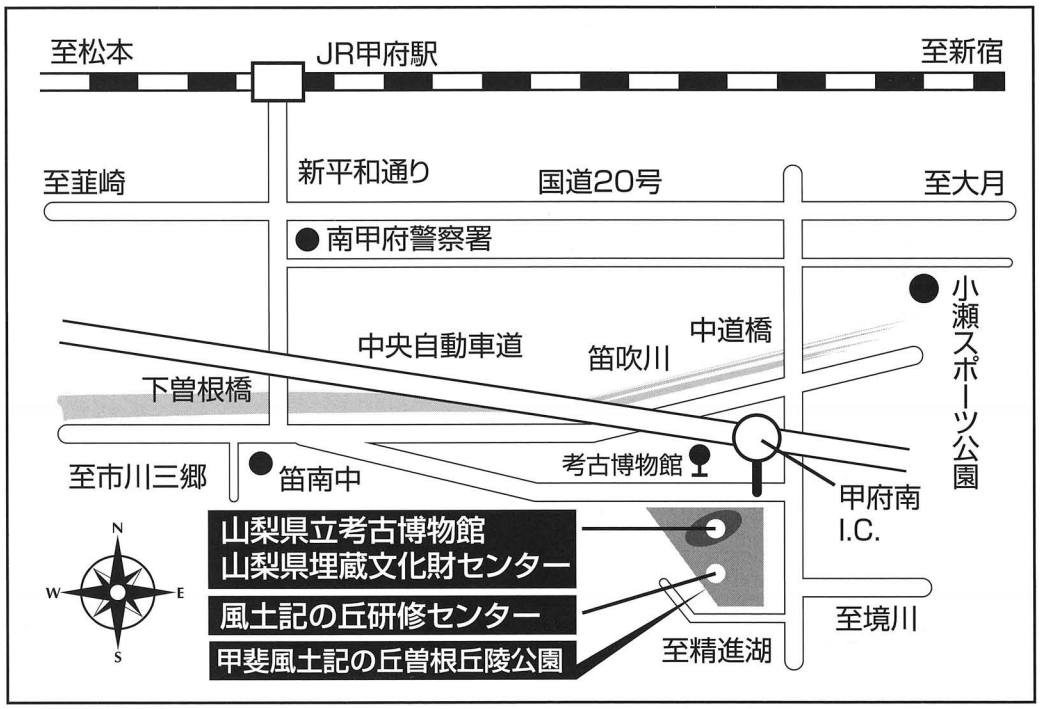
No	遺跡名	所在地	面積（㎡）	遺跡の種別	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
51	根本山遺跡	上野原市上野原	8.00	散布地	縄文・平安	宅地造成	上野原市教育委員会	H20.7.7～H20.7.11
52	四本木遺跡	大月市御太刀二丁目	2.34	集落跡	縄文・平安	個人住宅	大月市教育委員会	H20.7.9～H20.7.9
53	前御勅使川堤防址群	南アルプス市六科	14.00	その他遺跡	近世・近現代	集合住宅	南アルプス市教育委員会	H20.7.14～H20.7.14
54	（99条に準ずる）	南アルプス市鮎沢	60.00			その他の建物	南アルプス市教育委員会	H20.7.16～H20.10.31
55	武田城下町遺跡	甲府市大手一丁目	8.00	城下町	中世	集合住宅	甲府市教育委員会	H20.7.17～H20.7.25
56	緑ヶ丘一丁目遺跡	甲府市緑が丘二丁目	2.70	散布地	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H20.7.17～H20.7.31
57	赤根遺跡	笛吹市御坂町八蔵	4.00	散布地	縄文・平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H20.7.22～H20.7.22
58	亀甲遺跡・御坂埋没条里	笛吹市御坂町成田	3.00	散布地・その他の遺跡	古墳～平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H20.7.28～H20.7.28
59	武田城下町遺跡	甲府市武田三丁目	180.00	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H20.7.30～H20.8.12
60	中川田遺跡・信虎誕生屋敷	笛吹市春日居町下岩下	254.36	散布地・城館跡	弥生・古墳・平安・中世	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H20.8.1～H20.9.5
61	甲運小学校遺跡	甲府市川田町	24.00	その他の遺跡	その他	その他の建物	甲府市教育委員会	H20.8.1～H20.9.30
62	新井遺跡	上野原市上野原	5.00	散布地	縄文・平安	その他の開発	上野原市教育委員会	H20.8.5～H20.8.5
63	おいしがね遺跡	都留市夏狩	374.40	散布地	縄文	個人住宅	都留市教育委員会	H20.8.5～H20.12.5
64	清水遺跡	北杜市大泉町西井出	599.00	集落跡	縄文・平安・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H20.8.6～H20.8.8
65	大橋遺跡	笛吹市八代町北	264.44	散布地	縄文・古墳・平安・近世	個人住宅	笛吹市教育委員会	H20.8.11～H20.8.11
66	（99条に準ずる）	南巨摩郡増穂町大椚	450.00			道路	山梨県教育委員会	H20.8.11～H20.8.13
67	東出口遺跡	南アルプス市下宮地	34.48	散布地	奈良～中世	その他の建物	南アルプス市教育委員会	H20.8.11～H20.8.13
68	甲府城下町遺跡	甲府市北口二丁目	44.00	城下町	近世	学校建設	甲府市教育委員会	H20.8.11～H20.8.18
69	（99条に準ずる）	大月市笹子町白野	2.25			個人住宅	大月市教育委員会	H20.8.12～H20.8.12
70	西田遺跡	甲州市塩山熊野	20.00	その他の墓	古墳	店舗	甲州市教育委員会	H20.8.18～H20.8.22
71	中通遺跡・御坂埋没条里	笛吹市御坂町二之宮	2.00	散布地・その他の遺跡	古墳～平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H20.8.22～H20.8.28
72	根本山遺跡	上野原市上野原	80.00	散布地	縄文・平安	宅地造成	上野原市教育委員会	H20.8.26～H20.8.29
73	御立原2遺跡	大月市大月一丁目	14.25	散布地	奈良・平安	個人住宅兼工場又は店舗	大月市教育委員会	H20.8.26～H20.8.29
74	東原遺跡	北杜市長坂町大八田	568.00	集落跡	中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H20.8.26～H20.9.19
75	武田勝頼の墓	甲州市大和町田野	50.00	その他の墓	中世・近世	保存目的の範囲確認	甲州市教育委員会	H20.8.26～H20.10.31
76	外河原ヂクヤ遺跡	甲府市住吉町本町	140.00	散布地	古墳～平安	その他の建物	甲府市教育委員会	H20.9.1～H20.9.1

No	遺跡名	所在地	面積（㎡）	遺跡の種別	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
77	（99条に準ずる）	甲府市東光寺二丁目	20.00			学校建設	山梨県教育委員会	H20.9.1～H20.9.2
78	かすみ堤	中巨摩郡昭和町飯喰	15.00	その他の遺跡	中世・近世	道路	中央市教育委員会	H20.9.2～H20.9.2
79	（99条に準ずる）	大月市猿橋町伊良原	2.00			個人住宅	大月市教育委員会	H20.9.2～H20.9.2
80	柳田遺跡	甲州市塩山上粟生野	50.00	散布地	縄文	農業基盤整備事業	甲州市教育委員会	H20.9.2～H20.9.5
81	宮の前遺跡・狐原遺跡	笛吹市石和町中川	207.00	散布地	縄文・奈良～中世	宅地造成	笛吹市教育委員会	H20.9.2～H20.9.10
82	甲府城下町	甲府市丸の内二丁目	4.00	城下町	近世	その他の建物	甲府市教育委員会	H20.9.3～H20.9.3
83	原遺跡	大月市笹子町白野	9.40	散布地	縄文	その他の建物	大月市教育委員会	H20.9.3～H20.9.3
84	車地蔵遺跡	笛吹市一宮町末木	10.00	集落跡	奈良・平安	道路	笛吹市教育委員会	H20.9.4～H20.9.5
85	塩部遺跡	甲府市飯田一丁目	227.50	集落跡	弥生～平安平安	店舗	甲府市教育委員会	H20.9.4～H20.10.31
86	（99条に準ずる）	笛吹市御坂町竹居	20.00			道路	山梨県教育委員会	H20.9.8～H20.9.9
87	大石遺跡	南都留郡富士河口湖町大石	18.00	散布地	縄文	個人住宅	富士河口湖町教育委員会	H20.9.9～H20.9.9
88	物見塚遺跡	笛吹市一宮町千米寺	30.00	集落跡	縄文・古墳～平安	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H20.9.12～H20.9.26
89	（99条に準ずる）	笛吹市御坂町上黒駒	320.00			道路	山梨県教育委員会	H20.9.16～H20.9.19
90	中尾条里	笛吹市一宮町中尾	3.00	その他の遺跡	奈良・平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H20.9.18～H20.9.18
91	小佐野遺跡	大月市大月町真木	6.00	散布地	縄文	その他の建物	大月市教育委員会	H20.9.18～H20.9.18
92	御坂埋没条里	笛吹市御坂町二之宮	3.00	その他の遺跡	平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H20.9.22～H20.9.22
93	石和高校周辺遺跡	笛吹市石和町市部	30.00	集落跡	縄文～中世	学校建設	山梨県教育委員会	H20.9.24～H20.9.26
94	塩部遺跡	甲府市塩部一丁目	12.00	集落跡	弥生～平安	集合住宅	甲府市教育委員会	H20.9.25～H20.9.25
95	三ノ側遺跡	都留市田原二丁目	84.00	散布地	縄文・奈良～中世	集合住宅	都留市教育委員会	H20.9.26～H20.10.4
96	大侭遺跡・保雲寺橋遺跡	笛吹市春日居町鎮目	30.00	散布地	古墳・平安	河川	山梨県教育委員会	H20.10.1～H20.10.3
97	武田城下町	甲府市大手二丁目	81.00	城下町	中世	集合住宅	甲府市教育委員会	H20.10.2～H20.10.3
98	（99条に準ずる）	大月市富浜町鳥沢	2.00			個人住宅	大月市教育委員会	H20.10.2～H20.10.2
99	椿城跡	南アルプス市上野	7.00	城館跡	中世	保存目的の範囲確認	南アルプス市教育委員会	H20.10.9～H20.10.30
100	江原遺跡	南アルプス市江原	40.00	散布地	弥生・古墳・中世	工場	南アルプス市教育委員会	H20.10.14～H20.10.30
101	寺前遺跡	南巨摩郡南部町中野	1,600.00	集落跡	縄文～平安	道路	山梨県教育委員会	H20.10.15～H21.3.20
102	（99条に準ずる）	南巨摩郡南部町中野	100.00			道路	山梨県教育委員会	H20.10.15～H21.3.20

No	遺跡名	所在地	面積（㎡）	遺跡の種別	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
103	原間・大神遺跡	南巨摩郡南部町本郷	6,000.00	散布地	縄文・古墳・平安	道路	山梨県教育委員会	H20.10.15～H21.3.31
104	御岳田遺跡	甲斐市大下条	553.00	集落跡	古墳・平安・中世	その他の建物	甲斐市教育委員会	H20.10.21～H20.10.27
105	鍬柄田遺跡	笛吹市御坂町夏目原	1,991.00	散布地	平安	宅地造成	笛吹市教育委員会	H20.10.22～H20.10.28
106	寺本廃寺遺跡	笛吹市春日居町寺本	14.00	社寺跡	奈良・平安	道路	笛吹市教育委員会	H20.10.27～H20.11.10
107	三枝氏屋敷・馬込遺跡	笛吹市一宮町南野呂	30.00	集落跡・城館跡・その他の墓	縄文・古墳・平安・中世	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H20.10.30～H20.11.14
108	谷村城	都留市上谷二丁目	2,024.00	城館跡	近世	その他の建物	都留市教育委員会	H20.11～H21.11
109	（99条に準ずる）	大月市猿橋町猿橋	1.80			個人住宅	大月市教育委員会	H20.11.5～H20.11.5
110	扇田・御坂埋没条里	笛吹市御坂町二之宮	748.00	集落跡・その他の遺跡	古墳～平安	集合住宅	笛吹市教育委員会	H20.11.5～H20.11.7
111	（99条に準ずる）	大月市猿橋町猿橋	1.35			個人住宅	大月市教育委員会	H20.11.6～H20.11.6
112	頭無遺跡	北杜市長坂町塚川	6,000.00	集落跡	縄文・中世・近世	道路	北杜市教育委員会	H20.11.7～H20.12.26
113	中尾条里	笛吹市一宮町中尾	20.00	その他の遺跡	奈良・平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H20.11.10～H20.11.10
114	姫宮遺跡	甲斐市吉沢	1,000.00	社寺跡・田畑跡	中世・近世	農業基盤整備事業	甲斐市教育委員会	H20.11.11～H20.11.14
115	西梨木戸遺跡	大月市七保町下和田	2.00		縄文・古墳	個人住宅	大月市教育委員会	H20.11.12～H20.11.12
116	緑ヶ丘一丁目遺跡	甲府市緑が丘二丁目	9.00	散布地	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H20.11.17～H20.11.17
117	加賀美条里遺構	南アルプス市寺部	8.00	その他の遺跡	古墳	道路	南アルプス市教育委員会	H20.11.17～H20.11.17
118	（99条に準ずる）	南アルプス市在家塚				宅地造成	南アルプス市教育委員会	H20.11.17～H20.11.18
119	青柳河岸跡・藤田池遺跡	南巨摩郡増穂町青柳	500.00	その他の遺跡	近世・近現代	その他の建物	山梨県教育委員会	H20.11.17～H20.11.21
120	中尾条里	笛吹市一宮町中尾	30.00	その他の遺跡	奈良・平安	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H20.11.17～H20.12.1
121	榎原・南原遺跡	南アルプス市榎原	16.00	散布地	平安・中世	集合住宅	南アルプス市教育委員会	H20.11.19～H20.11.19
122	坂ノ上姥神遺跡	南アルプス市徳永	57.00	散布地	縄文・奈良・平安	学校建設	南アルプス市教育委員会	H20.11.19～H20.12.19
123	榎田遺跡	甲府市千塚五丁目	20.00	散布地	弥生～奈良	個人住宅	甲府市教育委員会	H20.11.21～H20.11.21
124	谷村城	都留市上谷二丁目	266.82	城館跡	中世・近世	その他の建物	都留市教育委員会	H20.11.21～H20.11.30
125	武田城下町遺跡	甲府市武田三丁目	3.00	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H20.11.27～H20.12.5
126	（99条に準ずる）	大月市大月二丁目	23.00			学校建設	大月市教育委員会	H20.11.27～H20.12.12
127	前御勅使川堤防址群	南アルプス市野牛島	6.00	その他の遺跡		集合住宅	南アルプス市教育委員会	H20.12.1～H20.12.1
128	物見塚遺跡	笛吹市一宮町南野呂	30.00	集落跡	縄文・奈良・平安	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H20.12.1～H20.12.10

No	遺跡名	所在地	面積（㎡）	遺跡の種別	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
129	中尾条里	笛吹市一宮町中尾	15.00	笛吹市一宮町中尾	奈良・平安	その他の開発	笛吹市教育委員会	H20.12.2～H20.12.3
130	七保中学校校庭遺跡	大月市七保町葛野	3.00	大月市七保町葛野	弥生・古墳	学校建設	大月市教育委員会	H20.12.3～H20.12.3
131	下山堤防遺跡	南巨摩郡身延町下山	400.00	南巨摩郡身延町下山	近世	土砂採取	身延町教育委員会	H20.12.3～H20.12.4
132	乙川戸前遺跡	甲州市塩山三日市場	50.00	甲州市塩山三日市場	縄文	工場	甲州市教育委員会	H20.12.4～H20.12.5
133	乙川戸前遺跡	甲州市塩山三日市場	50.00	甲州市塩山三日市場	縄文	工場	甲州市教育委員会	H20.12.4～H20.12.5
134	深田A遺跡	甲斐市大下條	2,611.00	甲斐市大下條	古墳	集合住宅	甲斐市教育委員会	H20.12.4～H20.12.12
135	曽根遺跡	南アルプス市上宮地	2,924.00	南アルプス市上宮地	縄文～古墳	道路	南アルプス市教育委員会	H20.12.4～H21.3.25
136	谷津遺跡	西八代郡市川三郷町	26.00	西八代郡市川三郷町	縄文～近世	道路	山梨県教育委員会	H20.12.8～H20.12.8
137	緑ヶ丘一丁目遺跡	甲府市緑が丘二丁目	5.00	甲府市緑が丘二丁目	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H20.12.8～H20.12.8
138	東原遺跡	北杜市長坂町大八田	454.00	北杜市長坂町大八田	中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H20.12.8～H20.12.26
139	甲斐国分寺跡	笛吹市一宮町国分	635.00	笛吹市一宮町国分	奈良～中世	学術研究	笛吹市教育委員会	H20.12.8～H21.3.27
140	塚田遺跡	笛吹市一宮町北野呂	9.00	笛吹市一宮町北野呂	縄文	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H20.12.9～H20.12.11
141	大月遺跡	大月市大月	3.00	大月市大月	縄文・奈良・平安	学校建設	大月市教育委員会	H20.12.10～H20.12.10
142	一の沢遺跡	笛吹市境川町小黒坂	254.00	笛吹市境川町小黒坂	縄文	その他の建物	笛吹市教育委員会	H20.12.10～H20.12.25
143	中尾条里	笛吹市一宮町上矢作	15.00	笛吹市一宮町上矢作	奈良・平安	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H20.12.12～H20.12.16
144	物見塚遺跡	甲州市勝沼町藤井	30.00	甲州市勝沼町藤井	縄文	農業基盤整備事業	甲州市教育委員会	H20.12.12～H20.12.20
145	滝沢遺跡	南都留郡富士河口湖町河口	300.00	南都留郡富士河口湖町河口	弥生～奈良	道路	山梨県教育委員会	H20.12.15～H20.12.19
146	美通遺跡	都留市井倉	20.00	都留市井倉	縄文	道路	都留市教育委員会	H20.12.16～H20.12.19
147	甲府城下町遺跡	甲府市朝日二丁目	5.00	甲府市朝日二丁目	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H20.12.18～H20.12.18
148	安道寺遺跡	甲州市塩山下粟生野	20.00	甲州市塩山下粟生野	中世	農業基盤整備事業	甲州市教育委員会	H20.12.18～H20.12.24
149	塚田遺跡	笛吹市一宮町北野呂	40.00	笛吹市一宮町北野呂	平安	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H20.12.24～H20.12.25
150	柳田遺跡	甲州市塩山上粟生野	120.00	甲州市塩山上粟生野	平安	農業基盤整備事業	甲州市教育委員会	H20.12.24～H21.1.30
151	（99条に準ずる）	大月市大月二丁目	2.00	大月市大月二丁目		学校建設	大月市教育委員会	H20.12.26～H20.12.26
152	坂ノ上姥神遺跡	南アルプス市徳永	10.00	南アルプス市徳永	縄文・奈良・平安	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H21.1.8～H21.1.16
153	若宮遺跡	大月市富浜町宮谷	3.50	大月市富浜町宮谷	奈良・平安	個人住宅	大月市教育委員会	H21.1.15～H21.1.15
154	増田永井条里制遺構	笛吹市八代町増田	254.36	笛吹市八代町増田	平安	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H21.1.15～H21.1.23

No	遺跡名	所在地	面積（㎡）	遺跡の種別	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
155	大月遺跡	大月市大月二丁目	170.00	集落跡	縄文・奈良・平安	学校建設	山梨県教育委員会	H21.1.16～H21.1.16
156	坂上遺跡	北杜市高根町下黒沢	4,210.00	散布地	縄文・平安・中世	道路	北杜市教育委員会	H21.1.20～H21.2.28
157	甲府城下町遺跡	甲府市中央一丁目	137.00	城下町	近世	その他の建物	山梨県教育委員会	H21.1.28～H21.2.3
158	大浜遺跡	上野原市鶴川	10.00	散布地	縄文・平安	その他の建物	上野原市教育委員会	H21.1.29～H21.1.29
159	東原遺跡	北杜市長坂町大八田	454.00	散布地	中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H21.1.29～H21.2.28
160	四本木遺跡	大月市駒橋一丁目	1.50	散布地	縄文・奈良・平安	個人住宅	大月市教育委員会	H21.2.4～H21.2.4
161	四本木遺跡	大月市御太刀一丁目	1.50	散布地	縄文・奈良・平安	個人住宅兼工場又は店舗	大月市教育委員会	H21.2.7～H21.2.7
162	上野原小学校遺跡	上野原市上野原	250.00	散布地	縄文・古墳・奈良	その他の建物	上野原市教育委員会	H21.2.16～H21.2.18
163	（99条に準ずる）	北杜市長坂町長坂上条	1,375.00			学校建設	山梨県教育委員会	H21.2.18～H21.2.19
164	壁谷遺跡	都留市大幡	20.00	集落跡	縄文	道路	都留市教育委員会	H21.2.19～H21.2.22
165		笛吹市八代町高家	3,247.95	散布地	縄文・古墳・平安～近世	道路	笛吹市教育委員会	H21.2.20～H21.3.27
166	（99条に準ずる）	大月市大月三丁目	2.00			個人住宅	大月市教育委員会	H21.2.24～H21.2.24
167	百々・上八田遺跡	南アルプス市上八田	200.00	散布地	奈良～中世	その他の開発	南アルプス市教育委員会	H21.2.25～H21.3.6
168	（99条に準ずる）	大月市御太刀二丁目	2.00			個人住宅	大月市教育委員会	H21.2.26～H21.2.26
169	内城館跡	上野原市上野原	49.00	城館跡	中世	宅地造成	上野原市教育委員会	H21.3.11～H21.3.11
170	美通遺跡	都留市井倉	35.00	集落跡	縄文	道路	都留市教育委員会	H21.3.17～H21.3.19
171	（99条に準ずる）	甲府市池田一丁目	1,594.00			その他の建物	甲府市教育委員会	H21.3.18～H21.3.19
172	甲府城下町遺跡	甲府市北口一丁目	7.80	城下町	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H21.3.23～H21.4.3
173	壁谷遺跡	都留市大幡	4.00	その他の遺跡	縄文	個人住宅	都留市教育委員会	H21.3.23～H21.3.23
174	鐘山遺跡	忍野村忍草	310.00	散布地		工場	忍野村教育委員会	H21.3.27～H21.3.28



●路線バスご利用
甲府－豊富（中道橋経由）考古博物館で下車
●高速バスのご利用（2時間）
新宿西口・・・南回り、甲府行（中道下車）徒歩5分
南甲府インター下車・徒歩10分

年　報　25

印刷日　2010 年 2 月 19日
発行日　2010 年 2 月 26日

発行所　山梨県埋蔵文化財センター
山梨県甲府市下曽根町923
TEL　055－266－3881・055－266－3016
FAX　055－266－3882
E-mail：maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

印刷所　港北出版印刷株式会社
山梨県甲府市高室町155
TEL 055－244－0466